

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

教会学校 教案誌



church school curriculum

天地は滅びるが、
わたしの言葉は決して滅びない。

ルカによる福音書21章33節

vol. **82**

2021年7~9月

「救済史」
に基づく二年サイクル 第1年

- | | |
|-----------------------------|------|
| 障がいある子どもたちに注がれる主の愛(3)..... | 小澤路華 |
| 執事職について(2)..... | 吉田 実 |
| 献身のすすめ Go To 神学校!..... | 吉田 隆 |
| 【信仰告白のあかし】もしもイエスさまだったら..... | 瀧本真祈 |
| 【教会学校訪問】山田教会..... | 高内信嗣 |

2021年7～9月カリキュラム（第82号）

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第2年—

月 日 教会暦・行事		子どもと親のカテキズム	参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
7月4日	幼児洗礼の恵み	問52	ウ小95、ハイデ74
		使徒16：16－34	使徒16：33－34
神さまは契約を守り幼い者をも救いの約束に加えて下さる			
7月11日	聖餐の恵み	問53	ウ告白29章、ウ大168－177、ウ小96
		マタイ26：26－30	マタイ26：26
キリストの十字架の恵みを共に祝い、待ち望む			
7月18日	信仰告白を目指して	問54	ウ告白29:8、ウ大171－173、ウ小97
		コリント一11:23－29	コリント二13：5
共に聖餐の食卓に与れるように祈ろう			
7月25日	恵みの方法としての祈り	問55	ウ小98、ハイデ116
		マタイ18：18－20	マタイ18：20
祈りつつ御国への道を歩んでいこう			
8月1日	感謝して歩む	問56	ウ小39、ハイデ86
		ルカ17：11－19	詩編107：15
与えられた救いの恵みと感謝をもって応えることの大切さ			
8月8日	感謝の生活の規準	問57	ハイデ86
		サムエル上15:22－23	ヤコブ1：22
聖書に従い感謝の生活を送ることは堅い土台を据える確かな生き方			
8月15日 平和主日	平和を実現する	(問5)	ウ小教理68、69、90、ハイデ105－107
		マタイ5：9	マタイ5：9
私たちは、イエスさまに従って、平和を実現する者となるように、召されていることを知る			
8月22日	感謝の道しるべ・十戒	問58	ウ小40－41、ハイデル87、88
		申命記5：1－22	申命記4：13
神さまの愛の表れである十戒が示される			
8月29日	十戒の心・ 神と人を愛する	問59	ウ小41、42、ウ大98、ハイデ93
		マルコ12：28－34	ヨハネ一3：16
神の愛を受け、神と人を愛して歩む			
9月5日	十戒の心・ 父の愛の戒め	問60, 61	ウ小35、ウ告白13、ハイデ86
		出エジ12：1－36	出エジプト20：2
神の恵みに応え十戒に生きよう			
9月12日	第一戒 神のみを神とする	問62, 63	ウ小45－48、ウ大103－106、ハイデ94、95
		申命記6：1－15	申命記6：4－5
ただ一人のまことの神さまがだけにお仕えしよう			
9月19日	第二戒 偶像礼拝とは何か	問64, 65	ウ小49－52、ウ大107－110、ハイデル96－98
		出エジ32：1－10	ヨハネ4：24
目に見えない神さまをみ言葉に従って礼拝しよう			
9月26日	第三戒 神の御名	問66, 67	ウ小53－56、ウ大111－114
		出エジ3：1－22	出エジプト3：14
主の御名をおそれつつ愛をこめて呼びかけよう			

も く じ

2021年7・8・9月カリキュラム

まえがき		
教案誌が示してきた日曜学校像	望月 信	4
巻頭説教		
教会の子どもたちに、神の祝福を願う	中根 汎信	5
障がいある子どもたちに注がれる主の愛（3）	小澤 路華	8
執事職について（2）	吉田 実	11
これからの教会学校		
次の世代に期待して	牧野 信成	15
献身のすすめ		
Go To 神学校！	吉田 隆	17
信仰告白のあかし		
もしもイエスさまだったら……	瀧元 真祈	19
教会学校訪問 山田教会	高内 信嗣	22
聖書黙想・説教展開例・分級展開例		25
7月4日		26
7月11日		36
7月18日		44
7月25日		51
8月1日		57
8月8日		64
8月15日		71
8月22日		78
8月29日		87
9月5日		96
9月12日		102
9月19日		108
9月26日		115
聖句カード		121
次号カリキュラム（2021年10・11・12月）		123
教案誌自由募金案内	教案誌自由募金案内	124
大会教育委員会出版物案内		125
あとがき		126

まえがき

教案誌が示してきた日曜学校像

望 月 信

教会学校教案誌が休刊となることを知りました。これまで何度も休止の危機にさらされながらも、委員会は困難を乗り越えて発行を続けてくださいました。また、教案誌の働きの実りの一つとして、『子どもと親のカテキズム』とその解説書『神さまとともに歩む道』が生み出されました。休刊後のカリキュラムの提供など、検討課題があることと思いますが、教案誌の働きは大切な遺産として受け継がれていくことを確信しています。委員会のこれまでのご労苦に心からの感謝を申し上げます。

先号（第81号）のまえがきで、辻幸宏教師が、改革派教会の教会学校における説教を提示したことに教案誌の意義の一つがあったと書いておられます。それを引き継いで、わたしは、改革派教会の日曜学校像を提示したことに教案誌の意義の一つがあったと申し上げたいと思います。

「本誌の基本方針」という文章があります（第13号ほか）。その見出しは次の通りです。「1. 子どもの『礼拝共同体』としての日曜学校」、「2. 分級中心より、礼拝式中心」、「3. 子ども礼拝式における説教の重要性」、「4. 説教の完成としての牧会」、「5. 教会形成の一環としての日曜学校」、「6. 伝道する日曜学校像」。

個人的なことですが、ここに示されている日曜学校像は、当時、従来の日曜学校像に満ち足りないものを感じていたわたしに、目指すべき方向を示してくれました。それが、教案誌発行の働きに参加すること

への導きになりました。

日本キリスト改革派教会において、日曜学校は教会の教育的活動に位置づけられています（「礼拝指針」第23章）。具体的な活動の第一として礼拝が挙げられています（第113条）が、「学校」という名称とあいまって、「教える」ことに重きが置かれがちになります。礼拝で御言葉が説き明かされ、教えられ、重ねて分級でも熱心に教えられます。

教案誌は、それに対する一つの修正を提案していると言えるでしょう。日曜学校は礼拝の場にほかならないのであり、礼拝共同体を建て上げることを目指しているのです。ですから、説教の重要性が主張されます。分級は牧会の場合として位置づけられ、子どもたちと対話し、祈ることが分級の中心となります。こうして、子どもとおとな、生徒と先生という関係に留まらず、一個の人格として共に神の御前に立ち、共に神を礼拝することによって、真実の信仰継承がなされていきます。そして、要となることが明確であれば、それ以外は自由にいろいろ試みることができます。教育という枠組みに捕らわれない、新しい営みが可能になるのだと思います。

この日曜学校像は、教案誌が休止しようとも継承されうる、継承されるべき、大切な遺産です。わたし自身、継承していきたいと思ひますし、あらためて確認され、広く共有されることを願っています。

（鈴蘭台教会牧師）

巻頭説教

教会の子どもたちに、神の祝福を願う

使徒言行録16章25～34節 テモテへの手紙二 3章10～17節

中 根 汎 信

現今の子どもたちを取り囲む環境には、心寒くさせるものがあります。子どもへの虐待・いじめや自殺・犯罪の低年齢化……このような社会にあつて、地の塩・世の光としての教会は、大きな使命をイエスさまからいただいています。教会に出入りしている子どもたちに、私たち教師や親は何を願うのでしょうか。心の聖い人、心の強い人、思いやりのある人、正しいことを言い、行う人に。さらにキリスト者なら、神を信じて、神に従う人、天国に行ける人になってほしいと願うでしょう。

フィリピの牢の看守と家族の救い

使徒言行録16章25～34節に、フィリピの町で伝道をしていたパウロとシラスたちのことが、記されています。彼らはその伝道の働きのゆえに、捕えられ鞭うたれ、投獄されてしまいました。明日をも知れぬ暗い牢の中で、二人は何を思い、何をしていたのでしょうか。人間的には絶望的にも思える牢の中で、なんと神に賛美と祈りを奉げていたのです。神をほめたたえる賛美歌は、人を神の御前にきちんと立たしめ、力を与えます。子どもたちと元気に賛美を奉げましょう。この世の力に負けてはおれません。もう一つは祈りです。この二人のように牢の中でも祈ることはできます。一人でも二人でも、おおぜいの人といっしょにでも、祈ることはできます。神は私たちがどこで

祈っていても聞いてくださいます。そして神は祈りに応え、助け出してくださいます。彼らの賛美と祈りを聞いておられる神は、生きておられる全能の神です。

二人が牢の中で、賛美と祈りを奉げていると、どうなったでしょうか。大地震が起こり、囚人たちの鎖も外れ、牢の戸も開いてしまいました。鎖も外れたとあるので、単なる自然現象としての地震ではありません。神の奇跡の御業でした。牢の看守は、囚人たちが逃げてしまったと思い、責任を取って自殺しようとしています。その時パウロは、「自害してはいけません。わたしたちは皆ここにいる」と言いました。すると今までパウロたちを牢に閉じ込めていた看守が、「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか」と尋ねました。投獄されていたパウロたちが、どうしたらここから出してもらえるでしょうか、助けてくださいと頼み込むところです。しかし逆に看守のほうに、救いについて教えを願い出たのです。

ヨハネの手紙一 5章4、5節に、「神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか」とあります。今は牢の中にあつても、あるいは何か心が閉ざされ縛られていても、神はそれを打ち破り、解放してくださ

います。神を信じる人は、神によって助け出され、強くされるのです。そして聖霊なる神は、信じる者を心の聖い人、心の強い人、正しいことを行う人にしていただきます。この世にあって、教師も親も、そして子どもたちも、真剣にこのことを信じ、祈り願って生きるようにしましょう。それは子どもの信仰の成長はもとより、教会が健全・健康にされる秘訣でもあります。教会の子どもたちと家庭が、神さまの恵みと力をいただいて、すっと立つ。なんと愉快なことでしょう。

パウロとシラスのこの勝利は、それだけで終わりません。さらに神の救いの御業は豊かにされます。看守一人ではなく、彼の家族も、イエスさまを信じて救われたのです。ただ大地震のショックに便乗して、やみくも洗礼を施したわけではありません。パウロたちは看守の家族の救いのために、主イエスを信じるようにと、「看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った」（使徒16：32）のです。その中には、看守の奥さんや子どもたちもいたことでしょう。神の言葉が語られなければ、どんな奇跡が行われたとしても、その場だけの信仰に終わってしまうかもしれません。私たちも、教会学校の地道な継続的な御言葉の教育が、大きな実を結ぶことを信じて、毎週の尊い奉仕に与らせていただきます。

フィリピの町にはこの後、「フィリピの信徒への手紙」に記されているような、祝福された教会が建てあげられて行きました。この看守の子どもたちが成長して、フィリピの教会の基にされていったのではと、想像しています。そう考えると、思わず讚美歌を口ずさんでしまいます。「主、われを愛す。主は強ければ、われ弱くとも、恐

れはあらず。わが主イエス、わが主イエス、わが主イエス。われを愛す」（讚美歌461）

私たちは自分が土の器であることを知っています。（コリント二4：7～9）しかし神は私たちを選び、この働きに召してくださいました。私たちが教会学校教師に召されていることは、何という光栄か、また何という責任でしょうか。子どもたちの信仰教育にあたっている、教会学校と家庭は、神の国の広がり最前線に召され、遣わされているのです。

3代目のテモテ

子どもへの信仰教育を考えるために、もう一か所、聖書の記事を見ていきましょう。テモテへの手紙二3章10～17節です。ここにはパウロの弟子で、伝道者となったテモテのことが書いてあります。3章17節は、信仰者すべてへの御言葉ですが、教会の子どもたちへの願いでもあります。冒頭にも記しましたが、私たちは子どもたちが、「どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられ」て、「神に仕える人」になってほしいと願っています。神を信じイエスさまの救いに与り、神に仕える。このことを願って、家庭と教会が協力して御言葉の教育をします。「あなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです」（テモテ二3：14、15）

またこの手紙は1章5節で次のように言っています。「あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、

わたしは確信しています」テモテには、家庭では、祖母・母の祈りと教えがありました。さらに教会では、パウロの信仰の子(テモテ1:2)・弟子として、信仰の教育を受けてきました。それは「幼い日から」、長い時間をかけた働きでもありました。テモテが神に仕える人として、伝道の働きをするようになった背景には、家庭と教会のこのような働きがあったのです。

それは子どもたちを、永遠の滅びから救います。また子どもを取り巻く、現代の惑わしから、彼らを救うことでもあります。テモテへの手紙二3章で、聖書の教育には、次の二つがあることを教えます。第一は、「この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵」(15節)としての信仰の教理です。第二は、「悪人や詐欺師は、惑わし惑わされながら、ますます悪くなって」(13節)いくなかで、「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益」(16節)という信仰の生活です。教会学校と家庭は、この二つの信仰教育を、イエスさまから委託されています。

尊敬する韓国の宣教師が言われた、次の言葉を思い起こしました。「韓国の教会の成長は、1970年代、80年代に、教会学校教育に本気に取り組んだことが、大きな要因となっている。中国のことわざにあるように、1年先が心配なら、種を蒔きなさい。10年先が心配なら、木を植えなさい。100年先が心配なら、人を育てなさい」このよ

うに言われました。人を育てる、これは今の私たちの教会でも、最重要課題の一つだと思います。教会内の子どもはもちろん、あまたいる私たちの町の子どもたちにも、何とか手だてを尽くして、福音を伝えていきましょう。この努力は100年を待たずして、大きな実を結ぶことと思います。幼い時から、教会学校教育に励めば、私たちの教会にも、多くのテモテが生み出されることでしょう。

教会学校教師と家庭にエールを

厳しい人種差別の中で、公民権運動を展開していった、マーチン・ルーサー・キング牧師は、子どもたちの未来を信じて、「私には夢がある」と言いました。私たちも、子どもたちに大きな夢や希望を持っています。現実には私たちは、さまざまの弱さや制約があるなかで、信仰生活を続けています。多忙で疲れを覚えることもあるでしょう。しかし私たちは主にある希望を持って、与えられた奉仕の業に励んでいるのです。このように日夜、献身的な努力を続けている、教会学校教師と家庭に、聖書の御言葉は、今日もエールを送っています。「わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです」(コリント15:58)

(中部中会 引退教師)

連載

障がいある子どもたちに注がれる主の愛(3)

小澤路華

1. 障がいある娘の信仰

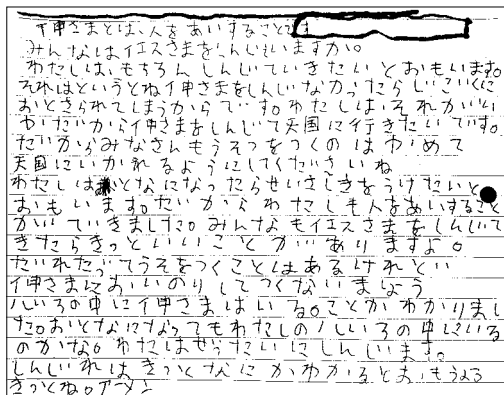
障がい者の子どもを持つ親、または教会にとって、その子(人)の信仰告白、洗礼は、決して小さくない課題の一つだと思います。どのくらい聖書を理解しているのか、神さまをどんな風に信じているのか、信仰の確認ができるだろうか。私たちの娘の事を考えてみても、その事は娘が小さなときから時々話題に上る大事なテーマでした。たとえ障がいがあるからといって、(本人も親も)よくわからないのに簡単に信仰告白を勧めることはできない。信仰がはっきり見えないのに、この子は神さまを信じている、と「信じ込む」ことはしたくない。果たしてこの子は神さまをきちんと信じる信仰を持つことが出来るのだろうか。いろんなことを考えました。それでも、彼女は少しずつ、日々の生活の中で自分に本当に助けが必要な時、自分一人では難しいかもしれない、と感じるとき、祈りの中で神さまに頼る姿を見せてくれるようになっていきました。小学生の時に、学校で友だちが自分に悪い言葉をかけてくると訴えたことがありました。その日の夜の祈りの時間に、娘は親から勧められたわけではないのに、自分の言葉で「○○くんが、良い言葉で話が出来るようにしてあげてください」と祈りました。中学校に入学後、しばらく親子で毎朝登校していましたが、明日から自分一人で登校すると決めた日、「神さま、明日から一人で学校に行きます。ちゃんと行

けるように助けて下さい」と心の不安を打ち明ける様に祈りました。その他にも、病気の人、けがをしている人のためにはよく祈りました。そんな事の積み重ねで、娘の中には神さまに対する思いは確かに築かれている事を感じていました。

2. もう一人の障がい児の女の子の信仰

娘の中学校で同じ支援学級にいた一つ上の女の子が、娘と知り合ってから数か月後から、毎週教会学校に通うようになりました。最初はお休みの日の自分の居場所、友だちと過ごせる場所、日曜日に楽しく過ごせる場所、という感覚で来ていたかもしれません。多くの小学生と一緒に日曜学校で御言葉を聞き、教会のあらゆる行事に参加し、中会の夏のバイブルキャンプにも欠かさず参加しました。そんな教会生活を数年続けたある日、彼女がノートに自分の思いを綴ったものを持ってきて牧師と長老に見せました。その内容に私たちはとても驚き、感動しました。それは、まさに彼女の信仰告白でした。自分がイエスさまを救い主として信じている事、だから洗礼を受けたいという事、そして家族みんなもいつか神さまを信じて一緒に天国に行きたいという事がしっかりと書かれていました。私たちはその子に洗礼を勧めたことはありませんでしたが、そのような思いに至って「洗礼を受けたいです」とそのノートを持ってきたのでした。彼女にとって教会は、ただの楽し

い居場所であっただけではなく、神さまの御言葉を聞き、神さまを礼拝し、そして魂を救いへと導くまことの教会として、しっかりと根付いていたのでした。その子はまだ洗礼を受けることが出来ていませんが、彼女の家族に時間をかけて理解をしてもらう努力の日々を今も過ごしています。でも、その魂はすでに神さまの子として今も成長中です。



(その手紙の一部です)

3. 障がい者の洗礼（信仰告白）への準備

そんなある日、高知教会に10年近く通い続けている軽度の知的障がいの女性が「洗礼を受けたい」と申し出ました。正直、教会としてその女性がどのくらい神さまを信じ、御言葉を理解しているのかよく分からない状況でした。でも「神さまを信じていなければ、こんなに毎週教会に来ませんよ」と言う彼女の言葉を受けて洗礼準備の学びを始めることになりました。それと同時に、その女性といつも一緒に過ごしていた娘も「自分も洗礼を受けたい」（正確には契約の子であったので信仰告白）という事になり、その女性と、娘と、前述の娘の友だちの三人で、受洗準備会が始まりました。その内容は、他の人と同じように「洗礼の6つの

誓約」についての学びです。その難しい内容を、分かりやすくかみ砕いて、三人に十分に理解できるように丁寧に牧師が導いていきました。信仰の側面では、何年も教会学校で学んできた二人は、教える前から十分に理解していることも学びの中で確認できました。また、1回の試問会できちんと受け答えができるか分からないという危惧があったので、毎回の学びに長老にも参加して頂き、それぞれの信仰を学びの最中から一緒に確認するという形をとりました。

そして6つの誓約の学びを終え、牧師も長老もそれぞれの信仰をしっかりと確認し、試問会も経て、洗礼、信仰告白へと至りました（娘の友人については先に述べたように、ご家族への理解を求めている最中です。神さまの時に必ず洗礼が受けられると信じて教会のみみんなで祈っています）。

障がいのために、その信仰がはっきりと確認できないうちは信仰告白を簡単には勧められないと思っていたその思いを、このような形で神さまが確かな実として見せて下さいました。



4. 神さまの選びの確信

実際には、発語が難しい障がい者、それゆえに意思確認が難しい障がい者の人もたくさんおられます。娘は同じ年の子よりは幼くても、言葉が話せ、ある程度の意思の

確認は可能です。今回ここで紹介したのはあくまでも知的障がいを持つ三人のケースでしかありません。でも私の確信は、なにゆえに障がいを持つ人を神さまがこの地上に置かれているのか、その理由は「こうです」とはっきり言う事は決してできませんが、でも、その障がいゆえに信仰が持てず、救いから漏れてしまうというような事があるとは決して思えません。障がいの有無に拘わらず、神さまの「選び」は障がい者の上にもあることは、この三人の姿からもしっかりと私たちに確信を与えてくれます。

それぞれの障がい児（者）を前に、御言葉を伝え、信仰へと導く過程は決して簡単ではないかも知れません。でも、教会に与えられている伝道の使命は、間違いなく障がい児（者）に対しても同じです。そして、障がい児（者）もまた、同じように神さまの栄光を映し出す器として、神さまを伝える器として、豊かに用いられます。教会学校にとっては、そのような障がい児がメンバーとして与えられている事は大きなチャレンジでもあります。必ず神さまが、良い方法を教えて下さいます。私たちはいつも謙遜に、一人ひとりの魂に誠実に丁寧に向き合う教師として、聖徒として、親として、それぞれの子どもたちと関わり続けていきたいと願います。どんな子どもたちで

あっても、やがて神さまの時に、公に「イエスは主である」と告白する日を見たい、という願いと祈りをもって歩む教会学校の教師一人ひとりの上に、神さまが必要な知恵と愛をいつも注ぎ続けてくださいますように！

『事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇る事が出来ないためなのです』
(エフェソ2：8～9)

5. 補足：高知教会での実践

高知教会では、知的障がいを持つ人が四名いますが、共同の礼拝の説教は理解が難しいので、信仰の確信と成長のためになるべく教会学校の礼拝にも参加するように勧めています。

また、昨年から彼らを中心とした「花束の会」を教会学校の一つとして正式に発足しました。一般の婦人会、青年会等の学びや交わりは難しいので、彼らの生活内でのニーズに合った、キリスト者としての生き方をテーマに楽しく学び、ときには遊び、今は彼らにとってとても楽しみな大切な会となっています。

(高知教会・教会学校教師／牧師夫人)

連載

執事職について(2)

吉 田 実

①御言葉をもって励ます

この連載では「執事職」について私なりに思うことを書かせていただいておりますが、前回は主に、キリスト教会にとって執事的働きは、教会が教会であるためになくしてはならない、教会のしるしの一つともいえる本質的な働きであるということ、そしてそれは何よりも主イエスの模範に倣う働きであり、執事職は教会員全員が各々にふさわしく「愛の奉仕」を行い、互いに助け合う共同体形成を目指して教会全体を整えまとめる働きである、ということについて述べました。特に政治規準第十章執事五十六条（執事の職務）「執事の職務は、聖書によれば、主イエス・キリストの模範に倣って、愛と奉仕の業を行い、聖徒の交わりを特に相互の助け合いにおいて具現するものである」を意識しつつ書きました。それに続きまして今回は、政治規準第五十八条（執事の任務）一「貧困・病気・孤独・失意の中にある者を、御言葉とふさわしい助けをもって励ますこと」を覚えつつ、私なりに大切だと思うことについて書いてみたいと思います。

執事の職務はキリストに倣う「愛の奉仕」の業を行うことにありますが、具体的な任務として「貧困・病気・孤独・失意」など様々な傷み悲しみの中にある方々を励ます、ということが第一に挙げられています。そして特に注目したいことは「御言葉とふさわしい助けをもって励ます」と言われて

いることです。もちろんここでは、執事が牧師と同じように御言葉の説教を行って兄弟姉妹たちを励ますことが求められているわけではありません。では執事が人々を「御言葉をもって励ます」とはどういうことなのでしょう。それは他でもない、執事自身が御言葉によって豊かに養われ、励まされていることが大前提です。そうであるからこそ、執事として執事らしく御言葉をもって兄弟姉妹を励ます道が、様々な仕方で開かれて行くのではないのでしょうか。たとえばふさわしい御言葉を葉書や手紙に添えて送ること。また様々な事情で礼拝に出席出来ない兄弟姉妹を訪問して礼拝説教の恵みを分かち合うこと。また直接御言葉を引用しなくても、自分自身が御言葉によって教えられ、励まされたことの感謝の応答として具体的な愛の奉仕に押し出されて行くなれば、無意識のうちにも御言葉による慰めや励ましがそこに実現して行くことでしょう。そしてそうであるなら、執事の任務は何よりも礼拝を大切にして、礼拝の場から遣わされる働きでなければならないということが分かります。

エルシー・アン・マッキー（PCUSA 会員、長老）はその著書「執事職—改革派の伝統と現代のディアコニア—」（一麦出版社）の中でこう述べています。「教会のつとめとは奉仕であり、まず神に対して、次に隣人に対してのものであり、隣人への奉仕は神への奉仕から必然的に生じるのである。

(中略) 恵みによる信仰のみによる義認が意味しているものは、現在私たちが神の愛にふさわしい者であるとか、あるいはこの生涯においてそのような者となり得るということではなく、ただキリストのゆえに神は私たちを受け入れるにふさわしいものと見なして下さったということである。私たちはこの賜物を信仰によって受け取るのであるが、その信仰もまた聖霊のはたらきなのであり、それは神が本当にすべての恵みの約束を私たちに与えてくださるとの確信を私たちに抱かしめるのである。この信じがたい賜物は、私たちを、感謝のゆえに(恵みに) 応答したいという願いと、応答することのできる力で満たす。今やすべての断罪から解放され、義とされ受け入れられた罪人は、神をほめ讃えることを欲せざるを得ないのである。そして神を讃えるということは言葉だけに限定されない。すなわち誰もがこの素晴らしい知らせに与らねばならず、すべての人の苦しみは癒されなければならない。なぜならキリストがやって来たのは『貧しい人に福音を告げ知らせるために……捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである』(ルカ4:18~19、イザヤ61:1~2, 58:6)のだから(前掲書50~51頁)

「神礼拝は常に重要性において優先され、隣人愛は従属的であるが、しかし〈必然的な〉帰結である。実際、隣人(すなわち、どんな人間に対しても!)への愛と正義は、通常、私たちが神を崇めるものであることの最高の証拠である」(前掲書52頁)

このように、真実な「愛の奉仕」は「真実な礼拝」の必然的帰結なのであり、そう

いう意味では執事は誰よりも礼拝を大切に、御言葉と御言葉の説教の恵みに進んで与り、その恵みを喜ぶ人であることを目指すべきです。そうすることによって執事的働きは単なる「弱者への配慮」ではなく、キリストの体としての「愛の奉仕」となります。またそのことによって「上から目線」によって援助を受ける人の尊厳を傷つけてしまうような過ちや、自力による「燃え尽き症候群」、また教会が社会問題に取り組んで世の中が良くなることによって神の国が実現すると考える「社会的福音」のような「功績主義」からも守られるに違いありません。

②ふさわしい助けをもって励ます

次に「ふさわしい助けをもって励ます」ということについて考えたいと思います。例えば「貧困」のために苦難を強いられている人に対して金銭を与えることが必ずしもふさわしい助けになるとは限らないでしょう。被災地支援にも言えることですが、ふさわしくない援助を継続することで、かえって苦難の中にある人々の自立を妨げてしまうこともあります。そうならないためには、その人の苦難の状態と原因を正しく知ることが大切です。それが一時的な緊急事態なのか、それとも一生背負って行かなければならない重荷なのか。その原因は環境によるものか、それともご本人に解決すべき課題があるのか。それらによって援助の仕方も変わってくるからです。そしてそういう苦難の状態と原因を正しく知るためには、その方の語る言葉に愛と尊敬をもって「傾聴する」と言う姿勢が大切です。「老人」「障がい者」「被災者」等とひとくくりに見るのではなく、またその人が抱えてい

る問題だけを見るのではなく、神のかたちに造られた名前のある、尊厳ある一人の人格として丁寧に接し、その人が歩んで来られた歴史を尊敬しつつ、その人の友として共感の心をもって語られる言葉に耳を傾けるということが、「愛の奉仕」の基本の構えです。そうするとき、その人の苦難の状態と原因について正しく知ることが出来るだけではなく、援助が一方的なものとなることから守られると思います。援助が一方的になされる時に、無意識のうちにも「あなたは何も出来ませんね、私は出来るけど」というようなメッセージを送ってしまい、被援助者に屈辱を与えることになってしまうことがあります。そうならないためには、支援する人とされる人と言う関係ではなく、主にあつて出会うことが許された「友」として、真実に語り合うことが大切です。そのような愛の交わりの中で、助ける側の人もじつは教えられ助けられているということ、主にある愛の奉仕は一方的ではなく相互的なものであることを知るでしょう。前回も述べました通り、執事の任務は一方的に困っている人を助けることにあるのではなく、相互に助け合う関係を教会の交わりの中に形作ってゆくことにあるのです。

③神の義と憐れみの関係

支援を必要としている人々の苦難の原因ということを考えるにあたって、「神の義と憐れみの関係」について覚えることは有効であると考えます。キリスト教会が愛の業を行うその源泉は言うまでもなく神にあり、神の愛（あわれみ）にあると言えるでしょう。ヤープ・ファン・クリンケン（オランダ改革派教会拡大ディアコニア局初代

事務局長）はその著書「ディアコニアとは何か―義とあわれみを示す相互扶助―」（一麦出版社）の中で、この神の「あわれみ」と「義」との関係について大変興味深い指摘をしています。

「イスラエルでは、義という語とあわれみという語は相互に入れ替えても差し支えない。なぜならば、論理的にこれらの二つの言葉は、ともにヘブル語のツェダーカーだからである。あわれみは義と不可分に結びついており、逆もまたしかりである。あわれみや愛、あるいは誠実さがなければ義など存在しない。あわれみは義を超えているが、しかし同時に義もまたあわれみを超えている」（前掲書40頁）

『あわれみは無慈悲なこの世における正義であり、不義の犠牲者を助けて慰めを与え、正義に関わる痛みを負うことである』（グルントマン 前掲書41頁）

「旧約聖書のディアコニア（中略）における最も重要な点は、申命記15章7節に見出される。ここでは貧困について取り上げられている。イスラエルが寄留の民であったときには貧困は存在しなかった。貧しい者というのは、敗残者、やもめ、孤児、土地なし、奴隷などであり、これらの人々の貧しさは他の人たちの不正な行いによって作り出されたものであった。貧困というのは自然に発生するものではない。貧困を克服することは可能であるが、しかし貧困を克服することは富を克服することを含んでいる。このようなことから、貧困をなくそうとすることに対する抵抗があったわけで、その抵抗は依然として続いているのである。主の約束によれば、戒めを注意深く守る者たちのうちには、もはや貧しい者はいなくなり、主の祝福をもって彼らに大い

なる繁栄が与えられる（申命記15：4）。この律法は、義と主のあわれみとは不可分であると述べている」（前掲書68頁）

すなわち、「義」と「あわれみ」は不可分であり表裏一体であり、不義と闘うことと虐げられている人々を助けて愛をもって仕えるということは一体のことなのです。エレミヤ書22章3節に「主はこう言われる。正義と恵みの業を行い、搾取されている者を虐げる者の手から救え。寄留の外国人、孤児、寡婦を苦しめ、虐げてはならない。またこの地で、無実の人の血を流してはならない」と書かれている通りです。神の義による支配ではなく不義が人を支配する時に、弱者が虐げられ犠牲になるということが必ず起こります。戦争がその最たる例です。大災害が起こる時にも真っ先に犠牲になるのは多くの場合その社会の中の弱者であり、普段は隠されているその社会が抱えている不義がその災害によって顕わになるということもあります。信仰によって神の義を恵みとしていただき、神に従って生き

る者たちの群れであるキリスト教会にとって、様々なこの世の不義と闘うということ、不義の犠牲になっている弱い立場の人たち、小さな人たちに主の愛を持って仕えるということは表裏一体のことなのです。この事を覚えることは執事職にとってとても大切であると考えます。例えば、ある兄弟姉妹の苦難の原因をさぐる中で、別の個人、あるいは集団、あるいは社会システムの不義や不正があると気付いた場合、その人を励まし助けると同時に、その不義や不正を正すために声を上げ、祈りつつその改善のために出来る限りの努力をすることは大切なことです。また国内外の様々な不義や不正が弱者を虐げているような現実に対して敏感にアンテナを張り、その情報を祈祷課題として教会全体に分ち合い、また大会執事活動委員会等とも連携しつつ募金活動や様々な支援にとり組むためのイニシアチブをとることも、執事の重要な任務の一つであると考えます。

（但馬みくに伝道所宣教教師）

これからの教会学校

次の世代に期待して

牧野 信成

教案誌の発行を閉じるに当たって、各委員が今後のことと思うことを記すよう委員会で取り決めました。CSの将来について、今遣わされている伝道所に子どもが一人もいない状況で、なかなか想像することができません。ただ、最近の日本では、小中高生の自殺者が最高を数えるなど、子どもたちが安心して幸せに生きていけない状況があるのではないかと、心に痛みを覚えながら今後のことを憂えています。

朝食を兼ねての朝の散歩に近所の公園に出かけることが時々あります。そこで、いつもベンチに座って本を読んでいる一人の女の子と出会いました。以前から気になっていたのですが、季節が冬になり、寒い日などは零下10度程になっても、女の子はそこにいたので、心配になって妻が声をかけました。様子からして学校へは行っていないようでしたが、話を聞いてみると、やはりいじめにあった経験もあって行っていないとのことでした。公園に居る理由は、家ではお母さんの邪魔になるからとのことでしたので、家庭環境の心配もしました。担任の先生がお父さんと話をしたことがあるそうですが、それでも何もかわらず、とりあえず寒さをしのぐだけでよいから家へおいでと教会の牧師館に誘いました。学校のことや家庭のことはほとんど話したがらないので、詳しい事情は分からずじまいですが、こうした行き場のない子どもたちや、もっと生活に窮している子どもたちが地域

には沢山いるはずですが、子ども食堂を開いたり、既に活発な働きをされている教会もあるでしょうけれども、私たちは何ができるかと考えます。

公園で子どもたちを遊ばせておけない状況などを考えると、昔のように素朴に子どもたちをCSに誘うことも難しく思われます。まずは親や学校に安心してもらわないといけない、と気を遣います。私がかつて勤めた西神教会では、昔ながらの素朴なCSのスタイルで伝道を続けていました。子どもがいないので止めよう、と私が言ったのにも関わらず、CS教師たちは決して止めることなく、チラシを配り、子ども会を続けました。そこに学校の信頼があったのが大きいと思いますが、あるイースターの時から、近所の男の子3人がCSに通い始めました。その子たちを中心に教会学校も教会も元気づけられて今に至ります。私が教会を離れた後、もう高校生になりましたが、教会に来続けていると聞いて本当にうれしく思っています。現代的な方法でアプローチしなければ子どもは来ない、とか、若い教師でなければ話ができない、などという憶測とは関係なく、子どもたちは自分に関心を払ってくれる教師たちを見分けて、ちゃんと教会につながってくれるのだと教えられました。

子どもたちへの信仰教育についていえば、私たちにはカテキズムがあり、聖書を自分で読もうとする聖書信仰もあります。

ですから、そんなに慌てて目先を変える必要はないと思われます。ただ、福音は、やはり人間を通して伝わります。親から子へ、また教師から生徒へ。若い世代の家庭では、子どもたちが本当によく育っている事例を見ることができます。家庭での信仰教育を見る思いがします。おそらくそれは決して

不自然なしつけではなく、キリストの愛によって家庭を築くことが自然にできているのでしょう。そうしたところで培われた人柄が、教会でも子どもたちを健やかに育ててくれることを期待しています。

(長野佐久伝道所宣教教師・大会教育委員)

献身のすすめ

Go To 神学校！

吉 田 隆

●はじめに

これをお読みになる皆さんは、イエスキリストのことが大好きな方たちでしょう。教会の礼拝や集会やキャンプに出席したり、教会の皆さんや友人たちと話をするのが好きな方もたくさんおられることでしょう。そして、自分の人生を、もしできれば、神さまのために用いていただきたいと願っている方もおられるでしょうか。

それなら、是非一度、考えてみてください。伝道者・牧師として生きるという道を。たとい、あなたが今、10代であろうと50代であろうと、男性であろうと女性であろうと、何かの障がいを持っていようといまいと。

そのことを考えていただく材料になればと、以下の文章を記してみました。ご参考になれば幸いです。

●私の場合

大学1年の春から教会に通い始めた私は、2年の春に洗礼を受けてキリスト者になりました。しかし、キリスト者として生きることと職業の選択は、私の中で必ずしも結び付いていませんでした。キリスト者として生きるとは私という人間の基本的な在り方であり、職業の選択はこの世で具体的に生きて行く一つの道だと思っていたからです。

他方で、それでは何か物足りないと感じていたことも事実です。キリスト者になろうと決心した時、自分の人生をこの真理に賭けて生きようと心に決めたからです。で

すから、キリスト者である以上、その信念を最大限に活かせる道を歩まなければどこか不徹底なように、私には思われたのです。

キリスト者になって、機会のあるごとに、いろいろな方から「牧師にならないの?」と言われるようになって初めて、牧師という“職業”の選択肢があることに気付かされました。卒業が近づくにつれ、たった一度の自分の人生を神さまのために捧げてみたいとの思いが強くなりました。少し大きさに言うなら、短い地上での生涯を永遠なもののために使いたいと願ったのです。

大学卒業後、私は超教派の学生伝道者として、午前中は豆腐屋でアルバイトをしながら午後には大学生たちと聖書の学びをするという働きをするようになりました。当時、日本はバブル経済の真只中。同級生たちは毎月驚くような額の給与やボーナスをもらう生活をする中で、私は豆腐屋と家庭教師等で得られる月7万円ほどで生活をしていました。それでも、毎日が充実して楽しく、他の友人たちがうらやましいと思ったことは一度もありませんでした。

そのような超教派伝道者としての生活から、やがて教会の牧師への道に導かれ、東京にある改革派神学研修所で3年半、神戸改革派神学校で1年の学びを終えて、牧師としての道を歩み出しました。その後も、留学資金を貯めるために2年ほど建築業で働いたり、5年間外国生活をしたり、少々異色の経歴ですが、すべてが牧師の働きに益となっているように思います。

牧師はあらゆる人と関わる仕事ですか

ら、プラスでもマイナスでも、どんな人生経験も必ず役に立ちます。

●神学校で何をするの？

神学校は、将来の伝道者を教育育てる場所です。神戸改革派神学校で働き始めて、丸7年が経ちました。多くの神学生と関わりまた現場へと送り出してきました。

神学生も実に多様な人たちですが、それでも同じ理念の下に教育を行ってきたつもりです。それは“魂の医者”を育てることです。そのために、神学校で大切にしていることは、学ぶこと・生きること・表現することです。

(1) 学ぶこと

伝道者は、自己アピールする仕事ではなく、どこまでも神の言葉を第一にして、これを伝える仕事です。ですから、神学校教育の中心には、聖書の学びがあります。しかし、聖書は大昔の古代文書ですから、それを読み解くためには古代語の習得や2000年間にわたる教会の理解を学ぶ必要があります。他方で、様々な問題を抱える人々にどのように関われば良いのか等、実践的学びも不可欠です。

(2) 生きること

神学校で寮生活をするこの意味がここにあります。伝道者は、知識だけで仕事をするのではなく、絶えず他者と関わる仕事です。ですから、自分の長所も短所も生活の中で自覚し他者と共に生きる訓練をするのです。

(3) 表現すること

伝道者には、伝える技能が不可欠です。礼拝説教を始め、様々に伝える訓練が必要です。いくら深い理解を持っていても、効果的に伝えられなければ意味がありません。この点での訓練には最も力が注がれます。

以上のような教育を2年間または(牧師になる人は)4年間にわたって行うのが神学校です。決して生易しい訓練ではありませんが、人の魂に向き合う仕事のためには欠かせないことばかりです。

とは言え、何か特殊な才能がないとできないということはありません。誰でも必ず成長します。問題は、才能の有る無しではなく、主に対して自分をお捧げしたいという純粋な献身の思いです。それさえあれば、何とかできます！

●おわりに

どんな仕事でもそうですが、簡単な仕事などありません。伝道者の仕事も同じことです。楽しいこともあれば、辛いこともあります。けれども、あらゆる人々の人生に文字通り“揺りかごから墓場まで”関わり、主イエスの福音を通して人々を永遠の命に導く働きは、汲めども尽きない喜びがあります。

コロナ禍を通して、多くの人々の魂が以前にまして病んできているように思います。世界にも闇の力が満ちています。今こそ命の光を放たねばならない教会に、伝道者・牧会者がいない！

こんな罪の世界を愛して救うために、神は御子をさえ犠牲にしたのではありませんか。働き人がいないというだけで、福音が伝えられず、主の羊たちが病んで死にかけています。

「誰を遣わすべきか。

誰が我々に代わって行くだろうか」

(イザヤ6:8)

この神の招きに応じてくださる人を求めています。コロナが続こうが終わろうが、さあ、行きましょう——Go To 神学校！

(神学校校長・甲子園伝道所宣教教師)

信仰告白のあかし

もしもイエスさまだったら……

瀧元真祈

私は両親ともにクリスチヤンの家庭に生まれ、小さい頃から教会に通っていました。改革派教会ではなかったので幼児洗礼はありません。改革派の信仰告白にあたるのが洗礼です。教会学校でイエスさまや聖書について教わってきましたが、洗礼は受けていませんでした。両親からは「洗礼を受けた時ビビッときた瞬間があった」と聞いていたので、まだビビッと来ていない私は、受けようという思いにまで至りませんでした。けれども、周りの人が洗礼準備の学びを始めているのに影響され私も学びを始めることにしました。学びの内容は、ほとんど聞いたことがある事柄を一つ一つ確認していく作業でした。その中で、唯一確信を得られなかったのが「罪」についてでした。

教会学校で教わった罪とは、嘘をつくこと、約束を破ることなどです。その上、罪とは、自分で犯すつもりはなくても犯してしまうようなものだと言われました。私は、嘘をついたり、約束を破ることが大嫌いです。「罪を犯さないように意識しているなら、普通にできることだと思うけど……」と思い、正直なところしっくり来ていませんでした。それで自分が罪人だという意識にまで、なかなか結び付かなかったのです。

その後、大学進学で上京することになり、これまで通っていた教会を離れることになりました。都内でいくつかの教会を訪ねましたが、ここだ！と思うところに出会えず、そのうち勉強やバイトに追われ、気が

付けば教会に行かなくなっていました。

そんな中、クリスマスを迎えました。ちょうど大学では試験の真最中でした。やっと試験が終わった帰り道、街頭に流れるクリスマスの讃美歌が聞こえてきました。思えば、生まれて初めて教会に行かなかったクリスマス。なんだか急に寂しい気持ちになり涙がこぼれました。「教会に行きたい……」こんな気持ちになったことは今まで一度もなかったのです。

その3ヶ月後に東日本大震災があり、東京にも大きな混乱が起きました。いざという時に頼れる場所が欲しい、という気持ちが湧きあがり、すぐ両親に相談しました。すると、ちょうど家から歩いて行ける距離に知り合いの通っている教会が見つかったので、思い切って行ってみることにしました。それが高島平キリスト教会です。その時の豊川牧師先生のお話は、不思議にもずっと私の中に入ってきたのです。実は、今までの私は、説教を聞いてもほとんど何を言っているのか理解できませんでした。もともと、人の話を耳で聴いて理解することが苦手というのも影響していると思います。大人になってもなかなか理解できなかったので、私にとって説教はもはや理解できないものなのだ、とあきらめていました。しかし、豊川先生の説教を聞いたとき、「わかった！」という感覚を初めて味わうことができたのです。今でもその時の嬉しさは忘れられません。その日以来、私は、

続けて高島平キリスト教会の礼拝に通うことにしました。

しばらく通ううち、私は、聖書のことをもっと知りたいと思うようになりました。そこで、洗礼準備の学びを希望し、2年程かけてじっくりとウエストミンスター小教理問答書を学びました。そこでも引っかかったのは、やはり「罪」の問題でした。確かに、私たちはだれもが罪人であること、その罪がイエスさまの十字架によって赦されていることは、小さい頃からずっと聞かされ、当たり前のごとで特に否定もしません。でもそれが、今の自分にとって、どういふことなのかを考えようとすると、どうしても聖書からそれてしまうような気がして、いつも真っすぐ向き合うことができなかつたのです。

学びを終えたとき、先生から「洗礼を受けるか」と問われました。一番最初に頭に浮かんだのは、初めて教会に行かなかつたあのクリスマスの夜の涙でした。学んだ聖書をしっかり理解できているか、そんなことよりも、今はただイエスさまとともに歩みたい、という願いが溢れてきました。その時私は「洗礼を受けたいです」と答えました。

先生はすぐ、教会の人たちに私の決心を伝えてくれました。その時、教会の方々から心から喜んでくださったこと、そして洗礼式の日、涙を流して喜んでくださった皆さんの姿を私は今でも鮮明に覚えています。その後、受洗される方々を見るたび、ひとりの人が救われることは何にも代えがたい喜びなのだということを実感しています。

そのような中でも、私にとっていまだに解決していないのが「罪」の問題でした。その頃、姉と一緒に高島平教会に通ってい

たのですが、ある日突然、姉が教会に行きたくないと言い出したのです。姉が礼拝を休みたいとき、私が「なぜ行かないのか」と問い詰めるので、それが辛くなったというのです。私はとてもショックでした。何よりも礼拝に行くことが一番大事だ、と信じていた私は、当然姉もそうすべきだと思いつ込んでいたのです。そのような私の思いが逆に姉を教会から遠ざけてしまっていたことに衝撃を覚えました。今振り返ると、頑張ろうとしない姉を許せなかつたのです。「私はこんなに頑張っているのにあなたは頑張らないのか」と無意識に姉を裁いていたのです。その時、初めて「私は罪人なのだ」と思い知らされました。罪が何なのか、はっきりわかつてはいませんでした。が、姉を教会から遠ざけてしまった原因が私自身であったという事実が、私を揺さぶり、罪人の意識を起こしてくれたのでした。

ほかにも、つい最近になって強く感じたことがあります。悲惨な事件や災害などで遺族の方々や被災者が必死に祈りを捧げている報道をテレビで観たとき、私は「あの人は何に対して祈っているんだろう。祈る対象がイエスさまでないなら、何の意味もないのに」とさげすんでいました。そんな私を見てイエスさまはどんな気持ちでおられたのでしょうか。「そうそう。私に祈らなければ意味はないよ」と思っておられたのでしょうか。その場にもイエスさまがおられたらどうされるだろうと想像してみました。マタイによる福音書11章28～30節に「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。

わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」とあります。きつとイエスさまは「誰に祈ればいいのかわからない、でも何かにすがらないと生きていけない」そんな辛い思いで必死に祈る人々に寄り添い、平安を与えてくださると思うのです。イエスさまを頭の中の知識だけで知っており、教会に行っているというだけで、平気で人のことを上から目線で見下したり、裁いたりしていた私は、イエスさまのお姿とは真逆だったのです。

その後聞いた説教で、ローマの信徒への手紙2章23～24節「あなたは律法を誇りとしながら、律法を破って神を侮っている。あなたたちのせいで、神の名は異邦人の中で汚されている」と教えられました。生まれた頃からイエスさまのことを知り、もうイエスさまを信じて救われているのだという私の優越感が、イエスさまを伝えるどころか、イエスさまの名を汚してしまっていた、ということがわかったのです。

先ごろ、東部中会青年会50周年決意文の作成のための話し合いがあり、様々なことを思いめぐらす機会が与えられました。改めて、私はクリスチャンとしてどう歩んでいこうか、どんな教会を作っていきたいか、を考えました。そして聖書を読む中で、罪というものは「神さまを見ないこと」ではないか、と感じるようになりました。

教会になぜ行かないの？ と姉を責めていた私は、姉が頑張らないことに憤りを感じるばかりで、神さまはどう感じておられるのだろう、とは考えたこともありませんでした。必死に何かを祈っている人々に対

しても同じで、イエスさまはこの方たちをも愛しておられ、その声を聴いてくださっているという意識さえありませんでした。まさに私は、神さまを見ずに自分の目線で裁いていたのです。

罪が見えてきた今、クリスチャンとしてどう歩んでいくのか、どんな教会を作っていきたいか、についての結論は、「イエスさまのような愛を実現したい」ということでした。それは、頑張らない人を上から目線で裁く私ではなく、イエスさまのことを知らずに必死に祈る人たちをさげすむ私でもありません。目の前で苦しんでいる人々や弱い立場の人々に寄り添い、その声を聴いてくださったイエスさまのように、私も生きたいのです。マタイによる福音書25章40節は、私に励ましを与え続けてくれます。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」この御言葉を聴くとき、私はいつもイエスさまが共におられ喜んでくださっていることを実感できるのです。

洗礼を受けてから7年が経ちました。新たな気づきは今でもたくさんあります。むしろ増えているくらいです。私にとって受洗や信仰告白は、ゴールではなくむしろスタートなのでした。信仰は日々成長して変化するもの、だからこそ、その日その日に神さまが教えてくださることをしっかりと受け止め、イエスさまと共に生き、イエスさまに似たものに変えられることを願いながら、イエスさまを証し続ける日々を歩んでいきたいと思っています。

(高島平キリスト教会・執事)

教会学校訪問

山田教会の教会学校

高内 信嗣

山田教会は伝道開始から100年を超えている歴史のある教会です。その長い歴史のはじめから教会学校の働きも同じように続けられてきました。ご高齢の教会員の中には子どもの時に教会学校の生徒だった方も数人います。このように長い歴史を持つ教会学校の働きが今も守られていることに感謝しています。

山田教会の教会学校は毎週日曜日、9時15分から行われます。出席者は小学生が来てくれることもあります。基本的に清和女子中高等学校というミッションスクールの生徒たちが中心です。山田教会は古くから清和女子中高等学校との関係が深く、教会員の中には過去に校長をされていた方、今も現職で働かれている先生がいます。良き関係が今も続いていることに感謝しています。今後もさらに良い関係を心がけていきたいと願っています。

礼拝のメッセージは基本的に教案誌に従ってお話をしています。礼拝中、初めての方も分かりやすいように 프로젝ターを用いて、プログラムや賛美歌の歌詞、カテキズムを映しています。賛美は歌いやすい曲を選び、私がギターで伴奏をしています。

教会学校のスタッフは私を含めて3人という少ない人数ですが、祈りつつ、力を合わせて、生徒たちに仕えています。

コロナ禍になり、一時期は教会学校を行うことができないこともありました。現

在は守られて活動を続けることができています。コロナ禍以前は地域の子どもを招いたお楽しみ会を不定期に行っていました。地域の小学校に案内配布の許可をとり、700名程の小学生にお楽しみ会の案内を配りました。お楽しみ会は短いメッセージ、パフェ作り、ゲーム大会などを行い、楽しい時間を過ごします。毎回、20名程の参加者が与えられ感謝です。

お楽しみ会が再開できることを心から祈っています。

また、2019年12月に非常に印象的な経験をしました。小学校2年生の一つのクラスが、学校の町探検の授業で、山田教会に訪問してくれました。小学生たちはずっと教会の建物が気になっていたということでした。30分くらいの時間でしたが、驚くほど小学生たちの質問が飛び交いました。「なんで教会は十字架のマークがあるの?」、「牧師先生はどんな仕事をしているの?」、「イエス・キリストってどんな人?」、「聖書って何が書いてあるの?」どれもキリスト教の急所をつく質問ばかりでした。目を光らせる小学生たちに答える時間は牧師として至福の時間でした。改めて、地域の子どもたちは教会について関心を持っていることに気付かされました。また感謝なことにその後、子どもたちからお手紙を頂き、授業参観で行われた町探検の発表に招待されました。子どもたちが丁寧に教会のことやイエスさまのことを話してくれました。

本当に貴重な経験ができ、主の導きに感謝しています。

町探検で訪問してくれた小学生たちの中で後日、教会学校に来てくれた子もいました。改めて、この地域に山田教会が建てられている意味を再確認することができました。山田の地域に住んでいる子どもたちへの働きかけを今後も続けていきたいと思えます。

地域の子どもたち、ミッションスクールの生徒たち、契約の子どもたち。山田教会の教会学校に委ねられている働きは大きいですが、これ以上に光栄なことはありません。子どもたちにイエス・キリストの福音を伝えていく働きを祈りつつ、知恵を出しながら、今後も希望を持って続けていきたいと願っています。(山田教会牧師)



お楽しみ会のパフェづくり



お楽しみ会のゲーム大会



教会学校の礼拝の様子

聖書默想・説教展開例・分級展開例

7月4日 使徒言行録16章16～34節（カテキズム問52） 【解説と黙想】

幼児洗礼の恵み

問52は洗礼についてを問う問51が基礎となっている。洗礼が信者の子どもたちにも授けられること（「幼児洗礼」）の理由が記される。

幼児洗礼について

キリスト教会は伝統的に幼児にも洗礼を授けてきたが、宗教改革の時代に幼児洗礼の是非が問われることになる。

幼児洗礼に対する反対論は主に二つにまとめられる。一つは、洗礼は自覚的な信仰（信仰の告白）に対して授けるべきであるという理由である。もう一つは、聖書が明確に幼児洗礼の是非を記していないということである。

これらの主張に向き合うには、改めて洗礼それ自体の意味を吟味する必要がある。問51によると「洗礼は、イエスさまと結び合わされ、罪赦され、永遠の命が与えられ、神さまの子どもとされたことを示す礼典」である。自分の力ではなく救い主イエスキリストの御業の確かさが示されるのが洗礼である。（問24、25参照）。

「神さまの恵み深い契約に従って」

神の民イスラエルは、大人になって初めてその集団に入るわけではなく、子どもたちも当然一緒であった。大人も子どもも神の契約に基づく一つの共同体であった。神の契約は子どもたちにも与えられているのである。それはまた、創世記における“アブラハム契約”においても示されているこ

とである。アブラハムに示された神の契約は、アブラハム個人ではなくアブラハムの子どもたちとも、アブラハムの家のすべての者の子とも結ばれたのである。

また、当該聖書箇所である使徒言行録16章には家族全員が洗礼を受けたことが記されている。大地震が起き、牢の囚人たちが逃げ出していく。自殺をしようとする看守に対して、囚人であったパウロとシラスは「主イエスを信じること」によって「あなたも家族も救われる」と告げる。そして、家族の者も皆が洗礼を受ける（27～34節）。ここには当然子どもも含まれていたことと容易に想像できる。信者の子どももまた「神さまの恵み深い契約」の一員であることが示されるのが幼児洗礼である。

親と教会の責任

周りの信仰者はその子が自分の口で信仰を告白する日を待ち望むのであるが、信仰教育において親と教会がその責任を負っていることがカテキズムには記されている。

改めて、教会学校を中心とする私たち自身の信仰教育の姿が問われる設問でもある。幼児洗礼を受けた者が自分の口で信仰の告白をするその日を待ち望み祈りながら、神さまから託された信仰継承の御業に仕えたい。

説教へ

幼児洗礼を受けている子どもたちにとって幼児洗礼の恵みを伝えることが大きな

テーマであるが、教会学校出席者の中には未信者の家庭の子があり、信者の子であっても何らかの事情によって幼児洗礼を受けていない子どもがいることが当然想定される。

幼児洗礼について語ることが彼らにとって劣等感を味わせるようなものにならないような配慮も必要である。幼児洗礼を受けていない子どもたちにとっても喜びとなるような説教展開を目指したい。(大宮季三)

《参照聖句》 創世記17章9～14節

《教理問答》 子どもと親のカテキズム問24、25、51、ウエストミンスター小教理問答問95、ハイデルベルク信仰問答問74

7月4日 使徒言行録16章16～34節

【説教展開例】

幼児洗礼の恵み

◇..... 単元のねらい◇

カテキズム問42に基づいて、幼児もまた神の契約に加えてくださるという「幼児洗礼の恵み」を示しつつ、幼児洗礼を受けていない子どももまた神に招かれていることを伝えたい。

「子どもへの神の眼差し」

序

先週は洗礼について学びました。今日は、その続きです。一緒に問52を読んでみましょう。

問52 信者の子どもたちにも洗礼をさずけるのはどうしてですか。

答 信者の子どもたちも、神さまの恵み深い契約に従って教会の一員だからです。親と教会には、その子が自分の口で信仰を告白するまで導く責任があります。

洗礼式って見たことありますか？ 洗礼式とは、イエスさまによって救われて神さまの子どもにされたということが、水を注がれることで表されるものでした。

大人の方が洗礼式を受けるときには、「イエスさまを自分の救い主として信じます」という信仰の告白があつて、牧師先生から水が注がれます。でも、親が洗礼を受けている場合、まだ話すことができず、「イエスさまを信じます」って言うことができない赤ちゃんにも、教会は洗礼をさずけるんですね。このことを「幼児洗礼」と言います。

「イエスさまがわたしの（僕の）救い主

です」って自分の口で信仰を告白することはとっても大事なことです。でも、それができない赤ちゃんも信者の子どもであれば洗礼を受けるんですね。とっても不思議なことに感じるかもしれませんね。実際、「自分で信仰を告白できない小さな子には洗礼を受けさせるべきじゃない！」と考える人もいますが、小さい子どもにも洗礼を受ける意味を聖書から考えてみましょう。

本論

先ほど読んだ聖書の箇所には、実は「幼児洗礼」と関係することが書かれていました。どこに書かれていたかわかりましたか？

ここには、パウロとシラスがイエスさまのことを宣べ伝える旅の途中での出来事が記されています。パウロとシラスは、占いの霊に取りつかれていた一人の女性に出会います。そして、「イエス・キリストの名によって」その霊を追い出すんですが、そのことから牢屋に入れられてしまいます。すると突然地震が起きます。牢屋の戸が開いて、牢屋にいる人の鎖が外れます。すると、牢屋を見張っている“看守”は、「みんな逃げちゃった！ やばい！ 自分のせいにされてしまう！」と思ってしまう剣で死のうとします。そこでパウロは「死んで

はいけない！」と叫びます。でも、どうすればよいかかわからず、看守は震えています。パウロとシラスは「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」と伝え、イエスさまのことを宣べ伝えます。こういう不思議なことが起きて、看守はイエスさまのことを信じるんですね。そしてこの後ですね、誰が洗礼を受けたか注意して33節を読んでみましょう。

「自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた」

看守だけではなく家族皆が洗礼を受けたんですね。ここには何人家族だったとか、詳しいことは書かれていませんが、「家族皆」ということは、やはりこの時子どもと一緒に洗礼を受けたんだと思いますね。

同じようなことが旧約聖書からもわかります。神さまがアブラハムに対して契約を結ばれたとき、その相手はアブラハムだけでなく、アブラハムの子どもたちとも結ばれました。同じように、出エジプトの時も、神さまの契約に入れられたのは大人だけではなく、子どももたくさんいました。聖書は、神を信じる民と共にその子ども達もまた、神さまの大切な契約のメンバーの一員なんですね。

「教会は神の家族」(問42)だということを少し前に学びましたが、お家の人に「子どもは家族じゃない！」なんてことは普通は言われませんか。皆もお家の中では家族の立派な一員です。それと同じように教会でも、たくさんのお奉仕ができないから、聖書の知識があまりないから「家族じゃない！」ということはありません。信者の子どもも神さまの契約のメンバーだという神

さまの恵みが表されるのが幼児洗礼なんですね。

結び

大事なことは、神さまは子どもだからといって「邪魔」とは言わないということです。むしろ、イエスさまは子どもたちを招いておられます。イエスさまはこれにおっしゃっています。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない」(マタイ19:14)。幼児洗礼を受けている子も、受けていない子も、同じように今日、イエスさまは私たちを教会に招いておられます。教会に招かれているということはイエスさまのところ招かれているということです。カテキズムの答えの中に「親と教会には、その子が自分の口で信仰を告白するまで導く責任」があると書かれていましたね。皆さんはイエスさまにとってとても大切な存在です。その大切な皆さんだからこそ、親も教会もみなさんのことをとても大切にしようと神さまは教えておられます。

先ほどの看守と看守の家族が洗礼を受けたときの様子が34節に記されています。「神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ」とあります。

今教会に招かれている皆さん一人一人が自分の口で、「イエスさまはわたしの救い主です」と信仰を告白する日は皆さんの人生の中でとても大切な日で、大きな喜びの日です。ですが、その日は皆さんだけの喜びの日ではありません。

先に信仰告白をしている周りの大人たち、お父さんやお母さん、教会の人たちみんなが大きな大きな喜びに包まれる日です。

先生たちはその日をととてもとても楽しみにしています。その日を待ち望みながら、今日もこうやって一緒に礼拝を捧げて、お話をしています。

そしてその日は、私たちがいる地上だけが喜ぶ日ではありません。神さまがいらっ

しゃる天も大きな大きな喜び包まれる日です。

その喜びの日に向かって、神さまは今日も私たちを教会へ招いていてくださいます。 (大宮季三)

《今週の暗唱聖句》

まだ真夜中であつたが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。この後、二人を自分の家に案内して食事を出し、神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ。(使徒言行録16章33, 34節)

7月4日 使徒言行録16章16～34節

【分級展開例A】

幼児洗礼の恵み

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：名前を呼び、顔を見る。子どもたち一人一人の、今日の様子を知る。(何かお話しする子がいれば、よく聞いてあげる)

讚美：子どもが覚え喜んで歌えるような讚美歌を選ぶ。

(讚美歌21・189番ちいさいこどもの等)

お祈り：教師が子どもたちのため、分級のためにお祈りする。

幼い子どもたちも、神さまの救いの恵みにいれられている(入れられる)ことを伝え、一緒に感謝し、喜ぶ

例1：子どもに合わせて、答えられる質問を準備し、クイズ形式で対話をする。

今日聞いたお話しを思い出してみようね。みんなに聞くよ。おはなしクイズ第1問!

・今日のお話しに出てきた人は誰?

—パウロ、シラス、看守(牢屋の見張り)とその家族—パウロとシラスさんは、悪いことしてないのに捕まって牢屋に入れられていた。

・牢屋で何が起こった?

—大地震。牢屋の戸が全部開いて、囚人全員の鎖も外れてしまった—

・看守はどうした?

—囚人皆が逃げたと思い、死のうとした—

・パウロさんは何と言った?

—死んじゃだめだよ。皆ここにいます—

・看守はどうした?

—ひれふして、救われるためにはどうすべきかを聞いた—

・パウロとシラスは何と言った?

—主、イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます—

・看守はどうした?

—イエスさまを信じ、家族皆で洗礼を受けました—そして、神さまを信じる者になったことを家族みんないっしょに喜んだ。

(契約の子に向けて) ○○ちゃんも、洗礼を受けています。○○ちゃんも、神さまの子どもとされて、罪ゆるされている、永遠の命をいただいて、いつもいつまでもイエスさまといっしょです。神さまが○○ちゃんをこの恵みに入れてくださっています。嬉しいね。

(その子の幼児洗礼のときの様子や、喜びを言葉で伝える。写真があれば、一緒に見る)

(未信者の子に向けて) 誰でも、イエスさまを信じる人は洗礼を受けることができます。

神さまは、大人だけじゃなくて、〇〇ちゃんのこと本当に大切に大切に思っていてくださって神さまの子どもにしようと呼んでいてくださっています。〇〇ちゃんと〇〇ちゃんの家族みんなを神さまの恵みに招いていてくださいます。

例2：花飾りの冠や、王冠を工作する

(材料は、カチューシャや造花、画用紙など)

神さまの子どもとされている恵みを伝えながら、いっしょに楽しく作る。

終わりのお祈り

子どもが自分の言葉で一人一人、順番にお祈りする。(お祈りカードを用意しても良い)

7月4日 使徒言行録16章16～34節

【分級展開例B】

幼児洗礼の恵み

幼子を招く神さま

洗礼は、私たちがイエスさまと結び合わされ、罪を赦していただき、永遠の命をいただいて、神さまの子どもとされたことを示す教会の礼典ですね。

お父さん、お母さんと一緒に礼拝に来ている小さなお友達は、洗礼を受けられると思いますか。

「子どもと親のカテキズム」問52 (p31) を読んでみましょう。

問52 信者の子どもたちにも洗礼をさずけるのはどうしてですか。

答 信者の子どもたちも、神さまの恵み深い契約に従って教会員の一人だからです。

アブラハムという人を知っていますか。昔、神さまはアブラハムを選んで、こう言いました。

「わたしは、あなたとの間に、また後に続く子孫との間に契約を立て、それを永遠の契約とする。そして、あなたとあなたの子孫の神となる」

神さまはアブラハムに、「あなたとあなたの子孫の神となる」と約束されました。「それを永遠の契約とする」と。

神さまが決めた「永遠の契約」ですから、21世紀の今でも、変わりませんね。

神さまは、大人だけの神さまではありません。お父さん、お母さんに抱っこされて礼拝に来る赤ちゃんや小さな子どもたちの神さまでもあるのです。

この神さまの恵みの約束に感謝して、教会では幼児洗礼を授けるのです。

7月4日 使徒言行録16章16～34節

【分級展開例C】

幼児洗礼の恵み

先週は大人の礼拝について勉強しました。今週は「幼児洗礼」について勉強します。

先週もお話ししましたが、洗礼には、神さまへの信仰を告白した人が受ける「成人洗礼」と、小さな子どもや赤ちゃんが受ける「幼児洗礼」があります。

- ・「洗礼」がどう言うものか整理する（幼児洗礼について改めて考える）

神さまを信じた人が洗礼を受けて、クリスチャンになるのに、どうして小さな子どもや赤ちゃんが洗礼を受けることができるのだと思いますか？

（自由に考えてもらいましょう）

- ・ポイント1：神さまは「私たち」を救ってくださること

子どもと親のカテキズムを見てみましょう。二つ理由があることがわかります。

一つ目は、「信者の子どもたちも……教会の一員」だからです。

今日の（子どもの）礼拝の聖書箇所にありましたように、イエスさまを信じる事で、「あなたも家族も救われます（使徒16：31）」とされています。神さまを信じる人が教会の一員なのは当然ですが、信じる信者の子どもたちも教会の一員です。だから、信者の子どもたちは洗礼を受けることができます。

- ・ポイント2：信仰告白を約束する

二つ目は、「親と教会には……信仰を告白するまで導く責任」があるということです。

大人の洗礼は、イエスさまを信じることを告白して洗礼を受けます。子どもの洗礼は、まず洗礼を受けて教会の一員になり、親と教会がその子どもがイエスさまを信じることを告白するまで育てる約束をするんです。だから、幼児洗礼を受けた子どもたちも結果としてイエスさまを信じて教会の一員になるんです。

- ・救いはまず神さまの恵みであるという点は共通

大人の洗礼を受けた人も、子どもの洗礼を受けた人も、神さまの恵みと約束の中で、神さまを信じる者とされて、教会の一員になるところは一緒ですね。

- ・成人洗礼と幼児洗礼のそれぞれの良いところを考えてみましょう。

【分級展開例D】

続・聖書の世界を知ってるかい？（植物編）

聖書（新共同訳）に出てくる植物にはどんなものがあったでしょうか。まず、申命記 8 章 8 節を開いてみると、そこに「小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ぎくろ、オリーブ」が登場します。これに「なつめやし」（ヨエル 1：12、他）を加えるとイスラエルの 7 つの特産物になります。他にも聖書の世界を特徴づける植物には次のようなものがあります。

1. ミルトス（ネヘミヤ 8：15、イザヤ 41：19、55：13、ゼカリヤ 1：8、10、11）
2. りんご（箴言 25：11、雅歌 2：3、5、7：9、ヨエル 1：12）
3. ヒソブ（出 12：22、レビ 14 章、民 19 章、列王上 5：13、詩 51：9、ヨハネ 19：29、ヘブ 9：19）
4. レバノン杉（サム下 5：11、列王上 5：13、詩 104：16、イザヤ 2：13、他）
5. パピルス（出 2：3、ヨブ 8：11、イザヤ 18：2、35：7）
6. アーモンド（創 30：37、43：11、出 25：33、34、民 17：23、コヘレト 12：5、エレミヤ 1：11）
7. 糸杉（サム下 6：5、列王上 5：22、詩 104：17、雅歌 1：17、イザヤ 14：8、55：13、他）
8. 茨とあざみ（創 3：18、ヨブ 30：7、イザヤ 34：13、エゼキエル 2：6、ホセア 10：8、マタイ 7：16、ヘブライ 6：8）

「りんご」は創世記には出て来ませんね。アダムとエバが禁じられた木の実を食べたのは、「善悪を知る木」でした。また、ヨナ書 4 章に登場する「とうごま」は独特です。どんな植物か見たことがありますか？「ひまし油」の原料でもあります。インターネットで検索すると写真が出てきますから、一度ご覧になってください。

7月11日 マタイによる福音書26章26～30節(カテキズム問53)【解説と黙想】

聖餐の恵み

教理の解説

問53 聖餐(主の晩餐)とは何ですか。

答 イエスさまが命じられたとおりに、パンとぶどうジュース(ぶどう酒)を用いて行われる礼典です。それにより、イエスさまの十字架でさかれた肉と流された血によってなしとげられた救いを覚えます。聖霊によってイエスさまと結び合わされて、罪の赦しと永遠の命の祝福に養われます。神さまの子どもたちといっしょに祝いながら、再び来られるイエスさまを待ち望みます。

以下は、日本キリスト改革派教会大会教育委員会著「神さまと共に歩む道『子どもと親のカテキズム』解説」166～169頁の抜粋です。

(1) 聖餐(主の晩餐)とその祝福

聖餐は、パンとぶどうジュースを用いて行いますが、それはイエスさまの十字架による贖いの御業を表しています。イエスさまご自身が、弟子たちとの最後の食事のときに、パンについては「これはわたしの体である」と言われ、ぶどうジュースについては「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」と言われました(マタイ26:26、28)。パンはイエスさまの十字架で裂かれた体を、ぶどうジュースはイエスさまの十字架で流された血を表します。ですか

ら、このパンとぶどうジュースにあずかるときに、十字架の上で私たちのために死んでくださったイエスさまの贖いの御業を覚えることになります。パンとぶどうジュースにあずかるとき、聖霊の働きによって、イエスさまご自身と結び合わされ、イエスさまご自身がそこにいてくださり、その救いの祝福を受け取ります。そのとき、私たちは確実に罪が赦されている事実を確信させられます。また、復活の主イエスによって永遠の命に生かされている事実も確信させられます。

(2) 洗礼との共通性と違い

聖餐も、洗礼と同じように、イエスさまによる救いの真理を表す礼典です。キリストとの結合、罪の赦しと永遠の命、神さまの子どもとされることが表されます。しかし、両者の間には違いもあります。洗礼は一回的な決定としての救いの恵みを表すのに対して、聖餐は継続的な御業としての救いの恵みを強調します。ですから、洗礼はただ一度だけ受けるものですが、聖餐は繰り返し何度でも受け続けます。

(3) いっしょに祝いながら、待ち望む

聖餐は、一人ひとりがイエスさまの恵みをいただく食事であると同時に、信仰者同士の交わりの中であずかり、その交わりを深めていく食事です。また、聖餐は、十字架という過去を思い起こす食卓であると同時に、現在も十字架と復活のキリストによ

る救いの祝福にあずかりつつ、さらにキリストの再臨という未来を待ち望む食卓でもあります。聖餐は、神の国の祝宴を目指しつつ、すでに地上でその祝宴を先取りして

いるとも言えます。イエスさまの十字架による救いと、その救いによって約束された神の国の喜びが、聖餐に表されています。

(小澤寿輔)

《参照聖句》 マタイによる福音書26章26節

《教理問答》 ウ告白29章、ウ大168～177、ウ小96

7月11日 マタイによる福音書26章26～30節

【説教展開例】

聖餐の恵み

◇..... 単元のねらい◇

子どもたちに聖餐の持つ意味とその恵みの深さを教え、契約の子はやがて信仰告白に導かれ、未信者家庭の子は成人洗礼に導かれることで、聖餐の恵みに与れるということに希望を持てるように、集まる子ども一人ひとりのために祈りつつお話ししたい。

「聖餐の恵み」

おはようございます。これまでぼくたち私たちは、「礼典ってなんだろう」、「洗礼ってなんだろう」というお話を聞いてきましたね。「礼典」とは何でしょう。「それは、私たちの弱い信仰を支える柱のようなものですよ、礼典には洗礼と聖餐の二つがありますよ」と学びましたね。また、「洗礼はイエスキリストを信じた人の生活（信仰生活）の第一歩で、一生に一回受けるのですよ」と学びましたね。

今日は、もう一つの「礼典」である「聖餐」についてお話ししたいと思います。みなさんは、礼拝の中で「聖餐式」が行われるのを見たことがありますね。大人の人達だけがパンを食べられ、ぶどうジュースを飲んで「いいな」と、羨ましく思うお友だちもいるかもしれませんね。教会の大人たちの中には、「わたしも皆と一緒にパンを食べたい、ぶどうジュースを飲みたい」と思ったのがきっかけでイエスキリストを信じるようになった人もいますね。

では、この聖餐式は、ただ「美味しい」とか「食べられて嬉しい」というだけのものなののでしょうか。それとも、もっと深い意味があるのでしょうか。

先ほど読んだマタイによる福音書26章26

節から30節は、イエスキリストが捕らえられて十字架につけられる前の夜、イエスキリストとお弟子さんたちの「最後の晩餐」の最も重要な場面が書かれています。その「最後の晩餐」の席で、イエスキリストは、聖餐式をすようにとお定めになりました。

(1) パンとぶどうジュースについて

イエスキリストがお弟子さんたちと共に最後の食事をしておられるとき、イエスキリストはパンを取り、祝福の祈りを献げてから、それを裂いてお弟子さんたちに渡して言われました。「取って食べなさい。これはわたしの体である」。ここでイエスキリストは、パンを「わたしの体である」と言われましたね。小麦粉から造られたはずのパンが、人間の肉と同じとは、どういうことでしょうか。実は、この裂かれたパンは、イエスキリストの体を表しているのです。イエスキリストは、ご自分の体を十字架の上に献げられ、そこで裂かれた体によって、救いを求めるすべての人の罪が赦されること、そして、神さまに赦されて救われることを思い起こすために、そのように言われたのですね。

イエスキリストは、パンに続いてぶどう酒の入った杯（コップ）を取り、それをお弟子

さんたちに与えて言われました。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」。ぶどう酒も、実際は血ではなくて、ぶどう酒です。でも、それは「罪が赦されるように、多くの人のために流される」わたしの血（イエス・キリストの血）を表します。

ここで、「ために」という言葉がありましたね。これは、「誰々に代わって」という意味を持ちます。ですから、「罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血」とは、「罪が赦されるように、多くの人に代わって流されるわたしの血」という意味になります。これは、イエスさまが、ぼくたち私たちの罪が赦されるために、ぼくたち私たちの身代わりとして十字架に死んでくださったことを示します。皆さんもよく知っている通り、イエスさまは、ここにいる〇〇君や△△ちゃんの身代わりとなって死んでくださったのだよね。それは、〇〇君や△△ちゃんが、イエスさまを救い主と信じると、罪が赦されて天国に入れるようになるためなのだよね。そのことをぼくたち私たちに思い出させるために、パンとぶどうジュースをいただく聖餐式というものを、イエスさまはお定めになったのだね。

(2) いっしょに祝いながら、待ち望む

イエスさまはまた、「言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい」と言われました。これは、どういう意味でしょう。実は、イエスさまは、十字架にかかれる前の夜が、お弟子さんたちと一緒にぶどう

ジュースを飲む最後の日ではないと言っておられるのですね。次回があるのです。それはいつでしょう。イエスさまは言われました。「わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲む日」です。これはいつのことを言っておられるのでしょうか。そうです。終わりの日です。その日、天国において私たちの救いが完成します。そのとき、イエスさまを救い主と信じる私たちは、皆、神の国（天国）でイエスさまと共に盛大な祝宴を持つ（お祝い会をする）ことになります。その神の国（天国）での盛大なお祝い会を目指しながら、地上に生きている間にその祝宴を先取りしてお祝いする、それが聖餐式です。イエスさまの十字架によってぼくたち私たちが救われるという約束と、神の国（天国）に入れていただけるという喜びが、聖餐に表されています。

まとめと適用

イエスさまは、①ご自分の十字架の死が、ぼくたち私たちの身代わりであること、また、②イエスさまの死は、イエスさまから神に献げられるいけにえであること、それから、③このいけにえによってぼくたち私たちの罪が赦されたこと、を教えてくださいました。イエスさまの死によって、イエスさまを救い主と信じる私たちが罪赦されて必ず救われることを、神さまは約束してくださいませ。聖餐式は、こういうイエスさまの死の意味を教え続けるために、また私たちが覚え続けるために定められたものです。私たちはイエスさまを記念し、イエスさまに結び合わされていることを、聖餐式の度に確認していくのです。

皆さんの中には、小さいときに幼児洗礼を受けて「契約の子」と呼ばれるお友だち

がいれば、まだ洗礼を受けていないお友だちもいると思いますが、「契約の子」はいずれ大人の信仰を持つようになって信仰告白をする日が来るでしょう。また、洗礼を受けていないお友だちは、いずれ大人の洗礼（成人洗礼）を受けて、信仰生活を始めることになるでしょう。そうすると、皆さんも聖餐の恵みに与ることができるようになります。そのときに、今日聞いて学んだことを思い出しましょう。聖餐式を大切にしていきましょう。毎回、聖餐式の深い意味を心の中で思い巡らせ、神さまに感謝して聖餐式に参加しましょう。きっと恵みと感謝に満ち溢れた、喜びのときとなることでしょう。

お祈り

天の父なる神さま、今日はイエスさまが定められた聖餐式について知ることができて感謝いたします。聖餐式を通して、昔、イエスさまがぼくたち私たちのために死んでくださったこと、そして、イエスさまが再び来られることにしっかりと目を向けて、方向を見失うことなく歩みを進めていくことができますように、私たちを導いてください。この祈りと願いを私たちの救い主イエス・キリストの御名を通して御前にお祈りいたします。アーメン。

(小澤寿輔)

《今週の暗唱聖句》

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である」

(マタイによる福音書26章26節)

7月11日 マタイによる福音書26章26～30節

【分級展開例A】

聖餐の恵み

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：名前を呼び、顔を見る。子どもたち一人一人の、今日の様子を知る。(何かお話しする子がいれば、よく聞いてあげる)

讚美：子どもが覚え喜んで歌えるような讚美歌を選ぶ。
(讚美歌21・189番ちいさいこどもの等)

お祈り：教師が子どもたちのため、分級のためにお祈りする。

聖餐の恵みを伝え、共に感謝する

聖餐について、幼い子どもたちに言葉だけで伝えるのは難しいですね。特に、今はコロナ対策のために聖餐式を行わずにいる教会もあると思います。実際に聖餐式を見たり出席することが無い場合、その様子を思い出すことは難しいかもしれません。

だからこそ、教師自身が聖餐の恵みの本質をしっかりと掴んで受けとめ、目の前にいる子どもたちにその恵みを、その子に分かる言葉で伝えましょう。

例：イエスさまは、私たちのために十字架にかかって死んでくださいました。そのイエスさまは、私たちにこう言ってくださっています。

「わたしは、あなたのために十字架についたよ。十字架にかかったわたしの体と、わたしが流した十字架の血によってあなたの罪はゆるされ、あなたは清いのです。これは、わたしからあなたへのプレゼントだよ」

みんなは、何と言いますか？

「ありがとう」

そうだね。

神さまほんとうにありがとうございます。神さまに感謝して、賛美しましょう。

“イエスさまありがとう”

(YouTube 動画で、可愛い子どもたちが歌っているものがあります。

→ <https://youtu.be/30SH1smfGeM>)

終わりのお祈り

子どもが自分の言葉で一人一人、順番にお祈りする。(お祈りカードを準備しても良い)

“イエスさまありがとう” 歌詞

イエスさまごめんなさい わたしのつみのため じゅうじかですんでくださって
イエスさまありがとう わたしを かみさまのこどもにしてください

あかるくかがやこう よぞらのほしのように かみさまのこどもだから
あかるくかがやこう よぞらのほしのように かみさまのこどもだから

7月11日 マタイによる福音書26章26～30節

【分級展開例B】

聖餐の恵み

聖餐式って、何だろう？

毎月、教会で行われていた聖餐式が、コロナの感染予防のためにお休みになっている教会が、たくさんあります。今、この時に、聖餐式の意味をよく学んでおきましょう。

今日は、クイズ形式でやってみます。

Q.1 聖餐式を行うように命じたのは、誰でしょうか。

1. アブラハム 2. モーセ 3. 天使 4. イエスさま 5. 弟子たち

Q.2 聖餐式で食べたり、飲んだりする物が二つあります。何でしょうか。

Q.3 パンは、イエスさまが十字架で裂かれたおからだ、ぶどうジュースは、イエスさまが十字架で流された血を表しています。イエスさまは、なぜ十字架に架かったのでしょうか。(十字架は死刑です。イエスさまは犯罪人だったのでしょうか)

Q.4 パンを食べ、ぶどうジュースを飲むたびに、わたしたちは、イエスさまによって与えられた、〇〇の赦しと〇〇〇〇の〇〇〇の恵みを覚えて、感謝します。

Q.5 聖餐式は、いつまで続けるのでしょうか。

1. 10年後 2. 50年後 3. 100年後 4. 気が済むまで
5. イエスさまが来られるまで

正解は、これです。「子どもと親のカテキズム」問53の答を読んでみましょう。

7月11日 マタイによる福音書26章26～30節

【分級展開例C】

聖餐の恵み

今週は、聖餐式についてです。

・聖餐式は何をするのか

聖餐式は、今日の礼拝の聖書の箇所を書いてあるように、十字架にかけられる前の晩の食事の時、いわゆる「最後の晩餐」を記念した礼典です。

教派によってやり方は少しずつ違いますが、私たちの教会では、一口サイズの食パンと小さなカップに入ったぶどうジュースを、牧師さんが分けて、長老さんたちが配って、みんなで食べるやり方をしています。

イエスさまの実際の時には、この夕食は「過越の食事」でしたから（マタイ26：19）、食卓にあったのは「酵母を入れないパン」だった筈です（出エジプト12：15、13：6）。おそらく大きな、膨らんでいない平べったいパンをイエスさまが小さくちぎって弟子たちに分けたのでしょう。ぶどう酒の杯も大きな杯をみんなで飲んだようです。

・聖餐式の意味（子どもと親のカテキズムと聖書を開いてみましょう）

今日読んだ、マタイによる福音書では、裂かれたパンと赤いぶどう酒が、イエスさまが私たちの罪の赦しのために流される血、十字架のことだと説明されています。私たちは、聖餐式を受けることで、改めてイエスさまが私たちのために何をしてくださったかを考えることができます。

コリントの信徒への手紙一では、私たちが一つのパンを分け合うことで、ひとつのキリストの体、一つの教会であることを思い出すようにされていることを説明しています（コリント一10：17）。さらにこの式が「主が来られるときまで、主の死を告げ知らせる」（コリント11：26）のものであると教えており、イエスさまの再臨を待つ思いを改めて強くする機会であるとされています。

・実際の恵みであること（ツヴィングリの「象徴説」にならないように）

聖餐式は単に、私たちがイエスさまのことを改めて思い出したり考えたりするきっかけになるものではありません。「恵みを与える方法」（問48、50）として、他の方法（御言葉、洗礼、祈り）と同様に、聖霊なる神さまが実際に働き、私たちの信仰を強め、育て、養う働きをします。

・聖餐式を受ける時の気持ちを想像してみましょう。また実際に聖餐式を受けている人に感想を聞いてみましょう。

7月18日 コリントの信徒への手紙一11章23～29節（カテキズム問54）【解説と黙想】

信仰告白を目指して

1. コリント教会の状況から

コリント教会には「食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいるという始末」（一コリ11：21）という隣人への愛が欠如した状況があった。その背後に神への畏れの欠如があったことをパウロは見逃さない。そこで主イエスが「引き渡される夜」に制定された“主の晩餐”について語り、主の御前になされる食事が「自分をよく確かめたうえ」（同11：28）、自分をわきまえた（同11：31）うえでなされる必要があると教える。

2. 自己吟味

そこで求められる自己吟味について、ウェストミンスター信仰告白29章8節は、「無知で不信仰な人々はすべて、主との交わりを享受するのにふさわしくなく、同様に主の食卓にあずかるに値しない」と告白する。確かめるべきは自分の「知」と「信仰」である。すなわち、主イエスの十字架と復活とが、私たちの罪が贖われ、赦されるためであったと御言葉に基づいて知ることであり、主イエスの御業と自分の罪とを聖霊に導かれて結びつけて信じることである。その「知」と「信仰」なしに、十字架の犠牲を示すパンとぶどうの杯を飲み食いすることは無意味であるし、それは罪を犯すことになる。とさえパウロは記す（同11：27）。

「知」と「信仰」とが公に告白されたものが洗礼式であるので、成人洗礼式と、幼児洗礼及び信仰告白式を経た者だけが聖餐

式に与ることをゆるされる。自分をよく確かめて確かめすぎることはない。主が御自身の命をかけて得られた救いにあずかることは、それほどに厳粛で大切なことである。

3. 恐れつつ、祈りつつ、共に前進する

一方で、誠実な自己吟味は、洗礼式、また聖餐式に対して過度な恐れと躊躇を生むかもしれない。“まだ確信が得られていない”。“疑いが次から次へと湧いてくる”。“自分の罪深さが嫌になる”。しかし、それこそ、正当な苦悩であると言える。事実、生身のままで神の御前にふさわしい者は一人もいない。その者のために主イエスは十字架でその苦悩を担ってくださった。苦悩を引きずりつつも、主の祝福を求め、その憐れみにすがり、主の救いを自らの告白とする者は聖餐式に招かれている。「彼はさらに力づけられるために主の晩餐に臨んでもよいし、臨まなければならない」（ウ大教理問答問172）。

信仰の営みには闘いがある。自分をよく確かめるほどに闘いは激しさを増す。しかし、その闘いは主の光の中でなされるべきものである。教会の中で、教会に集う先輩たち、同じ年代の人たち、幼き者たち、みんなでなすことである。聖餐式は主の救いと祝福を嘯みしめながら、隣人への愛を呼び覚ます時ともなる。もし、子どもたちが洗礼を受け、信仰告白をなし、聖餐式に与る日が来たならば思い出してほしい。その日まで神さまの導きと、多くの人たちの祈りがあったことを。そして、次の誰かのために祈り始めてほしい。（柏木貴志）

《参照聖句》 イザヤ書40章11節、

《教理問答》 ウェストミンスター信仰告白29章8節、ウェストミンスター大教理問答問171～173、ウェストミンスター小教理問答問97

7月18日 コリントの信徒への手紙一 11章23～29節

【説教展開例】

信仰告白を目指して

◇..... 単元のねらい◇

聖餐式は、主イエス・キリストが十字架に架かれる前の夜に制定された礼典である。それは教会の営みの中心的な事柄である。子どもたちにはその聖餐式が聖霊が導かれる大切な場であること、信仰者の感謝と喜びとを持ち合わせる場であることを知ってほしい。そして、いつか自分も聖餐式にあずかる日を思い描いてほしい。

「聖餐式にあずかるって??」

1. はじめに

今日も先週に引き続き聖餐式のことについて考えてみましょう。先週は、聖餐式がイエスさまの祝福を教会のみなでお祝いする時であることを学びました。今日は、どういう人が聖餐式の時にパンとぶどうの杯をもらうことができるのかということについて学びましょう。

2. 聖餐式に「あずかる」

礼拝のなかで、“聖餐式にあずかる”という言い方を聞くことがありますね。先生は最初、「預かる」だと思っていて、ぶどうの杯は返すことができるけれど、食べちゃったパンは返せないのになあと「???マーク」を頭に浮かべたことがあります。正しくは「与る」ですね。それは「受け取る」、「与えられる」という意味です。そりゃそうですよね。イエスさまが十字架に架かってくださって、私たちのために勝ち取ってくださった救いの祝福は「預かる」なんてものではない。いつかはお返ししなければいけないなんてものではない。私たち一人ひとりに確かに与えられたものです。

イエスさまにお返ししなければいけないのは、十字架の救いではなくて、感謝です、ありがとうございますという気持ちです。

その「ありがとうございます」という気持ちを具体的にかたちに現したものの、かつこよく言うと、自分の生き方として告白をしたものが洗礼式ですし、赤ちゃんの時に洗礼を授けられた人は信仰告白式となります。

みんなの中にも洗礼式を経験した人、信仰告白式を経験した人がいますね。一人ひとりそれぞれにイエスさまが導いてくださる時がありますので焦る必要はありません。でも、早く洗礼式や信仰告白式ができたらなあと先生は願っています。イエスさまに「ありがとうございます」という気持ちをはっきりと自分のものになるのはとてもとても嬉しいことだからです。

3. 聖餐式にあずかる人たち

それでは、そのような洗礼式や信仰告白式を経験した人だけが、聖餐式にあずかることができるのはどうしてだと思いますか。“神さまの祝福は、俺たちだけのものだけ、へっへっへ……”。というわけでは

もちろんありません。

やっぱりカギになるのは、イエスさまに「ありがとうございます」という気持ちです。聖餐式はもうみんなが学んだように、「イエスさまの十字架でさかれた肉と流された血によってなしとげられた救いを覚えます。聖霊によってイエスさまと結び合わされて、罪の赦しと永遠の命の祝福に養われます」（子どもと親のカテキズム問53）という時です。

イエスさまの十字架の救いに「ありがとうございます」と言うためには、自分が自分を救うことは出来ず、イエスさまに救ってもらわなければいけなかった存在であること、すなわち、自分が罪人であることを知らなければいけません。そして、その罪、みんなが持っているすべての罪はイエスさまの十字架によって赦されているのだと信じられなければいけません。そして、そう信じられるのは聖霊なる神さまのおかげだと気づかさなければいけません。

そういうことが全部、なるほどと分かって、信じられるようになった時には、みんなの口からは自然と「ありがとうございます」という言葉がでできます。でてこざるをえない。そうなるまではじっと我慢です。繰り返しますけれど、焦る必要はありません。必ずその時は来ると、先生は信じています。その時のために、一緒に聖書を読み続けましょう。一緒にお祈りをし続けましょう。必ずその時は来ます。

もしかしたら、今は“イエスさまとわたしに何の関係が？……”、“聖霊ってなに？……”という思いが頭の中を駆け巡っているかもしれません。先生もそうでした。けれども、必ず時は来ます。イエスさまがわたしの救い主だ！ ありがとうございます

す!! という日が。

その「ありがとうございます!!」という告白が生まれなければ、聖餐式にあずかっても意味がないと思いませんか?? “イエスさまってだれ??”、“救いってなに??”という時に、パンを食べても、ぶどうの杯を飲んでも何の意味もありません。意味がないことをみんなにしてほしくありません。

しかも、聖餐式は「主の晩餐」という言い方もしますね。それは主イエスさまが十字架にかかれる前の夜に、弟子たちと最後の食事(晩餐)をされた時にお定めになったものだからです。聖餐式には、イエスさまの命をかけた思いが込められています。みんなが「罪を赦されるように」という思いです。その大切な思いを知らずに、信じずに、無意味に食べたり、飲んだりしてしまうのは、イエスさまに対しても、自分自身に対しても、悲しいことじゃないでしょうか。本当に大切にしなければいけないものを大切にできる人にみんながなってほしい。

イエスさまの思いを大切に、イエスさまに赦された、また赦されるべき自分の罪をちゃんと見つめてください。見つめれば見つめるほどしんどいですが、自分ではどうすることもできないと思わされるほどその分だけ、十字架の救いの凄まじさが分かるようになります。こんな自分でもイエスさまは大切に愛してくださっているという恵みを知ることができます。だから、逃げないで。何から逃げても、イエスさまの救いは逃げないでください。

ただ、みんなはいい人たちなので、“こんなに悪いことばかりする自分は洗礼にふさわしくない”、“イエスさまのことはまだよく分からないので信仰告白は随分と先

だな”と考えるかもしれません。誠実に考えることは素晴らしいことです。同時に、えいやっという思いも大切です。洗礼式も信仰告白式もゴールではありません。そこがスタートラインです。洗礼を受けた大人の人たちも、“同じ罪ばかりを繰り返しているなあ、イエスさま、ごめんなさい”と言う連続です。でも、その度に、“イエスさま、十字架の救いをありがとうございます！”とお祈りしています。その告白の後に食べるパンとぶどうの杯は最高です。いや、パンはパンで、ぶどうの杯は杯で、それ自体には何も変化はないんですけど、味わいが違う。イエスさまの救いを思い巡らしながら食べるパンの味わいがどういうものであるのか、ぜひ、みんなに経験してもらいたいんです。

4. みんなで聖餐式にあずかる

それから、聖餐式は教会のみんなであずかりますね。これも重要なことです。聖餐式の時に牧師先生が「私たちは神の家族の一員」とお話されているのを聞いたことがあるかもしれません。教会に集められた人たちは、イエスさまの血によって繋がった兄弟姉妹です。神の家族です。みんなで神の祝福にあずかるんです。さあ、次の聖餐式の時に、牧師先生がどういう動きをしているか、どういうお祈りをしているか、よく見てみよう。大人の人たちの様子を見てみよう。そうして、いつか、自分があずかる日のことを心の中に思い描いてみましょう。 (柏木貴志)

《今週の暗唱聖句》

信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたの内におられることが。(コリントの信徒への手紙二13章5節)

7月18日 コリントの信徒への手紙一 11章23～29節

【分級展開例A】

信仰告白を目指して

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：名前を呼び、顔を見る。子どもたち一人一人の、今日の様子を知る。

讚美：子どもが覚え喜んで歌えるような讚美歌を選ぶ。（“海と空つくられた主は”等）

お祈り：教師が子どもたちのため、分級のためにお祈りする。

幼児も聖餐の靈的な恵みを受け、共に聖餐の食卓に与れるよう祈る

今回の学びから教えられたことは、親や教師である私たち自身が、与えられている子どもたちのために祈ることの大切さです。一人一人の子どもたちが、ふさわしい時に信仰告白へと導かれるようにと心を込めて祈ります。また聖餐式が行われる時には、子どもたちと共にその席に座らせ、その場において見聞きすることを通して靈的な恵みに子どもたちを与らせます。

分級では、対話を通して自分の罪に気づかせイエスさまの赦しを伝え、子どものために祈ります。

例：先週、何か悪いことをしてしまったなと思うことがありますか？ 誰かに叱られたこととか？

（話してくれることがあったら聞く）

そう。そうだったんだね。

（その時の子どもの気持ちに寄り添い、共感する言葉を伝える）

悪いことをしてしまったとき、どうしますか？

（神さまにごめんなさいと言う。相手にもごめんなさいと言う）

イエスさまは、十字架で死んでくださったことによって〇〇ちゃんの罪を赦してくださっています。そして、3日目に生き返ってくださったことによって私たちに新しくイエスさまと心をつなげて歩む力をそそいでくださっています。

だから、安心してまた今週もイエスさまの言葉に従って歩みましょう。

出来れば、一人一人と手をつなぐなどして罪の赦しの感謝と神さまの子どもとして祝福してくださいと祈る。

7月18日 コリントの信徒への手紙一 11章23～29節

【分級展開例B】

信仰告白を目指して

聖餐にあずかるには？

先週は、「聖餐式って、何だろう？」というテーマで学びました。覚えているかな。

聖餐に与るたびに、わたしたちは、イエスさまの十字架によって与えられた罪の赦しと永遠の命の恵みを覚え、皆で祝いながら、イエスさまが再び来られるのを待ち望むのでしたね。

でも、一つ、Qが残っています。

「僕たち、わたしたちは、いつまでも聖餐式を見ているだけなの？」

「いつになったら、どうしたら、聖餐に与れるの？」

今日は、このことについて学びましょう。

「子どもと親のカテキズム」問54を見てみましょう。

問54 だれでも聖餐（主の晩餐）にあずかれますか。

答 いいえ、幼児洗礼を受けていても自分で信仰を告白していない人、また、洗礼を受けていない人は、あずかれません。私たちは、一日も早くその人たちが聖餐（主の晩餐）の祝いにあずかることができるよう祈ります。

幼児洗礼を受けている人はいますか？ その人は、自分で信仰を告白することが必要です。

幼児洗礼を受けていない人はいますか？ その人は、自分の信仰の告白として洗礼を受けることが必要です。

信仰の告白って、何でしょうか。誰を信じるのかな？

そうです、イエスさまを信じるのですね。

イエスさまの何を信じるのかな？

イエスさまが、私の救い主であることを信じるのですね。

イエスさまは、どうやって私を救ってくださったのかな。

十字架で、おからだを裂き、血を流して、私の罪の裁きを代わりに受けてくださったのです。

そうして私の罪を赦し、永遠の命をくださったのですね。

信仰を告白して、一緒に聖餐に与れる日が来ますように、祈りましょう。

7月18日 コリントの信徒への手紙一11章23～29節

【分級展開例 C】

信仰告白を目指して

今日の課題は、どんな人が聖餐式を受けることができるかということです。

基本として、聖餐式を受けることができるのは、洗礼を受けた人です。逆に聖餐を受けることができないのは、「洗礼を受けていない人」、「自分で信仰を告白していない人」です。（もう一つ、「陪餐停止」の戒規を受けている人も参加できません）

聖餐式を受けることができる人とできない人を区別するには理由があります。聖餐は目に見えるものであるからこそ、誤解を生みやすく、迷信化したり偶像的になったりしがちです。信仰的に知識的に正しい理解を持ち、周囲に誤解を与えず、かえって神さまを証しできるように努めることが必要なのです。

誰が聖餐式を受けられるかについては、教派によって理解の違いがあります。大きく分けると以下の三種類になります。

- ・クローズド聖餐：自分の教派、教会の会員だけが聖餐に参加できる
- ・オープン聖餐：洗礼を受けたクリスチャンであれば教派を問わず聖餐に参加できる
- ・フリー（フル・オープン）聖餐：誰でも聖餐に参加できる

フリー聖餐は一見平等に見えますが、上記のような迷信化の危険があります。クローズド聖餐は自分たちの教派だけの狭い意識に陥りがちです。節度をもって自分自身の信仰を振り返り、他の人に証しを立てることができるように心がけることが大切です。

聖餐式を受けることができるのは、特権であり喜びです。今聖餐を受けられない人を仲間外れにするのではなく、その方達が信仰告白に導かれ、一緒に聖餐を受けられるように祈るのが、先に恵みを受けている人の務めです。

- ・聖餐式を受けるために、どんなことを注意したら良いと思いますか？

7月25日 マタイによる福音書18章18～20節（カテキズム問55）【解説と黙想】

恵みの方法としての祈り

・カテキズムの解説

神が私たちに恵みを与える方法として特に「御言葉と礼典と祈り」をあげることができます。この単元（子どもと親のカテキズム問55）では最後の「祈り」が取り上げられています。

祈りとは私たち側が神に話しかけ、願いをささげる方法だと理解されているかもしれませんが、神が私たちに恵みを与える方法として祈りが挙げられています。祈りによって神は私たちに恵みを届けてくださるということです。

カテキズムでは祈りにおいて聖霊の働きがあることを強調しています。つまり私たちが祈ることによって聖霊が与えられているということです。聖霊を求め、祈り続ける者に、父なる神は豊かに聖霊を与え続けてくださいます。

さらにカテキズムは、復活されたイエスキリストが祈りによって、聖霊において共にいてくださると教えています。この意味で祈りは恵みなのです。祈ることもできなかった私たちが主の導きで祈ることができる者とされ、さらに祈りの交わりにおいて、聖霊によってキリストが共にいてくださるのです。祈る者の声を主は聞いてくださり、共にいて恵みをもたらしてくださるのです。

カテキズムは最後に、「ですから、いつでもどこでも祈りながら御国への道を歩んでいきます。」と述べられています。祈りは「いつでも、どこでも」ささげることが

できるものです。礼拝における祈りはとても大事な要素ですが、そこだけしか祈りの時ではありません。時間・場所に関わらず、私たちは主に祈りをささげることができます。このことがもう恵みであると思います。そして、祈ることなしに信仰生活は成り立ちません。私たちは神に祈りつつ、主の恵みを頂きながら、歩むのです。祈りに終わりはありません。神さまはいつも私たちに恵みを注いでくださいますから、私たちは祈りつつ、御国を目指して歩いていくのです。

・聖書の解説

この単元ではマタイによる福音書18章18～20節が取り上げられています。カテキズムにある「復活のキリストが祈りによって、聖霊において共にいてくださる」ことの根拠聖句です。聖書の文脈としては教会の中で兄弟が罪を犯した場合、どのような態度をとるべきかというイエスのお話の中の最後に語られた言葉です。兄弟の罪と関わっている問題なので、もちろんここでの願いというのは、兄弟が悔い改めるための祈りです。つまり執り成しの祈りです。子どもたちに向けては、この御言葉の文脈をすべて話す必要はないと思いますが、私たちが祈ることができない場合も、信仰の友の祈りによって、主は共にいて恵みを注いでくださるという事実はこの御言葉においてとても大切な点として理解したいと思います。（高内信嗣）

【参照聖句】 ルカによる福音書11章13節、エフェソの信徒への手紙6章18節

【教理問答】 ウェストミンスター小教理問答問98、ハイデルベルク信仰問答問116

7月25日 マタイによる福音書18章18～20節

【説教展開例】

恵みの方法としての祈り

◇..... 単元のねらい◇

「祈り」は私たちが神にささげるという行為としてだけ受け取られているかもしれない。しかし、そのことだけにとどまらず、「祈り」は神の恵みと祝福を頂く「手段」であることを伝えるがこの単元のねらいである。

「祈りながら生きる！」

皆さん、おはようございます。今日も教会に来てくれてありがとうございます。心から歓迎します。

今日は「お祈り」についてお話したいと思います。今日もこの礼拝の中で「お祈り」をしましたね。この礼拝だけではなく、ご飯を食べる前や、寝る前など、生活の色んな場面でお祈りしますね。ではお祈りって何だろう？

簡単に言うと僕たちが神さまに話しかけることだよ。お祈りの最初に僕たちは「神さま」って呼び掛けるよね。私が小さい時、牧師先生に「神さま、あのね」って言って、その日のことを伝えるだけでもお祈りだよって教えられたことがあります。

僕たちは色んなことをお祈りします。身体が守られるようにとか、勉強が守られるようにとか。願っただけじゃなくて、神さまにありがとうと伝えることもありますね。

お祈りって、今お話したように僕たちから神さまにお話するってイメージが強いかもしれませんがね。でも今日はお祈りについてもう少し深く踏み込みたいと思います。

今日のカテキズムを読みましょう。子ど

もと親のカテキズムの間55です。

問55 恵みを与える方法としての祈りとは何ですか。

答 イエスさまは、祈り求める者に聖霊を与えることを約束されました。復活のイエスさまは、とくに祈りによって、聖霊において共にいてくださいます。ですから、いつでもどこでも祈りながら御国への道を歩んでいきます。

お祈りというのはこちらから神さまにお話するという意味だけではありません。

このカテキズムには、祈る人に聖霊が与えられていると言われていていますね。さらに復活のイエスさまが聖霊において共にいてくださるとも言われています。

僕たちは何かと遠い、遠い天国に向かって祈りを送っているように思っているかもしれませんが、私も小さい時、天を見つめながら、「届けー！」と願っていたことを思い出します。でも、実は私たちが祈っているその横にイエスさまがいてくださるので

今日のご一緒にマタイによる福音書18章

18～20節の御言葉をお読みしました。

この箇所イエスさまは教会のお友達ももし神さまの悲しまれることをしてしまった場合、それを注意するのはもちろんですが、それだけではなく、お祈りすることを勧められました。もちろんそれは、お友達がちゃんと「神さま、ごめんなさい」と言えるようになるためです。そして、神さまのお赦しがお友達に与えられるためですね。

ここでイエスさまは最後に「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」とおっしゃいます。

神さまの悲しまれることをしてしまっても、祈る時に、イエスさまは同じ場所にいてくださいます。そして、たとえ僕たちが祈っていないくても、お友達が祈ってくれる時に、イエスさまは一緒にいてくれるのです。

さて、カテキズムは最後に「いつでもどこでも祈りながら御国への道を歩んでいきます」とあります。お祈りは教会だけでささげられるものではありませんよね。皆も家でお祈りしたことがあると思うけど、お祈りはどんな時間であっても、どんな場所であってもささげられるものです。

僕は電車の中でお祈りしてことがありますし、学校でお祈りしたことがあります。朝早くにお祈りしたことも、真夜中にお祈りしたこともあります。

お祈りする時にイエスさまは聖霊を通して一緒にいてくださいます。時間や場所は

関係ありません。いつでも、どんな場所でもイエスさまは一緒にいてくださるのです。

僕が中学生の時、合唱コンクールで「僕らは旅人～♪」という合唱曲を歌いました。家と中学校を往復しているだけで、何の旅人なんだろうとずっと思っていました。今日のカテキズムには「天を目指して」と書いていますね。僕らは天の旅人です。神さまを見つめながら人生を生きています。でもその歩みは独りぼっちではありません。私たちは神さまにお祈りすることができる恵みが与えられています。苦しい時、困った時、悩んだ時、神さまの悲しまれることをしてしまった時、僕たちは神さまにお祈りすることができます。そして、そこにイエスさまがいてくださるということを確認しましたね。

僕たちは神さまにお祈りしながら、イエスさまと一緒に人生を歩んでいきます。この先、色んな事があると思います。思い通りにならないことや、つまづくこともあると思います。そんな時はお祈りしてください。

また、お友達が苦しむこともあります。その時は一緒に祈ってあげてください。

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」

祈りながら歩んでいきましょう。イエスさまは必ず皆と一緒にいて、恵みを注いでくださいます。 (高内信嗣)

《今週の暗唱聖句》

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。(マタイによる福音書18章20節)

7月25日 マタイによる福音書18章18～20節

【分級展開例A】

祈りつつ御国への道を歩んでいこう

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：名前を呼び、顔を見る。子どもたち一人一人の、今日の様子を知る。（夏休み入る頃ですね。楽しみにしていることなど聞いてみても良いですね）

讚美：子どもが覚え喜んで歌えるような讚美歌を選ぶ。
（“海と空つくられた主”等）

お祈り：教師が子どもたちのため、分級のためにお祈りする。

お祈りの恵みを伝え、いつでもどこでもお祈りできるように導き、お祈りの恵みを共に体験する幼い子どもたちは、よく喜んでお祈りすると思います。子どもたちが、お祈りを通してたくさん神さまとお話しし、恵みを受けられるように祈りつつ、お祈りの恵みを伝え、共に祈ります。

例：今日もこうして、みんなといっしょに集まれることを神さまに感謝します。

イエスさまは、このように2人または3人がイエスさまによって集まるところにいますと教えてくださっています。今日は1、2、……（みんなで数える）〇人。みんなで〇人集まっています。だから今日もここにイエスさまがいっしょにいてくださいます。

そして、私たちのうち2人が心を一つにしてお祈りするなら、どんな願い事も天の父はそれをかなえてくださるとも教えてくださっています。だから、ぜひおうちでもお母さんやお父さん、兄弟姉妹とどんなことも、お祈りしてみてください。遊んでいる時も、お友だちとお祈りしてみてください。

もしかすると、すぐにはきかれないお祈りがあるかもしれません。でも、神さまは必ずみんなの小さな小さなお祈りも聞いていてくださり、必ず神さまの良い恵みをくださいます。だから、あきらめないでお祈りし続けましょう。

悲しくて、苦しくて、言葉にできない時もあるかもしれません。そんな時は、神さま……、イエスさま……と呼んでみてください。小さな弱い私たちを聖霊なる神さまが必ず助けてくださいます。

お祈り

一人一人順番にお祈りする。

追記：夏休みに入り、家族でいっしょに過ごす時間も増えるかもしれません。いっしょに過ごす家族といっぱいいっしょにお祈りできると良いですね。子どもたちは、親が「〇〇ちゃんと、〇〇のこといっしょにお祈りしたいな」と言うと、喜んでお祈りしてくれるものです。生活の中で、親子でいっしょにいろんな場面でお祈りし、神さまの恵みが溢れる夏休みとなりますように。

また、一人一人の子どもたちが、今どんなお祈りをしているかを知って、それぞれに1ステップUP出来るよう言葉かけや手助けをすることも良いかと思います。

7月25日 マタイによる福音書18章18～20節

【分級展開例B】

恵みの方法としての祈り

祈りつつ歩もう

先週は、聖餐に与るには、どうしたら良いかを学びました。幼児洗礼を受けている人は、信仰告白をし、幼児洗礼を受けていない人は、洗礼を受ける必要があるのではなね。思い出しましたか。

「イエスさまを信じているけれど、信仰告白をする勇気がないなあ」

「イエスさまが救い主だって信じているけれど、洗礼を受けるのは、ちょっと……」

という人もいるかもしれませんね。

どうして、そう思うのかな？

「信仰告白したら、本物のクリスチャンって感じだけど、まだ自信がないし」

「信じているけど、ちょっと神さまのことを疑っちゃう時もあるし、聖書も分からないことが一杯だし」

ちゃんとやっていけるか、この先がちょっと心配ってことかな？

イエスさまは、こう言っておられるよ。

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。……あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである」(ヨハネ13：15～17)

イエスさまを信じる人の内には、真理の霊、聖霊が与えられているのだね。聖霊は、永遠に私たちと一緒にいてくださる。どんな時もね。

だから、聖書の御言葉も、少しずつ分かるようになるし、ピンチになった時には、「助けてください！」と祈れるよ。

失敗したなあとがっかりした時も、神さまに祈って聞いて頂いたらいいし、罪を犯してしまったと心が責められる時には、神さまに正直に話して、赦して頂いたらいい。

嬉しい時には、感謝の気持ちを祈り、一人でどう祈ったら良いか分からない時には、教会と一緒に祈ればいい。電話や ZOOM で祈ってもいい。

聖霊の別名は、「助け主」「慰め主」だから、大丈夫。御国への道を、祈りつつ、一歩ずつ歩いて行こう。助け主がいつも共にいてくださるからね。

7月25日 マタイによる福音書18章18～20節

【分級展開例C】

恵みの方法としての祈り

神さまが私たちに救いの恵みを与えてくださる方法として挙げられておりますのが、「御言葉と礼典と祈り」の三つです（問48参照）。

祈りが持っている他の二つの方法とは違う特徴は、祈りがいつでもどこでも誰でも自由にできるということです。牧師がいてもいなくても関係ありません。一人でも大人数でもできます。場所も方法も時間も自由です。聖餐のように洗礼の有無も問われません。その意味では私たちに最も身近な「恵みの方法」と言えます。

もちろん、祈りも間違った理解で好き勝手に祈れば良いというものではありません。そのためにいくつかのポイントを覚えておく必要があります。

誤解されがちなこととして、祈りは神さまに願いを実現してもらうための手段ではありません。祈りで自分の願うことを神さまに実現してもらうものではありません。祈りを通して自分の悩みや願いを神さまに委ねますが、それは、神さまがすべてを支配しておられることを信じる結果です。祈りの結果がどうなるかについても神さまに委ねるのです。

特に礼拝などの公的な場での祈りは、一緒に祈る他の人たちに理解してもらい、共感してもらおうこと、その結果心を一つにして共に祈れることが必要です。しかし、他の人に聞かせることが祈りの第一目的ではありません。すべてをご存知の神さまの前で、取り繕ったり言葉を飾ったりすることは意味がありません。

私たちが祈ることができるということ、それ自体が神さまの恵みです。人は本来、神さまの前に出ることができない罪人です。イエスさまの十字架によって罪を赦され、聖霊が降ってくださって、自由に祈ることができるようにしていただいていることを祈るたびに感謝しましょう。

・どんな時に、どんなふうに祈れるでしょう。経験を話し合っても良いでしょう。

8月1日 ルカによる福音書17章11～19節(カテキズム問56)【解説と黙想】

感謝して歩む

1. 重い皮膚病

レビ記13章には皮膚病に関する規定が記されるが、この「重い皮膚病」を患っている人たちは、他の人にうつすといけないうので隔離され、家族からも離され、集会やあらゆる交わりから除外された。特にレビ記13章45節以下を見ると、彼らは人々が周りにいるような所では「わたしは汚れています。」「汚れに触れるから私に近寄らないでください。」と汚れた自分の存在を周りに知らせなければならなかったのである。

10人の皮膚病の患者たちが、近くを通りかかった主イエスに「遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて」(12, 13節)憐れみを求めたのも、近づくことを許されなかったからである。

2. 癒された10人

皮膚病のために社会から除外されていた10人は、声を張り上げて「どうか、わたしたちを憐れんでください」と叫んだ(13節)。すると主イエスは「祭司たちのところへ行って、体を見せなさい」と言われた(14節)。

皮膚病が癒されたか否か、その人が社会復帰できるか否かの判断は祭司に委ねられていた。レビ記14章3節以下に「祭司は、宿営の外に出て来て、調べる。患者の重い皮膚病が治っているならば、祭司は清めの儀式をする」と記されている。皮膚病が癒された者たちは、8日間の清めの手続きを経て、ようやく社会復帰が許されたのである。

彼らは「祭司たちのところへ行って、体を見せなさい」という主イエスの言葉を聞

いて、病の癒しを信じ、祭司のところへ向かった。「彼らは、そこへ行く途中で癒された」(14節)。御言葉を「聞いて」「信じて」「踏み出した」という意味で、彼らには信仰があったと言える。しかし、それはとにかく癒されたい。癒されるためなら何でもするという意味での信仰だったのかもしれない。

3. 礼拝した一人のサマリア人

「その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻ってきた。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した」(15, 16節)。10人は祭司のもとに向かっていた。それは、癒された体を見せ、清くされたというお墨付きをもらうためであり、家族や他の人たちとの交わり、社会に戻っていくためであった。癒されたことを知った彼らは、ますます急いで祭司のところへ向かったことだろう。

しかし、その中の一人は途中で癒されたことを知ると、イエスのもとに引き返してきて足もとにひれ伏したというのがこの話の中心である。とにかく病の癒しと社会復帰を優先した9人も、当然イエスに感謝したに違いない。しかし、戻っては来なかった。多少、社会復帰は遅れても、何よりイエスのもとに戻って来て感謝の礼拝をささげたサマリア人の信仰が強調される。イエスはその人に「あなたの信仰があなたを救った」と言われた。救いをもたらす信仰とは、御言葉を聞いて、信じて、主イエスとの関係に入り、このお方に結ばれて、感謝の礼拝をささげる信仰である。

(小橋口貴人)

《参照聖句》 レビ記13章

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問39、ハイデルベルク信仰問答問86

8月1日 ルカによる福音書17章11～19節

【説教展開例】

感謝して歩む

◇..... 単元のねらい◇

子どもと親のカテキズム問56と、ルカによる福音書17章の話を通して、神の子どもたちが感謝の生活を歩むことの大切さを伝えたい。

「感謝した恵み、忘れられた恵み」

導入

子どもと親のカテキズム問56を一緒に読んでみましょう。問56「神さまの子どもとされ、神さまと共に歩む私たちに、神さまが求めておられることは何ですか」。答え「感謝することです。私たちは、感謝のうちに、神さまを愛し、家族や友だちを愛し、神さまの造られたものを大切に、祈りつつ歩むのです」。神さまの子どもとして歩む私たちに、神さまが求めていることは、感謝することだと教えています。

みなさんは、普段、お父さんお母さんに感謝の言葉をちゃんと伝えていますか？学校でお友達が親切にしてくれたときとか、何かを貸してくれたときとか、「ありがとう」と言っていますか？学校の先生に「ありがとうございます」と感謝の思いを伝えたことがありますか？今朝は、イエスさまに病気を治してもらった時に、ちゃんと「ありがとう」を言えた人と、言えなかった人のお話です。

癒された十人

イエスさまがエルサレムという所に向かって旅をしている途中に、ある村を通られました。すると、重い皮膚病にかかっていた10人の人たちが、遠くからイエスさま

に叫びました「イエスさま、どうか、わたしたちを憐れんでください」。

この人たちは、他の人に病気がうつるといけないので、隔離されて生活していたのです。みんなもインフルエンザにかかってしまった時とか、今ではコロナ・ウイルスにかかってしまった人たちが、他の人にうつすといけなから隔離されますね。学校に行ってはいけないし、会社にも行ってはいけません。教会にも行きません。とにかく人のいるところに出て行ってはいけないのです。だから、イエスさまに近づくことができずに、遠くから彼らは病気の癒しを求めて叫びました。

するとイエスさまは「祭司のところに行って、体を見せなさい」と言われました。もし、皮膚病が治った時には、祭司のところへ行って、病気が治ったということを確認してもらおう決まりになっていたんですね。祭司が、「もうあなたは癒されているから、人にうつす心配がなくなったから、もと通りの生活をしていいですよ」と言ってくれたら、その人は日常の生活に戻ることができました。

せっかく祭司のところへ行っても、もし皮膚病が治っていなかったら、意味がないんですね。「あなたはまだ治ってないから、

隔離生活を続けてもらいます」と言われてしまうだけです。

でも、この10人は、イエスさまが祭司のところへ行きなさいと言うからには、きっと病気は癒されるのだろうと信じて、祭司のところへ向かいました。すると、14節に「彼らは、そこへ行く途中で清くされた」とあります。10人の皮膚病は、本当に治ってしまったんですね。

戻ってきたのは一人

さあ、皆さんだったら、どうしますか？祭司のところへ行く途中で、皮膚病が癒されたことに気づきました。ですから、そのまま祭司に見てもらえれば、ようやく家に帰ることができます。学校にも行けます。お友達とも遊べるし、教会に行くこともできます。だから、とにかく、はやく祭司のところに行って見てもらって、家に帰ろう思う人はいますか？

それとも、イエスさまが癒してくださったんだから、まずはイエスさまのところに戻って、「ありがとう」を伝えてから、祭司に見てもらえばよい。という人はいますか？ 皆さんだったらどうするのでしょうか？

イエスさまに皮膚病を癒していただいた人は、10人でした。その中の何人が、イエスさまにちゃんと「ありがとう」と感謝の言葉を伝えたのでしょうか。15節と16節を読みましょう。「その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻ってきた。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した」

もちろん、10人みんな、イエスさまに感謝の思いは持っていたでしょう。病気を癒していただいたのですから。でも、イエス

さまのところに戻って来て、感謝をちゃんと伝えたのはたった一人だったというお話です。それでイエスさまはこう言われます。17節「そこで、イエスは言われた。『清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか』」。

始めに読んだカテキズムでは、神さまの子どもたちに神さまが求めているのは、ちゃんと感謝することだと教えていました。神さまが恵みを与えてくださったならば、ちゃんと神さまに感謝を伝えること。礼拝することです。

ちゃんとイエスさまに「ありがとう」と言えたのがたった一人だったことは、残念なことだと思います。

10分の1の感謝

しかし、わたしたちも自分のことを少し考えてみましょう。「ありがとう」を言い忘れていることが、たくさんあるのでないでしょうかと思います。みなさんは、お母さんがご飯を作ってくれた時、「ありがとう」と伝えていますか？ 洋服を洗濯して、きれいにアイロンをかけてたたんでくれたときにはどうでしょうか？ みんなが学校に遅れないように、みんなより早く起きて朝起こしてくれた時、「ありがとう」と言っていますか？ 親がしてくれることを、私たちは当たり前のことだと思って、感謝し忘れていることが実はたくさんあるのではないかと思います。

私は、学生だった時に、親が朝起こしてくれて「ありがとう」と言ったことは、1回か2回しかありません。大切な受験の日の朝、遅れるわけにはいかない大切な日の朝にだけ、「起こしてくれてありがとう。寝坊するところだった」と感謝を伝えた記

憶があります。でも、他の数百回はありがとうと言っていません。きっとみんなも同じようなものじゃないですか。そうすると、わたしたちは親から受けた恵みに対して、10分の1も感謝していないのだと思います。10分の1でもちゃんと「ありがとう」と伝えることができている人は、実は素晴らしいのかもしれないね。わたしたちはそれくらいたくさん恵みを受けて生きて

きたはずです。

ましてや、天の神さまからいただいている恵みは数え切れません。だから本当は、数えきれないくらい、神さまに「ありがとうございます」という礼拝をささげていなきゃいけない。一つでも多く、人にも神さまにも「ありがとうございます」が言える人として、成長できますように祈りましょう。
(小橋口貴人)

《今週の暗唱聖句》

主に感謝せよ。主は慈しみ深く

人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。(詩編107編15節)

8月1日 ルカによる福音書17章11～19節

【分級展開例A】

信仰は主に感謝する心を作る

〈話のポイント〉

私たちの人生は、神さまの豊かな恵みと祝福により毎日が感謝することだけである。しかし、同じ主の恵みを受けていても、感謝する人はとても少ない。神さまへの信仰は、主を感謝させる力を持っている。主を愛する心を持っている人は、心から主を感謝するようになる。

*子どもたちが絵を見ながら先生から聞いた物語をそれぞれ自分の口で説明してみる。

〈質問コーナー〉

1. 皮膚病を患っている10人の人々はイエスさまに出会ったとき、どんな心だったのか。
()
2. 行く途中、自分の体が治られたことを感じた9人の人々の心はどうだったのか。
()
3. 自分の皮膚病を治されたサマリアの人の心は9人とどう違うのか。
()
4. なぜ、サマリア人は9人と違って、主のもとに戻ってきたのか。
()



絵をコピーして子どもたちにあげる。

8月1日 ルカによる福音書17章11～19節

【分級展開例B】

感謝して歩む

①わからない言葉は？

子どもたちに分からない言葉を挙げさせる。どんな言葉を分からないと言っても真面目に受け取る。実は知っているような言葉は、本人に説明させる。知っている子がいれば、その子に説明させてもいい。(注意！ 8月8日分参照)

子どもから質問が出なかった場合、どうしても伝えたいことは教師から話す。

【想定される言葉とその応答】

- ・重い皮膚病……治るまで隔離され、治ったことを祭司に証明してもらおうと家に帰れる。
聖書協会共同訳では「規定の病」と訳されている。レビ記等で、この病に冒された人や物（壁や布）は、清められるまで隔離され、清められたことを祭司に証明してもらってから、共同体の生活に復帰できると規定されている。この病だと思われていた病気の患者が長い間差別されてきた歴史がある。現在はアトピーやアレルギーなどの症状が、この言葉から想定されるため注意が必要。
- ・清くされる……病気が治ったことが証明され、社会生活に復帰できること。
- ・いやされる……病気が治ること。
- ・ひれ伏して……実際に体を動かしてその動作をさせる。その動作をする意味を考えさせる。例；とても嬉しかった。すごく尊敬した。神さまだと思った。
- ・神を賛美する……神さまをほめたたえること。どうして、イエスさまにひれふすことが神さまを讃美することになるのか、話し合わせるとよい。

②もっと説明してほしいことは？

【想定される質問とその応答】

- ・どうして10人がいっしょにいたのか……集団で隔離されていたから。
- ・どうして遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げたのか……近づくことが禁じられているから。
- ・どうしてイエスさまは「祭司に見せなさい」と言ったのか……上記参照。
- ・どうして一人は帰ってきたのか……ものすごく嬉しくて、すぐイエスさまにお礼を言いたかったら。イエスさまが「祭司に見せなさい」と言われたことを後回しにするほど嬉しかった。このことから、この一人が神さまとの関係が回復されたことがわかる。
- ・「あなたの信仰があなたを救った」とはどういう意味か……他の9人は、病が癒やされ（身体的回復）、清い者とされた（社会的回復）が、神さまとの関係が回復されて救われたのは、この人だけ。この人は信仰によって救われた。

③神さまに感謝をささげることを、神さまは喜んでくださることを確認する。

8月1日 ルカによる福音書17章11～19節

【分級展開例C】

感謝して歩む

子どもと親のカテキズムは、問56から第三部「感謝しつつ歩む道」に入ります。この箇所では、特に十戒と主の祈りを通して、私たちの信仰生活について学びます。

問56の文章が、問5の文章とほぼ同じことを確かめてみましょう。問2から問5を見直すと、このカテキズム全体がどういう展開になっているかを確認することができます。

- ・問5と問56の違っているところを比べてみましょう。

(以下は模範解答ではなく、あくまでも参考です。自由に考えて意見を交わすように努めてください)

問の文章にある「神さまの子どもとされ」は神さまが私たちの罪を赦し、私たちと特別な関係を築き、実際に救いの完成まで導いてくださることを表します(問36～39参照)。

同じく、問の文章の「神さまと共に歩む」は、神さまがいつでもどこでも私たちを守り、特に教会において私たちを養い守り導いてくださることを表します(問15、問31～33、問42、43参照)。

答えの文章は、神さまが私たちに求めていることをいくつか挙げますが、それらを一言で「感謝すること」とまとめています。感謝は神さまの救いによって私たちの心にあふれる感情です(問36参照)。神さまや他の人を愛すること、世界を大切にすること、祈ること、これらは義務や規則ではなく、神さまからいただいた救いの恵みに感謝することです。

- ・どうすれば、私たちは「感謝のうちに」歩むことができると思いますか。

8月8日 サムエル上15章22～23節（カテキズム問57） 【解説と黙想】

感謝の生活の規準

1. 子どもと親のカテキズム問57

問 感謝のうちに、愛し、祈りつつ歩む道を、どのように知ることができますか。
答 聖書を通してです。

このカテキズムは「神さまと共に歩む」という目標に向けて、「信じて歩む道」と「教会と共に歩む道」に関する信仰を告白した子どもに、「感謝して歩む道」を教える。この構造はハイデルベルク信仰問答に倣うものである。私たちは何ら自分たちの功績なしに、恵みによりキリストによって、自分の悲惨から救われているのであれば、なぜ私たちは善き業を行わなければならないのか。なぜならば、キリストが御自身の血によって私たちを贖ってくださった後、聖霊によって御自分の似姿に私たちを新しくしてくださったからである。善き業は、自分たちの全生活をもって、その恩恵に対して神に感謝を表し、神が私たちによって賛美されるためである。

2. 「感謝」に関する聖書神学

問57の証拠聖句（カテキズム34頁）は、神の民が救われて生きてゆく道すじ、その規準が御言葉に示された神の御心に従うことのみに依拠することを啓示する。「感謝して歩む道」は、人間による善悪の価値判断には依拠しない。この思想は聖書の初めから終わりまでを貫く神学である。

イスラエルの感謝 ThWDH（トーダー）は、神なる「主 YHWH（ヤハウエ）」の名に起源を持つ。「わたしはある」「あなた

がたとともにいる」（出エジプト3：14）と自己啓示なさる神との間柄において、イスラエルの感謝が生じる。最大の感謝はエジプトからの脱出と奴隷状態からの解放である。神の民は、過越祭（同12章）と賛美の歌（同15章）によって、主の救いの御業を証しし、感謝をささげてきた。

人間は、見えない感謝の心を見える形（賛美、献げ物、犠牲など）で表現し、それで満足する。しかし神は、形式的な祭儀を喜ばれない。その実例が、主のご命令よりも自分の判断を優先したサウル王に対する、預言者サムエルの審判預言（サムエル上15：22, 23）である。御言葉に啓示された一貫した御心（申命記13：1、イザヤ29：13、ミカ6：8）がある。

イスラエルの感謝の特徴は、神の審判にも感謝したことである（イザヤ12：1, 2）。「感謝」には「罪の告白」と「主の裁きの証し」（詩編40：7～14、同51：3～19）が含まれる。

※典拠『聖書神学事典』いのちのことば社

3. 「感謝」に関する自己省察

神の愛が感謝を生み出し、私たちの感謝は神への愛と隣人への愛に向かう。十字架に示された神の愛の豊かさに比べ、私たちの感謝の貧しさは歴然である。それでも、私たちを見捨てないで愛し続けてくださる独り子の御父。この方への感謝には、主イエスへの「ありがとう」に「ごめんなさい」が伴う愛でなければならない。（二宮 創）

《参照聖句》 ヤコブ1：22、マタイ7：21～27

《教理問答》 ハイデルベルク信仰問答問86

8月8日 サムエル上15章22～23節

【説教展開例】

感謝の生活の規準

◇..... 単元のねらい◇

単元の目標は、「聖書に従い感謝の生活を送ることは、堅い土台を据える確かな生き方」であると提示すること。この内容は明らかに、マタイ7：21～27の御言葉と譬え話を想定している。これが説教の目標である。「感謝」について、親に対する子どもの感謝を例示し、「心にありがたく感ずること」と「心から謝りたいと願うこと」とは密接、「ごめんなさいと謝ること」と「ありがとうとお礼を言うこと」とは不可分である真実を示したい。その真実を、神の民の「感謝の生活」に見出し、主なる神に「ごめんなさい」と「ありがとう」をささげる人こそ、主イエスの父の御心を行う人であると告げたい。

「ごめんなさい、ありがとう」

ある女子大学生は、十年前の津波で、父を亡くしました。その前日、親子喧嘩して、娘は「また今度、謝ろう」そう思っていたのに、いつも通りの日々は途切れました。父とともに生きる時間がこんなにも短いとは。「今すぐ謝ろう」そうすればよかった。娘の痛みと悔いに、私たちも胸を刺されます。

十年前、娘は8歳か9歳の小学生でした。父は愛する娘のために最善のことを思い、語り、行ったでしょう。それが、親子喧嘩の火種になったようです。父に対して怒っている娘は、自分が悪いのだと気づいていました。「また今度、謝ろう」。ほとぼりが冷めるまで黙っていよう。父の機嫌がよい頃合いに謝ればいい。娘はそう思ったのです。この親子は、喧嘩することが少なくなかったようです。それほどに愛し合っている父と娘でした。喧嘩する度に、いつもそのようにして仲直りをしてきました。だから今度も、そうなるだろうと思ったのです。それが叶わなくなりました。この十年間

の娘の胸中を思うと、いたたまれません。「お父さん、ごめんなさい。私が悪かったのです。お父さんはそのことを、私よりもよく知っていて、いつも私のために最善のことをして下さいました。面と向かって叱って下さいました。いつも思っていて下さいました。お父さん、ありがとう。あなたを愛しています。」届かぬ思いを、娘はずっと胸に秘めてきたに違いありません。

この娘のことを、私は他人事には思えません。恐らく、私だけでなく、今ここにいる皆さんの胸にも、似たような痛みがあるのではと察します。とりわけ、主イエスさまの御父を私たちの父と信じて仰ぐ者には、父なる神とその子らである私たちとの間柄に、似たようなことが日々起こっている。そう思われます。それは父に対する子の「感謝」についてです。

感謝は、「感じる」そして「謝る」と書きますね。「心にありがたく感ずること」と「心から謝りたいと願うこと」とは、一つに結びついています。「ごめんなさいと

謝ること」と「ありがとうとお礼を言うこと」とは、二つに分けることができません。この真実は、あの娘の胸中に、そして私体の胸中にも秘められています。そして、この真実は、聖書によって公に告げられてきました。主なる神とその民との間柄における真実です。それはそのまま、主イエスの御父とその子らとの愛の絆における真実なのです。

聖書が物語る「唯一の生ける神」は、御自分を「主(ヤハウエ)」と名乗られました。それは「わたしはある」「あなたとともにいる」の意味でした。主なる神は、預言者モーセを立てて、イスラエルをエジプトでの奴隷状態から解き放ち、御自分の民として導き出し、彼らに十戒を与え、神を愛し、隣人を愛するようお命じになりました。民は過越の祭と賛美の歌で、主の救いを喜び、感謝をささげました。

私たちは、見えない感謝の心を、見える形にします。主なる神への感謝を、礼拝賛美や献げものに表します。それで満足してしまうことも起こります。神なる主は、形だけの儀式に満足なさいません。神の民の上に立てられたサウル王は、主なる神から命じられました。主が罰するものを滅ぼし尽くし、神がお嫌いになるものを捨て去れと。ところが、サウル王は神の命令に従わず、自分の嫌いなものだけを滅ぼし、自分の好きなものは捨てませんでした。神がお嫌いになるものをささげて、主に感謝を表そうとしたのです。

神は預言者サムエルを遣わし、御心をお告げになりました。「主が喜ばれるのは、献げものやいけにえであろうか。むしろ、主の御声に聞き従うことではないか。見よ、聞き従うことはいけにえにまさる(サムエ

ル上15:22)」。神は御自分の民に、御言葉に聞き従うことをお求めになり、そうする民をお喜びになります。「あなたたちは、わたしが命じることをすべて忠実に守りなさい。これに何一つ加えたり、減らすことがあってはならない(申命記13:1)」。「人よ、何が善であり、主が何を前求めておられるかは、前告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである(ミカ6:8)」。主の御言葉を退けたサウルは王位から退けられました。神がそうなさったのは、サウルを憎むからではなく、彼を愛するからです。

神の民イスラエルは、主によって救われた時だけでなく、神から叱られた時にも感謝をささげました。「主よ、私ははあなたに感謝します。あなたは私に向かって怒りを燃やされたが、その怒りを翻し、私を慰められたからです(イザヤ12:1)」。「神よ、私を憐れんで下さい、御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐって下さい。神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を、神よ、あなたは侮られません(詩編51:3、18、19)」。「私の神、主よ、私たちに対する数知れない御計らいを、私は語り伝えて行きます。あなたはいけにえも望まず、供え物も求めず、私の耳を開いて下さいました。御旨を行うことを私は望み、あなたの教えを胸に刻み、大いなる集会で正しく良い知らせを伝え、決して唇を閉じません(詩編40:6~10)」。神の民の「感謝」には、「神への罪の告白」と「主の裁きと赦しの証し」が含まれます。これこそ、神がお求めになる愛です。

神の独り子は仰せになりました。「わた

しに向かって、主よ、主よ、と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである（マタイ7：21、24、25）。主イエスの父の御心を行うこと。それは、感謝をささげること。主によって救われた時だけでなく、神から叱られた時にも感謝をささげること。これこそ、「堅い

土台を据える」神の民の生き方です。

父親と死に別れたあの娘の痛みと悔いを、父なる神は御子に背負わせなさいました。主イエスに「ごめんなさい」と「ありがとう」をささげる人は、神の限りない愛を注がれ、悔いを報われ、痛みを取られ、涙をぬぐわれます。娘の胸中に秘められた思いが、独り子の御父への祈りとして、天に届くようにと願わずにおれません。その祈りに、私たちはアーメン！ 本当にその通り！ と唱えます。（二宮 創）

《今週の暗唱聖句》

御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。（ヤコブの手紙1章22節）

8月8日 サムエル記上15章1～34節

【分級展開例A】

神のみ言葉の前で“しょうがない”はない

〈例えの話〉

1. しょうがない1話

神さまが私たちに与えてくださった十戒の中では「安息日を心に留め、これを聖別せよ」と教えられている。しかし、私たちは「友だちと約束があるからしょうがない!」と言い、「今日は部活があるからしょうがない!」と言い、「雨も降るし、寒いのでしょうがない!」と言う。しかし、神のみ言葉の前で“しょうがない”はない。

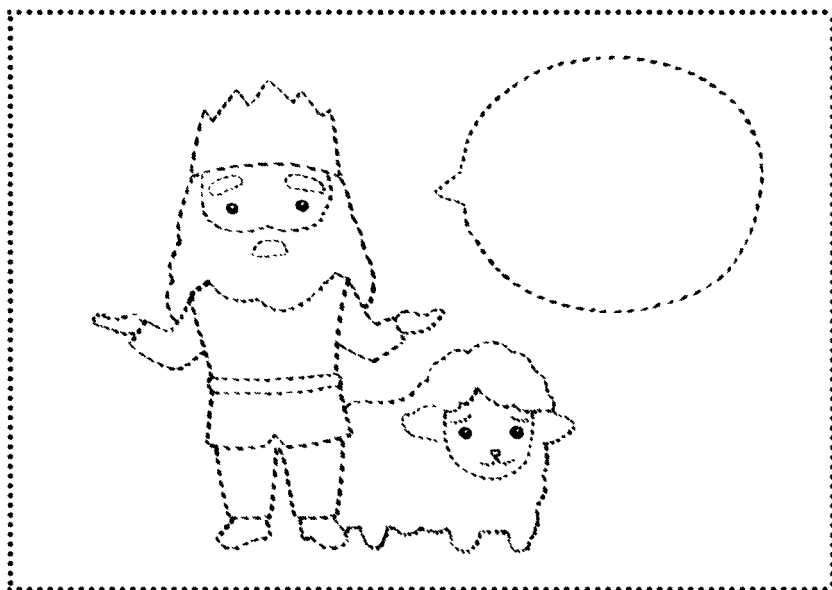
2. しょうがない2話

神さまは、多くの聖書の中で「互いに愛し合いなさい」と命令している。しかし、私たちは、「あの子は嫌いだから、しょうがない!」、「あの子は悪い子だから、しょうがない!」、「あの子は優しくしてあげても、わたしには優しくないので、しょうがない!」と言う。しかし、相手の態度と関係なく、神のみ言葉の前で“しょうがない”はない。

3. しょうがない3話

イエスさまは、私たちを心から赦し、私たちも家族と隣人を赦すように勧めている。しかし、私たちは、「そんなことできない。しょうがない!」と言い、「わたしは赦されたことがないので、赦せない。しょうがない!」と言う。しかし、私たちはイエスさまより赦されない罪を赦された。神のみ言葉の前で“しょうがない”はない。

*しょうがない! と言い訳をした「サウル王」の絵を完成してみよう。



8月8日 サムエル記上15章17～31節

【分級展開例B】

感謝の生活の規準

①わからない言葉は？（8月1日分参照）

〈注意〉知っている子がいれば、その子に説明させてもいいが、子どもたちの人間関係に注意が必要。質問する子と答える子が固定しても、双方の人間関係が円滑なら問題ない。

【想定される言葉とその応答】

- ・ 諸部族の頭……イスラエル12部族の一番上に立つ人。代表者。
- ・ 油をそそぐ……神さまのものとして、特別に取り分けられることを意味する
- ・ 焼き尽くす献げ物……残らないように全て焼いて、その香を神さまに献げる供え物。
全部焼かないで、献げた人たちで食べる和解の献げ物もあった。
- ・ いけにえ……人間の罪の代わりに献げられる動物のこと。
- ・ 脂肪……いけにえの肉の脂身は、燃えて良い匂いがするし、燃やすための燃料にもなる。
- ・ 上着の裾……自分たちの上着の裾をひっぱってみよう。

以下は、辞書の意味で説明可能。なお、子どもが分からない言葉を言ったとき、何節にあるかを言わせると、「章・節」の便利さを子どもに体験させることができる。

- ・ 取るに足らぬ者
- ・ 映る
- ・ 出陣
- ・ 戦利品
- ・ むしろ
- ・ 反逆
- ・ 占い
- ・ 高慢
- ・ 退ける
- ・ 手前
- ・ 立てる

②もっと説明してほしいことは？

【想定される質問とその応答】

- ・ 「滅ぼし尽くせ」という命令に従ってもいいのか……現代の感覚とは大変異なり、古代には各地で、滅ぼし尽くす戦争があった。また、滅ぼし尽くすよりも、奴隷として売ったり、自分たちの物として所有したりした方が良いという考え方もあった。
- ・ サウルは悔い改めたのに許してもらえないのはどうしてか……サウルは悔い改めていない。罪を犯したと言いつつ、兵士のせいにはしているし、神さまより兵士を恐れている。
- ・ 神さまは気が変わらないというのは本当か？……神さまは救いのご計画を成し遂げると言う点で決して変わらない方である。

③22節がポイントである。主が喜ばれるのは、焼き尽くす献げ物やいけにえではなく、主のみ声に聞き従うことであることを確認する。

8月8日 サムエル記上15章1～34節

【分級展開例C】

感謝の生活の規準

先週の間56で、神さまと共に歩む私たち神の子どもの生活は「感謝」の生活であることを確かめました。今日の間57では、その感謝のうちに歩む道について、私たち人間は聖書を通して知らされていることが教えられています。

どんな信仰者にとっても、神の意思に従うことは決して容易ではありません。若い人や求道者がすぐに納得できるとは限りません。「考える機会となればよい」とすべきでしょう。

- ・ どうして「感謝のあゆみ」について、自分の判断ではなく、聖書を通して知らされなければならないのでしょうか。

自分で判断した結果間違った

例：カイン（創世記4：5）、アブラハム（創世記12：10～19）、モーセ（民数記20：6～12）、ダビデ（サムエル記下24：1～17）、ヨアシュ（列王記下13：19）、ヒゼキヤ（列王記下20：12～19）

- ・ 他所からの押し付けでなく、自分の思いを表す方が感謝ではないでしょうか。私たちの思いではなく神さまに従うことが人のあるべき姿であることを示す聖書箇所「信仰とは……見えない事実を確認することです」（ヘブライ11章）
「なにが神の御心であるか……わきまえるようになりなさい」（ローマ12：2）

- ・ 実現できない時、失敗したり間違ったりしたときはどうしたら良いでしょう。
サムエル記上15：22、詩編51：18, 19、マタイ9：13参照

- ・ 敵を「一切滅ぼし尽くせ」（15：3）と言うのが神さまの指示でしょうか。
この指示を今日の私たちはどう受け止めるべきか話し合ってみましょう。

8月15日 マタイによる福音書5章9節（平和主日）

【解説と黙想】

平和を実現する

【平和】 ヘブル語でシャローム。単に争いが無いということではなく、人間の最高の幸福をつくり出す全てのものを意味する。神が私たちに与えてくださった、全ての幸福を楽しむことが平和である。

【平和を実現する人】 これは、穏やかな気質や、平和を愛する人とは区別される。問題を回避せず、問題と取り組み、克服することによって平和をつくり出す人を指す。事を処理する苦勞を避けず、積極的に対処し、平和をつくり出す人を指す。この世を少しでも良くしようとする人たちは、祝福されるということである。

【神の子】 「子」は、「幼子」、「相続人（ロマ8：17）」、「養子（ガラ4：5）」、「似た者」ではなく、「神の息子」を意味する。平和を実現する人は、神の国で威厳と栄光に輝く、神の「息子」と呼ばれるのである。つまり、彼らは、神が為される業に励む、神のような働きをする者なのである。「神の子」は、神の国のために働く、聖霊による器官、主の使者なのである。

【罪】 私たちの間に平和が無いのは、罪があるからである。悪口、憎悪、侮辱、殺人は、第6戒に違反する罪である。また妬み、憎しみ、怒り、復讐心は殺人の根である。これらの罪があるところでは、平和が実現できない。

【神】 主イエスは、「平和の君（イザ9：5）」である。神は「平和の源であり（ロマ15：33）」、「愛と平和の神（コリ二13：11）」で

ある。そのことは、救いの実現において明らかにされた。御父が御子を献げ、御子が罪人の私たちのために御身を献げて、十字架で償いをしてくださった。そのことにより、私たちには、神との平和、和解が与えられた。罪の問題が、処理されたので、神との平和が実現したのである。

【実現する】 「平和を実現する」とは、神の祝福を受けることが出来るようにすること。ゆえに、神が私たちに求めておられるのは、「自分の隣人を自分自身のように愛すること（マタ22：39）」、忍耐、平和、寛容、慈愛、親切を示し、隣人を守り、隣人に善を行うことである。

平和とは、人間と人間の間に正しい関係をつくり出すことでもある。仲違いの調整、不和をやわらげる、対立関係を解消する等の働きは、神のような働きである。平和の実現は、祈りと、それを通して与えられる神の愛によって導かれる。平和の実現には、内なる自由、義への熱心、そして苦しみを味わう覚悟が必要である。

【幸いである】 平和の実現は、平和の君である主の生き方そのものである。主に従って平和を実現する者は、神に喜ばれ、天的な力と喜びに満たされ、神に祝福される。主の王国である、神の国の建設に労しているからである。主はそれを喜び、褒め、祝い、報いてくださる。主に従い、平和の実現に前向きでいよう。（袴田清子）

《参照聖句》 マタイによる福音書5章38～48節、22章34～40節

《教理問答》 子どもと親のカテキズム 問5、18、73、ウエストミンスター小教理問答問68、69、90、ハイデルベルク信仰問答問105～107

8月15日 マタイによる福音書5章9節

【説教展開例】

平和を実現する

◇……………単元のねらい……………◇

イエスさまは、御自身の十字架を通して、私たちの罪を処理し、父なる神との間に平和を打ち立ててくださった。イエスさまの十字架の犠牲によって、私たちは神さまとの平和を与えられている。

新しくされた私たちは、イエスさまに従って、平和を実現する者となるように、召されていることを知る。

「平和を実現する人は祝福されている」

今日は8月15日です。第二次世界大戦で日本が負けた日です。戦争が終わった時、皆さんは未だ生まれていませんでした。でも、教会の一番年配の方々は、戦争を経験されています。先の戦争では日本は、国を挙げて、多くの人の命を奪いました。国を挙げて殺すことに関わっただけでなく、人の生きる住まいや環境を目茶苦茶にしてみました。

他ならない、私たちの国、日本が、戦争を始めたのです。だから、私たちは今日を、自分の国が恐ろしい罪を犯したことを覚えて、懺悔し、悔い改める日として覚えなくてはなりません。

戦争は、神さまの前に恐ろしい大きな罪です。戦争は、神さまの御心に適わないものです。しかし、人間が戦争を起こすのです。ですので、今日は「戦争」の反対である「平和」について、聖書の御言葉から学び、「平和を実現させる」思いを新たにされたいと思います。

今日の御言葉を読んでみましょう。「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5:9)。

聖書が語る「平和」は、単に争いが無いということではなく、人間にとって最高の幸せをつくり出す、全てのことを指します。神さまが私たちに与えてくださった幸せを楽しむことが出来ること、これが平和です。

しかし、罪があると、そのような平和は無くなります。戦争という恐ろしい大きな罪が起こると、神さまが与えてくださっている幸せを、楽しむという平和は無くなり、破壊されて行きます。戦争のような大きな国を巻き込んだ罪は、戦争が終わってからも、憎しみや復讐心を残します。

ハイデルベルグ信仰問答問105は、「殺してはならない」ということの意味を、このように言っています。「思いにより、言葉や態度により、ましてや行為によって、……隣人を……そしったり、憎んだり、侮辱したり、殺してはならないこと」であると。更に同じ信仰問答の問106では、神さまが「ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心」のような心を、憎んでおられると教えています。

私たちは、意地悪をされると、怒り、憎しみ、そして場合によっては復讐心を持つ

てしまいます。しかし、それらは神さまに憎まれるものなのです。悪い事をする事も、悪い事をされて憎しみを抱くことも、根っこは同じで、神さまには喜ばれないことだと聖書は教えています。

神さまはむしろ、「私たちが自分の隣人を自分自身のように愛し、忍耐、平和、寛容、慈愛、親切を示し」、その人を守り、善を行うことを望んでおられる、とハイデルベルグ信仰告白問107は教えています。

そのような愛や慈愛は、果たして大きな罪がある場合に持てるのでしょうか。

今日の御言葉で、イエスさまが「平和を実現する人」と言われる場合の「平和」は、「静けさを好む」人や、「穏やかな性格」な人、という意味ではありません。もっと積極的なことです。問題から逃げ、それを避けて通るのではなく、問題と取り組み、それを克服することによって、平和をつくり出すことです。そのような取り組みは、大きな罪に対しても、私たちの日常の小さいさかいにも当てはまります。

もちろん、この世を少しでも良くしようと努力することは、平和を実現することです。誰もが、造り主である神さまが、与えてくださった幸福を楽しむことが出来るようにすることは、「平和を実現する」ことです。その意味で、貧しい国で、貧しい人達の生活が少しでも良くなるように働くことは、「平和を実現する」ことになります。

しかし、聖書が教える平和は、もっと次元が高く、清く、完全なものです。そのため、このような平和の実現は、神さまの働きの領域です。イエスさまによって新しくされた者は、この神さまのお働きの領域の仕事に召されているのです。「平和を実現する人」は、神の国の建設にたずさわって

いるのです。そのため、「平和を実現する人」は、威厳と栄光に輝く御国の王である神さまの、「息子」と呼ばれると言われているのです。

このような平和を実現する働きの主は、イエスさまです。イエスさまは、「平和の君(=王さま)」なのです。そして、父なる神さまが「平和の源です」。神さまは愛と平和のお方です。

父なる神さまが、御自分の大切な御子イエスさまを犠牲にして、私たちに平和をもたらし、和解させてくださったのです。イエスさまは、この父なる神さまの御心に従い、十字架に掛って、私たちと神さまとの間の平和を実現してくださいました。ここに神さまの愛があります。

意地悪をした人をゆるしてあげることは難しいかもしれません。しかし、祈りによって、聖霊の助けの内に、「ゆるせるようにしてください」と祈ると、神さまが御自身の愛をくださいます。神さまが愛をくださると、不思議に相手のことが理解でき、ゆるせるようにされて行くのです。聖霊が私たちの心を支配なさるとき、私たちも神さまの御心を受け止め、神さまの愛を頂くことで、ゆるす人、平和を実現する人になることができるのです。

平和とは、人間と人間の上に正しい関係をつくることでもあります。仲違いの調整、仲が悪い人同士を仲直りするように導くこと、けんかを止めさせることは、平和を実現することです。

また、戦争の後の処理や問題を解決する役割も、骨の折れる大変な仕事ですが、平和を実現する働きです。他の人の平和のために労苦する仕事は、神さまの喜ばれることであり、やりがいのある働きです。

「平和を実現する人々は幸い」なのです。なぜなら、平和を実現することは、三位一体の神さまの御心だからです。平和を実現することは、主イエスさまに従うことでもあります。主イエスさまの御心に従う人は、父なる神さまに喜ばれます。神さまは御心に適う祈りには、応えて、天的な力と喜び

を与えてくださいます。そのように、「平和を実現する人は」神さまに祝福されるのです。主イエスさまがそのことを喜び、ほめて、祝福してくださるので、幸いなのです。だから、私たちは、イエスさまに従って、平和の実現に対して、前向きでありましょう。(袴田清子)

《今週の暗唱聖句》

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)

8月15日 マタイによる福音書5章9節

【分級展開例A】

平和を実現する

○おじいちゃん、おばあちゃんのお話を聞こう

太平洋戦争終戦時に、小学校入学前後の方は、現在80歳前後です。戦争の時代、その後の困難な時代に、当時の子どもたちはどんな経験をしたのか、直接聞くことができるのは、とても貴重な体験です。

○戦争についての絵本を読み聞かせよう

戦争についての絵本は内容がショッキングなものもあります。子どもたちの年齢や理解度を考えて選びましょう。

例

「おひさまとおつきさまのけんか」 せなけいこ作・絵 ポプラ社

小さな子どもにお馴染みの「ねないこだれだ」「あーんあーん」の作者がユーモアを込め、かつストレートに戦争について問いかけた絵本。

「ちいちゃんのかげおくり」 あまんきみこ作 上野紀子絵 あかね書房

小学校の国語教科書にも採用されているお話です。出征したお父さんがおしえてくれた「かげおくり」で家族を思い出すちいちゃんのお話です。

「風が吹くとき」 レイモンド・ブリッグズ作・絵 さくまゆみこ訳 あすなろ書房

のどかな老夫婦の日常を一瞬にして引き裂いた原子爆弾。核兵器の恐ろしさをリアルに伝える世界的ベストセラー。後半少し陰惨です。

8月15日 マタイによる福音書5章9節

【分級展開例B】

平和を実現する

①わからない言葉はありますか？

「平和」ってどういうことかわかりますか？

「神の子」ってどういうことだと思いますか？

②【想定される言葉とその応答】

・平和……消極的な意味：ケンカ・争いをしていないこと

友達みんなで誰か一人を仲間外れにして仲良くしている時、それは「平和」かな？
お母さんがご飯を作ってくれた時に、感謝も言わず、お祈りもせずに食べるのは？
宿題をしない、お手伝いもしないで、楽しくゲームをして一日を過ごすのは？

本当の「平和」の意味は？

感謝の気持ちをいっぱい持つこと……一番感謝をいうべき相手は？ 神さま
心配がない、助けてもらえることがわかっている……誰が助けてくれる？ 神さま
神さまの恵みを十分にいただいて満たされている状態が「平和」

・「神の子」

子ども……親がいて、子どもだよ。じゃあ、親と子どもってどんな関係？

「似ている」「守られている」「親に言われたことをやる」

じゃあ、「神の子」って誰？ イエスさま

私たちも、イエスさまみたいになれるかな？

③イエスさまがどんなふうに「平和を実現する」者であり、どんなところが「神の子」と呼ばれたか確かめてみましょう。

・病人をいやす（マタイ8：14～17）、罪人を招く（マタイ9：9～13）、

「仲間を赦さない僕」（マタイ18：21～35）

・「わたしの愛する子」（マタイ3：17）、子に雨を降らせる（マタイ5：45）、

子には良い物を与える（マタイ7：11）、罪を赦す神の子（マタイ9：6）

（平和についてイエスさまが話しておられる聖書のいろいろな箇所を開いてみると良いでしょう。ただしマタイ10：34は説明が難しいでしょう）

8月15日 マタイによる福音書5章9節

【分級展開例C】

平和を実現する

今日は、いつもとちょっと違う話をします。

今日は8月15日です。今日は何があった日か知っていますか？

期待する答えは「終戦記念日」「太平洋戦争（第二次世界大戦）が終わった日」です。

高校生だと、以下の細かな話を知っている子がいるかもしれません。

終戦の詔勅の日付は8月14日。

15日は「ポツダム宣言受諾（降伏表明）を国民に公表した日」。

降伏文書の調印は9月2日。（アメリカなどではこの日を戦勝記念日とする例がある）

ソビエト連邦の侵攻は9月4日まで継続。その後も引揚げ等で苦しんだ住民が多い。

沖縄では9月7日に降伏文書調印まで戦闘が続き、それまで多くの住民が犠牲になった。

更に本題とは離れますが、8月15日がこんな日であることを知っている子がいるかもしれません。期待する答えと違っても「よく知っているね」と認めてあげましょう。

イエズス会結成（1534年）、ザビエルが日本上陸（1549年）、

ナポレオンの誕生日（1769年）

第二次世界大戦終了後もたくさんの戦争がありました。知っていますか？

例として、中東戦争、朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラン・イラク戦争、湾岸戦争、イラク戦争、アフガニスタン侵攻、その他多くの紛争が挙げられます。

日本はこれらの戦争とどう関わっているのでしょうか。日本は平和と言えるのでしょうか。

本当に「平和を実現する」には、どうしたら良いと思いますか？

「イエスさまの贖罪と和解の業こそが本当の和解と平和をもたらす」というのが最終的に向かうべき回答です。今回は、具体的な「戦争と平和」の課題から話を始めていますので、救いのことにまでたどり着くには時間が足りないでしょう。

子どもたちが、自分たちが決して戦争と関わりない「平和」な状況にいるわけではないということに気付き、平和への意識を持つことができれば、今日の目的は果たしています。

8月22日 申命記5章1～22節（カテキズム問58）

【解説と黙想】

感謝の道しるべ・十戒

子どもと親のカテキズム問58から、十戒についての教えに入ります。問58は、聖書には神さまが求めておられる愛の生活の基準として十戒が記されていると教えています。

道徳律法

はじめに関連するウェストミンスター小教理問答問40を見ると、神の御意志に従うにあたっての神御自身が示してくださった基準とは何かが教えられており、それは道徳律法である、と教えられていました。

「道徳」（モラル）というのは、人と人同士がともに生きていく上での共通の約束で、お互いに受け入れ合っている決まりです。それは誰かが決めたとか、教えたということではなく、人が生まれもって身につけている感覚、センスです。

聖書はその感覚、センスの起源は、私たち人間をご自身の似姿に似せて、お造りになった創造主なる神ご自身にあると教えています。パウロはそのことをローマの信徒への手紙2章で、神が人を創造された時からすでに心に律法を書き記されたと教えています。

道徳については社会でもその大切さが叫ばれています。今日学校教育では公共のモラルの低下が嘆かれ、道徳教育がしきりに叫ばれていますが、その意味するところは神ではなく国家に対する忠誠を求める愛国心教育と結びついています。

だからこそ今日私たちは神ご自身の求め

ておられる御意志によく聞き従い、示された愛の規準に学ぶことが必要だと思いません。

道徳律法の要約としての十戒

「規準」という言葉を聞くと、私たちから自由を奪い去るもののように思い、身構えてしまうかもしれません。しかしこれは主の恵みにあずかり、救いの喜びと感謝と自由に生きる私たちが、神と共に生きたいと願い、神に喜ばれる歩みをしたいと願うことと言って良いです。

では神が求めておられる規準は一体どこにあるのでしょうか。それは十戒の中にあります。聖書は人間の心には律法が刻まれていると教えていますが、最初の人間に罪が入り込み、墮落した結果、人間の中に刻まれている律法は正しく機能しなくなってしまいました。

その結果、人間は真の神を求めることができず、また神の御心にかなう善を行うこともできなくなってしまったわけです。それが偶像礼拝の始まりであり、また神を目的とせず、自己中心に生きることを始めた人間の姿です。

だからといって人間の中にある道徳感覚、善悪の感覚そのものがなくなったわけではありません。罪による歪みのゆえに、絶えず悪へと傾いていますが、ちゃんと残っています。問題は、それが何を基準とするかが分からなくなっているということです。

主なる神は、そのような人間たちが基準に立ち帰って生きる道を示してくださいま
を失ったまま生きることによしとはなさらず、もう一度、心に刻んだ律法を、改めてした。それが十戒です。主イエスは神の愛
言葉を持って書き記し、神との正しい関係に生きる私たちが十戒に生きるように招いておられます。 (國安 光)

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙 2 章 9～16 節、マタイによる福音書 5 章 17 節
《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問 40, 41、ハイデルベルク信仰問答問 87, 88

8月22日 申命記5章1～22節

【説教展開例】

感謝の道しるべ・十戒

◇..... 単元のねらい◇

神さまは私たちが神さまと人と平和と愛の関係を築きながら歩むことを望んでおられる。子どもたちが、十戒は神さまの愛の語りかけであることを知ること。神さまに愛される子どもとして、感謝をしながら神さまと人と世界を愛し生きることができるよう助けること。

「十戒は神さまからの愛の語りかけ」

規則は大切なしるし

道路に線が引いてあるのを見たことがありますか？ この間、車を運転している時に思ったのですが、車を運転するには、規則を守ることが大切です。

道路に引いてある白い線が何のことか知っていますか？ 道路に引かれた線は、運転する人にはなくてはならない大切なしるしです。

道路の真ん中の黄色や白い線を越して走ると、反対側から走ってくる車にぶつかってしまいます。

点々と書かれている線は、同じ方向に向かう道路に移っても大丈夫です、というしるしです。前に走っている車を追い越すことができますよ、というしるしでもあります。

このように、それぞれの線が運転する人に大切な道しるべになっていることがわかります。やがて皆さんが車を運転するとき、ぜひしるしに注意してくださいね。でも運転する時だけではありません。私たちが神さまを信じて歩いていく時にも道しるべが必要です。

十戒は神さまがくださった大切なしるし

神さまはどんな道しるべを与えてくださったのでしょうか。それは十戒です。十戒は名前の通り、神さまが与えてくださった10の戒めです。私たちが、家族や友達と、そして何より神さまと良い関係を気づきながら、幸せに生きていくための道しるべとして、神さまは十戒を与えてくださいました。

神さまは十戒をモーセを通して、神さまを信じる人々に与えてくださいました。「イスラエルよ、聞け。今日、わたしは掟と法を語り聞かせる。あなたたちはこれを学び、忠実に守りなさい」（申命記5：1）

神さまは、神さまを信じる私たちに、あなたのために大切な道しるべを語るから「聞いて！」とおっしゃいます。「あなたにぜひ聞いてほしい！ ここにあなたが本当に幸せに生きていく道しるべがあるから、何をするよりも前にまず聞いてほしい！」こんなに深い愛をもって神さまは語りかけてくださるお方です。

「戒め」と聞くと、固くて、縛られるみたいで、何か自由が奪われるようで嫌だ、と思われるかもしれませんが。でもその戒めが、愛してくださる神さまの言葉で、本当

に私たちのことを私たち以上にご存知の方が、私たちが幸せに生きていってほしいという願いをもって語ってくださっているとしたら、どうでしょう。

十戒は、私たちを愛してくださる神さまの、神さまを信じて歩むという旅を案内する、大切な道しるべです。十戒に自分を愛してくださる神さまの存在を感じつつ、神さまが何を私たちに望んでおられるのか、何をするように求めておられるのか示されながら、安心して、感謝をして、歩むべき道を歩んでいます。これは本当に嬉しいことではないでしょうか。

子どもと親のカテキズム問58を開いて読んでみましょう。

問58 神さまが聖書を通して示された愛の生活の規準はどこにありますか。

答 「十戒」の中にあります。

十戒は、神さまに愛される子どもである私たちのために与えられました。神さまの愛を感じながら、神さまを愛し、家族を、友達を、すべての人々を愛し生きていきたいと思います。

自分の力ではなく恵みによって

そこでもう一つ大切なことを忘れないでおきたいと思います。十戒を道しるべとして生きていく時、道から外れてしまっていると感じる場合があります。「なんてこった……神さまを、人を愛せなかった」学校の中で、習い事の中で、家族の中で、いろんなところで感じる必要があります。

「こんなダメな自分を神さまはもう愛しておられないのではないか」とか「こんな

にダメなのは神さまが自分を愛しておられないからだ」そういう思いが積み重なって「こんな辛い世界で、愛に生きていくなんでできっこない!」、そう思って教会から離れてしまったり、聖書を読むのが嫌になったり、神さまから離れたくなってしまうことがあるかもしれません。わたしはありました。

忘れないでください。神さま、そんな私たちであったとしても、愛し続けてくださいます。決してお見捨てにならないです。今日のみことばには、「我々の神、主は、ホレブで我々と契約を結ばれた。主はこの契約を我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きている我々すべてと結ばれた」(申命記5:2、3)とありました。

契約を結ぶ、ここに神さまと私たちとの関係がどのようなものであるかがあらわされています。私たちの状態や都合とは関係なく、神さまが私たちを選んで、神さまが私たちを愛して、神さまが私たちを神さまと生きる存在としてくださった、これが私たちと神さまとの間のつなぎです。そしてこれは今も変わることはありません。

神さまは正しいお方ですので、もちろん罪をお嫌いになります。道から離れている私たちを悲しまれます。ただだから、私たちをお見捨てになる方ではないのです。そんな私たちにもかかわらず、愛してくださるお方です。そんな私たちにもかかわらず、何度も何度も私たちに呼びかけながら、十戒に示される神さまの子どもとして歩むべき道へと引き寄せてくださいます。

そうです。契約を結んでくださった神さまは、こんな私たちだからこそ、独り子イエスさまをこの地に送ってくださいました。イエスさまを十字架にかけて、私たち

のすべての罪を贖ってくださいました。あなたが不幸なままで生きて欲しくない、人生の旅をわたしの愛によって、感謝の中で、喜びの中で歩んでほしい、イエスさまの十字架にはそういう神さまの愛があらわされています。

神さまは、このイエスさまの十字架によって、何度も私たちを呼びかけてくださいます。道から外れてしまう私たちを招いてくださいます。

十字架のイエスさまのもとで、私たちは神さまに愛され、赦されたものとされています。罪を認め、赦しを願うなら、どんな失敗を犯したとしても神さまは赦してくださいます。神さまは十字架のイエスさまを差し出しながら、今日も、明日も、私たちの手を握りながら、歩むべき方向へと歩ませてくださいます。この神さまの恵みによって私たちは十戒に生きます。

(國安 光)

《今週の暗唱聖句》

主は契約を告げ示し、あなたたちが行うべきことを命じられた。それが十戒である。主はそれを二枚の石の板に書き記された。(申命記4章13節)

8月22日 申命記5章1～22節

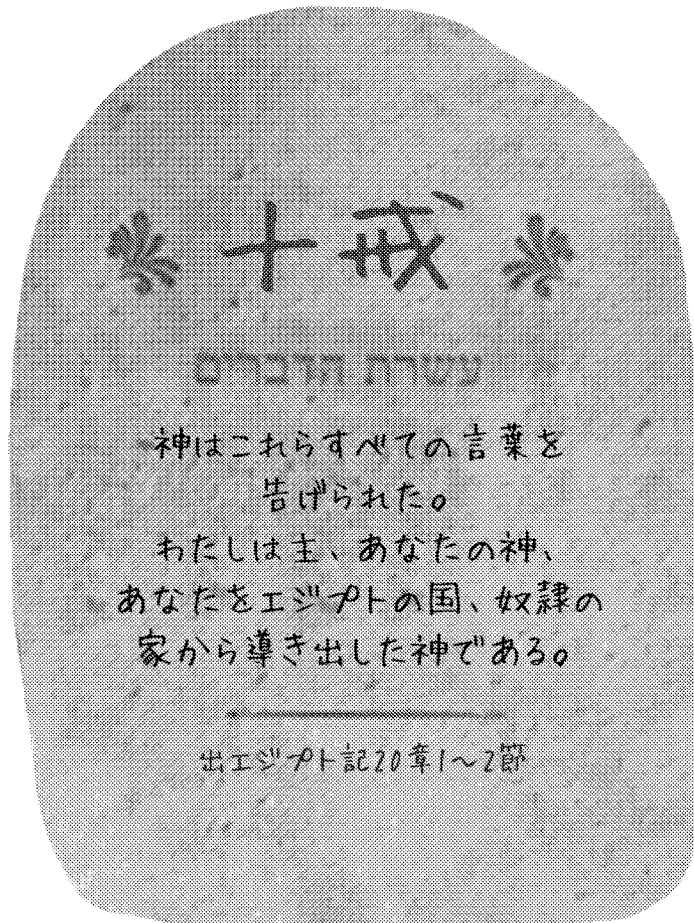
【分級展開例A】

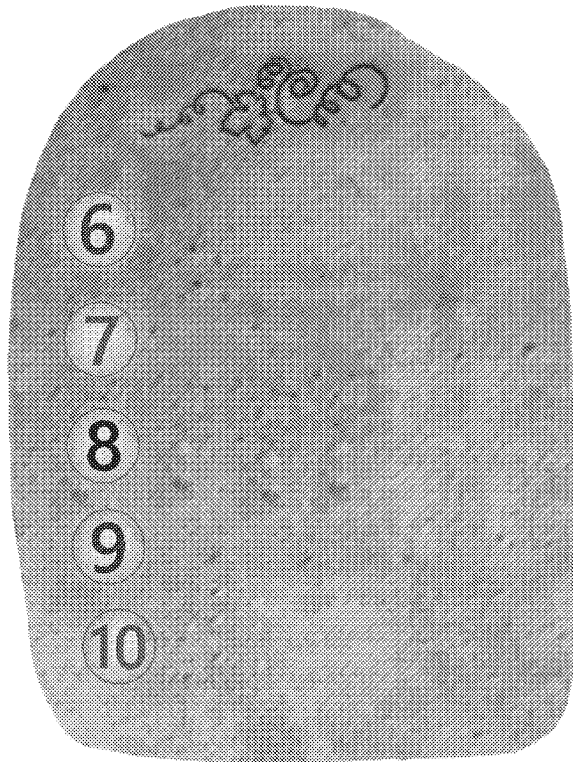
十戒を作ってみよう！

〈説明〉

モーセがシナイ山で神から受けられた十戒の二枚の石の板を自分の手で作ってみよう。下にある十戒の石と10個の契約の二枚の石をそれぞれの子どもたちに3枚ずつ渡してあげる。子どもが小さいときは、もう少し大きく印刷してあげる。

今日の聖書箇所である「申命記5章6節から21節までを子どもたちが直接読みながら、自分の手で自分の言葉で要約して書けるように勧めていく。よく分からない子どもは先生と共に書いてみる。自分の手で作った十戒をお家に帰って、一番よく見えるところに貼って、毎日読めるように勧めていく。





8月22日 申命記5章1～5, 22節

【分級展開例B】

感謝の道しるべ・十戒

① 6節から21節を読みませんでした。ここに書いてあることが何か分かりますか？

(十戒であることを確認してから)

わからない言葉は？

(6～21節からも質問を受け付けるが、どうしてもこの時間で答えるべきこと以外は、十戒の各戒めを学ぶときに答える。誰からの質問であるかも記録しておく。

なお、ここで、質問がたくさん出た場合、質問を聞くだけで分級の時間が終わってしまうことも想定されるが、それはそれでかまわない)

【想定される言葉とその応答】(1～5, 22節のみ記す)

- ・掟と法……墮落して不法に満ちた世界で、神さまがイスラエルの民を選んで、彼らが生きるためにくださった神さまの命令が掟と法。
- ・ホレブ……シナイ山のこと。ここで40年前に十戒を与えられた。
- ・我々……出エジプトをしてカナンに向っているイスラエルの民。40年間荒れ野を旅してきており、エジプトを出たとき大人だった人はモーセとヨシュアとカレブ以外はいない。ホレブの契約は、親や祖父たちではなく、今ここにいるわたしたちと結んだことが強調される。そして、その契約は今聖書を学んでいるわたしたちとも結ばれている。
- ・契約……出エジプト20章以下の、神さまのお約束。
- ・先祖……お父さん、お祖父さんと遡っていく。イスラエルの民の先祖の名前を言わせてみたり、子ども自身の先祖の名前を言わせてみたりすると面白い。
- ・密雲……出エジプト20：18～21 雷鳴とどろき稲妻の走る密雲(厚く重なった雲)。「ラピュタ 竜の巣」で検索すると見せたい画像や映像が出てくる。

② もっと説明してほしいことは？

【想定される質問とその応答】

- ・火を恐れるってどういうこと？……出エジプト20：18～21をかいつまんで話す。
- ・二枚の石の板はどれくらいの大きさだったのか？……契約の箱(縦112cm、横67cm、高さ67cm)に入るくらいの大きさ

③ 神さまの前に人が罪を犯し墮落して、罪と悲惨の世の中であって、神さまがイスラエルの民の神となってくださった。イスラエルの民が愛である神さまの前に生きていくために十戒が与えられた。

8月22日 申命記5章1～22節

【分級展開例C】

感謝の道しるべ・十戒

聖書の目次を開いてみましょう。

聖書が「旧約聖書」と「新約聖書」に分かれているのは知っていますね。

旧約聖書は全部で39の文書が含まれており、大きく①「律法」（創世記～申命記・5書）、②「歴史」（ヨシュア記～エステル記・12書）、③「詩歌」（ヨブ記～雅歌・5書）、④「預言」（イザヤ書～マラキ書・17書）に分けられます。

新約聖書は全部で27の文書が含まれていて、①「福音書」（マタイ～ヨハネ・4書）、「使徒言行録」（1書）、書簡（ローマ～ユダ・21書）、「黙示録」（ヨハネ・1書）に分けられます。

（『教会学校教案誌』77号・2020年4～6月号に、「せいしよめいもくずくし」の楽譜と歌詞が掲載されています）

聖書全体が「まことの神さまがどのような方であり、私たちのために何をしてくださったか、また神さまと共に歩むとはどのようなことかを語っています（子どもと親のカテキズム問7）」。従って、私たちは聖書のあらゆる箇所ですら神さまご自身とその救いの働きを知ることができますし、私たち自身がその神さまの前でどのように生きるべきか、すなわち「愛の生活の規準」（問58）を知ることができます。

けれども特に「律法」と呼ばれる旧約聖書の箇所には、私たちの信仰生活や日常生活の規準が具体的にまとめられており、旧約時代のユダヤの民たちは、実際に生活の規範としてきました。ユダヤ教の学者は「律法」の中に全部で613の規則があると数え上げています。

規則の中には当時の神殿祭儀の規則である「祭儀律法」や当時の社会生活を背景とした「司法律法」などと分類されるものがあり、それらを今日すべてそのまま実行することはできません。しかし「道徳律法」と呼ばれる規則は、より普遍的で、その中心が「十戒」です。

十戒を始めとする律法は、厳密に守れば合格、守れなければ不合格と言うものではありません。むしろ、私たちは全員律法を守れない罪人です。（問20～24、問82～83参照）

改めて自身を顧み、悔い改める機会として、また感謝の生活の目標として、十戒を心に留めるようにしましょう。

・「十戒」を読んで、どんな感想を持ちましたか。自分は何に気をつけようと思いますか。

8月29日 マルコによる福音書12章28～34節(カテキズム問59)【解説と黙想】

十戒の心・神と人を愛する

「十戒」の要約は、イエス・キリストが、一人の律法学者の尋ねに答えて教えられたものである。それは、律法学者が「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」と一つの掟を期待したのに対して、イエス・キリストは、神を愛することと、人を愛することの、二つの掟をもって、答えられた。それは、両者が決して切り離すことのできない一つの掟であることを示している。

当時の宗教的指導者たちは、聖書の掟を幾つかの細かい掟に分析し、さらに肯定的掟と否定的掟に分けて考えた。そして、それらをより重要な掟と、そうでない掟とし、掟それ自体に軽重を設けた。

また、イエス・キリストが答えられた、二つの掟を、ユダヤ人たちは、朝に夕に唱える習慣もあった。

しかし、イエス・キリストは、そのような軽重をつけるのでも習慣的に唱えれば済むのでもなく、むしろ、神の掟が、始めから、一つの愛の掟であって、それは、神にかたどって造られた人間の「心」「精神」「思い」「力」による全面的で真実な愛を命じるものであることを明らかにする。この愛は、神を正しく愛し、隣人を愛することに向かうものである。それは、ただ、神の目においてのみ、その真偽が正しく裁かれるものであり、人間の目ですべてを計り知ることのできないものである。

つまり、神に造られた人間であれば、本来、造り主なる神を礼拝するのは当然である。また、神が造られた人間同士が、お互いを大切にすることも、同様である。それができないのが、アダムにおいて墮落した罪深い人間(罪人)の有様である。

律法学者は、イエスの答えを聞いて、それが全く掟のとおりであること認めた。しかも、二つの掟を一つにまとめ、それが、「どんな焼き尽くす献げ物やいけにえ(犠牲)よりも優れています」と答えた。

これは、サウル王が、最上のいけにえ(犠牲)を神にささげることの惜しんだとき、サムエルによって、その心を問われたこと(サムエル上15:22)、また、預言者たちが、しばしば、神殿礼拝がささげられていながら、イスラエルの民の生活における不義を神の正義においてに問うたこと(ミカ6:6～8、マラキ2:10)を思い起こすものである。

主イエス・キリストこそ、完全に愛の掟を行ってくださったお方であり、「律法の目標」(ローマ10:4)である。

恵みの契約において、神と人の唯一の仲保者でいます、主イエスの唯一完全な贖いのゆえに、真心から神礼拝がささげられ、神に深い憐れみによる、隣人への愛を確かめつつ、愛の掟の「本当の心」を伝えたい。(宮武輝彦)

《参照聖句》 申命記6章4, 5節、レビ記19章18節、マタイによる福音書5章21～26節、ルカによる福音書10章15～37節、ヨハネによる福音書15章12節、ローマの信徒への手紙13章9節、ガラテヤの信徒への手紙5章14節、ヘブライ人への手紙10章19～25節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問41, 42、ハイデルベルク問答問93、ウェストミンスター大教理問答問98

8月29日 マルコによる福音書12章28～34節

【説教展開例】

十戒の心・神と人を愛する

◇..... 単元のねらい◇

- 1 イエスさまは、「十戒」の要約を教えてくださいました。それは、神を愛し、隣人を愛すること。
- 2 神を愛することと、隣人を愛することを切り離すことができないことを、イエスさまは教えられた。
- 3 じつは、罪深い人間にとって、神さまと隣人を正しく愛することは、神さまの恵みによること。
- 4 イエスさまだけが、この掟（おきて）を完全に守って教えてくださいました。イエスさまが、十字架の上でささげられた「本当の愛」を、私たちの「心」とするために、イエスさまにいつも学ぼう。

「イエスさまの愛を私たちの心とする」

今、私たちは、子どもと親のカテキズムをいっしょに唱えました。そこでは、「キリスト（イエスさま）が教えてくださいました『十戒』の要約とは、どのようなものですか」と問いかけてられています。「要約」とは、できるだけ大切なことだけをしばって言うことです。十戒は、まえがきと十の戒めから成り立っていますが、それを全部まとめるとどのようなものですか、と聞いているのですね。

一人の律法学者が、イエスさまに、「あらゆる掟（おきて）のうちで、どれが第一でしょうか」とたずねられたとき、イエスさまは、「第一の掟は、これである」と答えてくださいました。つまり、「要約」とは、ただ全体をまとめただけではなくて、「一番大事なもの」ということです。

それは、「イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である」(12:29)という言葉で始まります。

カテキズムにはこの言葉が省かれていま

すが、マルコによる福音書には、この言葉は入っています。

「イスラエルよ、聞け」とは、昔、エジプトで奴隷にされてとても苦しい毎日だった、神さまの民、イスラエルの人びとに聞きなさい、と命じている言葉です。

モーセは、改めて、エジプトからあなたがたをすく出された神さまは、ただお一人で、この御方は、「主」というお名前をもって、ご自身を現わして教えてくださいましたことを思い起こしています。それは、どんなにつらいとき、悲しいときに、あなたがたといっしょにおられるお方であるという意味です。

本当の神さまは、イスラエルの人びとを呼び、そして、みずから、私たちの神となられた、「主」であり、しかも、ただお一人の神さまです。

そして、第一の掟（おきて）とは、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛し

なさい」であると教えていただきました。

そして、「第二の掟（おきて）は、これである」と言われ、「隣人を自分のように愛しなさい」と教えていただきました。そして、「この二つの掟にまさる掟（おきて）はほかにない」とはっきり教えていただきました。

これは、第一の掟（おきて）と第二の掟（おきて）は、切り離すことができず、第一の掟がなければ、第二の掟が成り立たず、もし、第二の掟がなければ、第一の掟もあり得ないこと表しています。

それは、神さまが、人間を造られたとき、はじめから、人間をお互いに愛し合うものとして造られたからです。最初の人間アダムにとって、最初の隣人は、自分のあばら骨から造られた妻のエバでした。神さまが定められた結婚は、はじめから隣人を愛することを学ぶことでもあります。

ですから、子どもたちは、お互いに愛することを、それぞれの家庭で、お家の人をとおして、学び始めるのですね。

もちろん、きょうだいや、近所や、学校のお友達をとおしても、お互いに大切にすることを学ぶでしょう。それは、全部まとめて言うと、イエスさまがおしてくださったとおり、「隣人を愛する」ことであり、大切な掟（おきて）です。

それでは、どうして、「隣人を自分のように愛しなさい」という掟（おきて）は、「あなたの神である主を愛しなさい」という掟（おきて）と一つなのでしょう。

それは、神さまが、人間をお互いに大切にして、愛し合うように造られたのですが、それは、神さまを愛するときに、正しくされるからです。

「正しくされる」と聞くと、間違った愛

もあるの？　と思うかもしれません。そうですね。とても悲しいことに、アダムにおいて、神さまの最初の命令をやぶってしまったために、すべての人に罪（つみ）が入ったために、人間はお互いに正しく愛し合うことができなくなりました。ですから、十戒によって、神さまは、本当の神さまがどういうお名前であり、また、この本当の神さまでおられる「主」が、ただお一人の神さまであり、このお方を、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、愛しなさい」と命じています。

それは、私たちが、本当にすべての思いを尽くして愛するお方は、ただお一人の神さまであると教えているのです。

みなさん、どうでしょうか。お家で楽しく過ごすとき、学校でお勉強したり、遊んだりするとき、神さまに心を向けているでしょうか。教会の礼拝のときだけ、神さまのことを思い出しているでしょうか。イエスさまは、どんなときにも、神さまのことを忘れずに、しかも、「心を尽くして愛しなさい」それは、隣人を愛するときも同じです、と教えておられるのです。

それは、罪（つみ）という、正しい愛に反する心をもっているすべての人間には、じつは、とても難しいことです。ですから、私たちは、なおさら、「神さまと隣人を正しく愛することを教えてください」といつも、神さまによくお祈りすることが大切です。

じつは、この二つの掟を完全守ってくださったお方がおられます。それは、だれでしょうか。そうですね。イエスさまです。イエスさまだけが、ただお一人、この神さまの愛の掟を完全に守っていただきました。

イエスさまから、二つの掟とも一番大切な掟であることを教えられた律法学者は、イエスさまに言いました。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえ（犠牲）よりも優れています。」と言いました。

イエスさまは、律法学者がよく考えて、ていねいに答えたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われました。

それは、神さまの見られるところは、どれだけ立派ないけにえ（犠牲）をささげたかではなく、その心が、神さまを畏れ、自

分の罪を認めて、へりくだって、神さまのゆるしを求めているか、神さまの恵みをいつも感謝していることにあることを教えるものです。

罪深い私たちが、そのままでは、神さまの求められる愛にかなうことはできません。けれども、イエスさまが、私たちの身代わりとなって、十字架の上で、完全ないけにえ（犠牲）となってくださったことを知るとき、私たちは、本当の愛を知り、イエスさまの愛を私たちの心として生きはじめます。これが、イエスさまが成し遂げられた、愛の掟です。

このイエスさまの愛を目指して、みんないっしょに、神さまをよろこんで礼拝し、お互いに、愛し合ひましょう。(宮武輝彦)

《今週の暗唱聖句》

イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。

そのことによって、わたしたちは愛を知りました。(ヨハネの手紙一3章16節)

8月29日 マルコによる福音書12章28～34節

【分級展開例A】

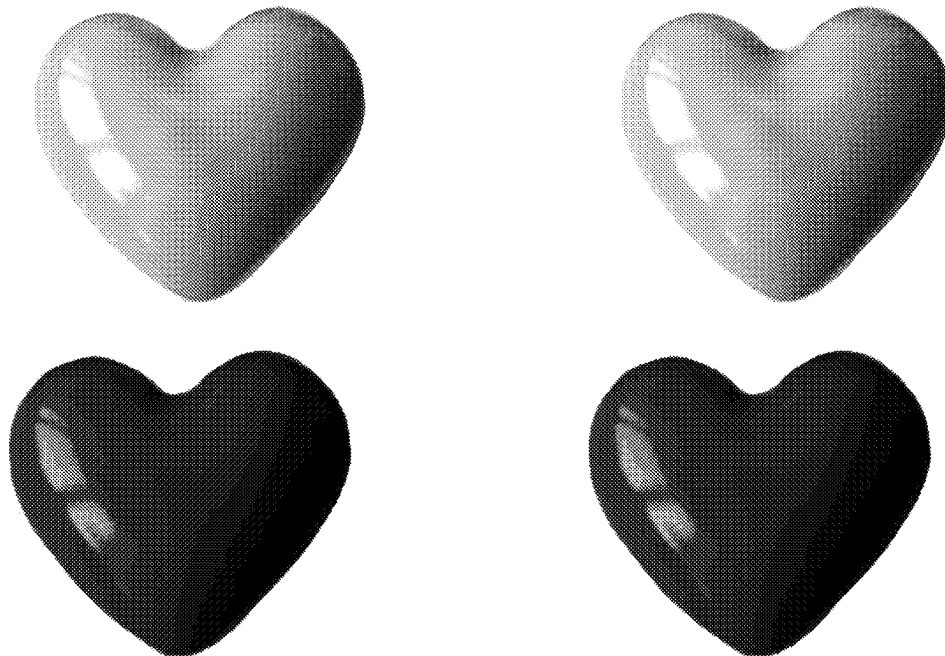
イエスさまの愛を自分のものにしよう

〈説明〉

イエスさまが教えてくださった第一の掟と第二の掟は、神を愛し、隣人を愛することである。愛は愛の元であるイエスさまからいただくものである。子どもたちにイエスさまの愛から本当の愛を学ぶことができ、周りの人々に伝えていけることを説明してあげる。

次ページにイエスさまの両側に子どもたちが立っている塗り絵がある。自分の名前を書いて塗り絵が終わった子どもたちにイエスさまの愛であるハートの3枚を渡す。そのハートがイエスさまから子どもの方に移動していけるように順番に貼っていく。まず、イエスさまの心にハートを貼った後、子どもの心にイエスさまと同じハートの絵を貼っていく。イエスさまの愛をもらった子ども達は、周りの人々にも主の愛を伝えることができる。

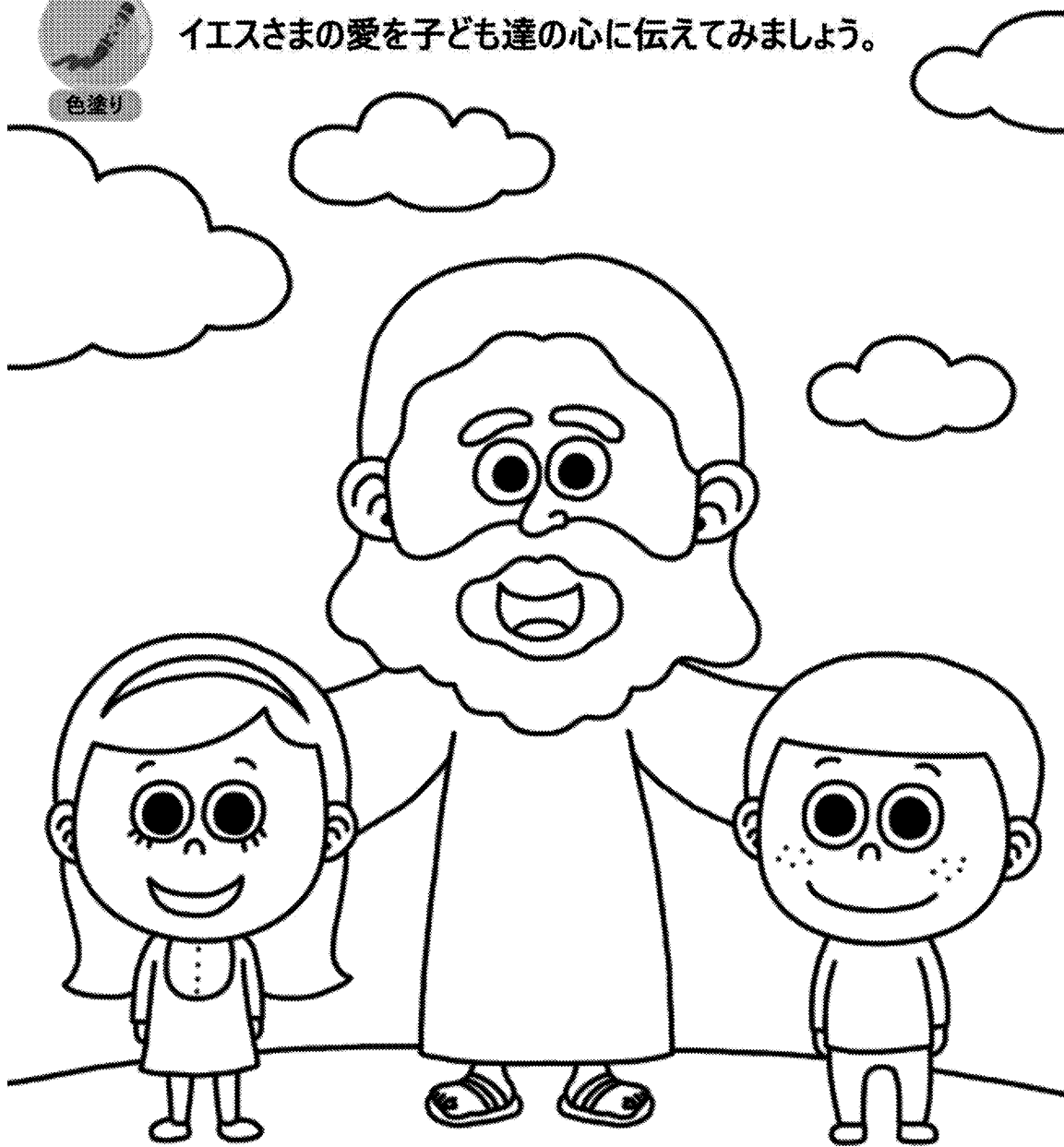
〈余分の1個を入れたハート4個〉





色塗り

イエスさまの愛を子ども達の心に伝えてみましょう。



名前：



8月29日 マルコ12章28～34節

【分級展開例B】

十戒の心・神と人を愛する

①わからない言葉は？

【想定される言葉とその応答】

- ・ 尽くし……全部を使って
- ・ 精神……心の働き
- ・ 隣人……隣にいる人→具体的に誰かを話し合う
- ・ 適切……他の日本語訳では「賢く答えた」。ふさわい。あてはまる。正解だった。
- ・ 神の国……マルコ1：14 イエスさまが宣べ伝えられたのは「神の国は近づいた」こと。誰が神の国に入ることができるのか、何をしたら神の国に入ることができるのか、神の国とは何にたとえられるのか。みんなが入りたいと願っている神の国に、この律法学者は遠いところではなく、近いところにいると、イエスさまは褒められた。
- ・ もはや ・ あえて

②もっと説明してほしいことは？

【想定される質問とその応答】

- ・ あらゆる掟ってどれだけあるの？……出エ20章～申命記。聖書の中で預言者が語っているもの。それ以外にもユダヤ教にはたくさん掟があった。
- ・ 心と精神と思いはどう違うの？……似た言葉を重ねることで、「わたしの全てを尽くして」ということを強調している。
- ・ イエスさまは、「心、精神、思い、力」、律法学者は「心、知恵、力」、この違いは？……申命記6：5「心、魂、力」。マタイ「心、精神、思い」。ルカ「心、精神、力、思い」。「知恵を尽くして」はコヘレトの言葉にある。
- ・ なぜ、もはやあえて質問する人はいなかったのか？……11:27以降の一連の問答があったことを確認し、律法学者、ファリサイ派、サドカイ派などの質問がイエスさまによって全て答えられ、言い返すことが出来なくなったことを伝える。そして、イエスを殺そうとする

③第一の掟と第二の掟は、十戒の1～4戒、5～10戒にそれぞれ対応することを伝える。

表（次ページ参照）を用意して、①に第一の掟、②に第二の掟を書き込ませる。用意したシールを貼らせてもよい。9月5日から前書きから一戒ごとに学ぶので、その時に前書き・第一戒～第十戒の数字と文言を順に書き込んで表を完成する。数字は、二年生以上であれば漢数字が書ける。石の板のデザインのものや、大きな表を用意して、全員で一つのものを作っても面白い。

前書き		要約
第 一 戒		①
第 二 戒		
第 三 戒		
第 四 戒		
第 五 戒		②
第 六 戒		
第 七 戒		
第 八 戒		
第 九 戒		
第 十 戒		

じっかい あい せいかつ きじゅん
 十戒 愛の生活の基準

なまえ

まえがき 前書き		よまやく 要約 (まとめ)
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		
だい かい 第 戒		

8月29日 マルコによる福音書12章28～34節

【分級展開例C】

十戒の心・神と人を愛する

先回の分級で、旧約聖書の中に613の戒めがあることを説明しました。それらの戒めをどういうふう守れば良いのか、どう振る舞えば違反にならないのか考えたのが「律法学者」の仕事でした。日本の法律でも、「自動車は安全な速度ではしらなければならない」という決まりに対して、「この道は30キロ制限」「この道は60キロ制限」「ここは高速だから100キロ出せる」といった細かい規則が作られます。律法学者は、様々な律法を研究し、それぞれの戒めの優先順位（マルコ7：10～12）や、免除される条件（ルカ14：3～6）、重要度（当該箇所）、許容される範囲（使徒1：12）などについて議論していました。

しかしイエスさまの律法の理解は、「細かな細部について厳密に判断して、違反と遵法を区別する」と言う律法の守り方ではありません。今日の聖書箇所の並行箇所であるマタイ22：40に「律法全体と預言者（つまり聖書全体）は、この二つの掟に基づいている」とあるように、律法の本質、中心点を徹底的に追求することで、律法の全体を考えるやり方です。

今日の箇所でも「第一の掟は、……第二の掟は、……」とありますが、その後第三、第四、と第六一三まで続くのではなく、この二つの律法の本質に基づいて、すべての律法を理解し、実践することを求めています。当然、十戒を理解する時もこの二つの戒めが鍵になります。そこで十戒の各箇条を学ぶ前にこの二つの戒めを確認したのです。

- ・上記のマルコ福音書7章における議論は、「あなたは、土地の最上の初物をあなたの神、主の宮に携えて来なければならない（出エジプト23：19）」と「あなたの父母を敬え（出エジプト20：12）」という二つの戒めの優先順位を問うものと言えます。前者は「神を愛する」、後者は「隣人を愛する」戒めに属すると言えます。あなたなら、この問題にどう対応しますか？

（あくまで正解を求める問いではありません。万能な正解はありませんのでそれぞれで考えた結果を比べてみましょう）

9月5日 出エジプト記12章1～36節(カテキズム問60、61) 【解説と黙想】

十戒の心・父の愛の戒め

前書きのもつ決定的意味

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」(出エジプト20:2)。これが十戒の前書きです。この御言葉と十の戒めとはたいへん深いつながりを持っています。ですから、前書きと十の戒めとを切り離してはなりません。前書きにおいて語られている神の言葉は、十戒の全体を決定づけると言ってよいほどに決定的な意味を持っているのです。

前書きの背後には、恵みの御業がある

前書きは神の救いの宣言です。その背後には、神の救いの御業があります。過越の御業です。神は奴隷状態であったイスラエルを大いなる御手をもって救い出されました。そこに、選びの民イスラエルへの愛があらわされたのです。

「エジプトの国、奴隷の家から導き出す。それはたんに社会的、民族的な苦難からの解放ということにはとどまらない意味をもつものでした。すなわち過越の御業は、イスラエルを罪の奴隷状態から救い出す神の贖いの恵みを示すものであったのです。過越の出来事において、犠牲の動物の血が流されたことがその証です。

過越の恵みは、新約の主イエス・キリストにおいて成就しました。主イエスは私たちの罪のためにただ一度ほふられた犠牲の小羊です。主イエスの十字架の贖いの血潮によって、私たちが赦しの恵みにあずかりました。今十戒の前書きを聞くたびに、私たちがまたこの大いなる恵みを心に刻むのです。

神の愛の言葉

十戒は何か禁止命令のような規定というものではありません。そのことは前書きからわかります。前書きにおいて神の恵みによる救いの御業が鮮やかに示され、そこに示された恵みのもとに十の戒めが語られます。すなわち、ひとつひとつの戒めは神の愛の言葉です。わたしは独り子を十字架につけるほどにあなたがたを愛している(ヨハネ3:16)。だからあなたがたもこのわたしの愛にこたえて、これらの戒めに生きなければならない。いやきつとここに生きてくれるにちがいない。そういう神の思いが、十戒には込められているのです。

十戒は命の道を示す御言葉です。私たちは命の道を歩むことができます。キリストにあつて罪赦され、聖霊の恵みに生きる新しい人とされているからです。(木下裕也)

《参照聖句》 ガラテヤの信徒への手紙5章23節、フィリピの信徒への手紙3章21節

《教理問答》 ウェストミンスター信仰告白13章、ウェストミンスター小教理問答問35、ハイデルベルク信仰問答問86

9月5日 出エジプト記12章1～36節

【説教展開例】

十戒の心・父の愛の戒め

◇..... 単元のねらい◇

前書きは十戒全体において重要な意味をもつ。十戒が神の愛の言葉であり、救いと命に至る道であることを、前書きは明確に示す。神の恵みにより人は命を得るのだということを理解したい。あわせて聖化の恵みにあずかり、聖霊の恵みの働きを受ける中で、私たちも十戒を守り行って生きる者とされていることを確かめ合いたい。

「愛の言葉に生きる」

十戒は神さまの恵みの御言葉です。十戒に聞き従って生きることによって、天の父は私たちを命の道に導いてくださいます。ひとつひとつの御言葉を、大切に学んでいきましょう。

ところで、十戒には前書きがあります。こういう御言葉です。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」。この御言葉に続いて、十の御言葉が語られていくのです。皆さんに知ってほしいことは、前書きの言葉と十の御言葉とは深く結びついているということです。前書きの言葉を聞くことなしには、十の御言葉を理解することはできません。前書きの言葉はそれほど大事な意味をもっているのです。

前書きの言葉は、神さまが旧約聖書の時代に、イスラエルの民になされた大いなる救いの御業を思い起こさせます。イスラエルを「エジプトの国、奴隷の家から導き出」された御業です。その時神さまは、エジプトの家とイスラエルの家とを区別なさいました。イスラエルの家に対しては、家の入り口の柱には小羊の血を塗っておくように

お命じになりました。これが目印となりました。神さまはイスラエルを奴隷とし、苦しめていたエジプトの家は打たれましたが、イスラエルの家は（小羊の血を目印にして）通り過ぎていかれました。

この出来事は「過越」と呼ばれます。この出来事によって、イスラエルの罪を赦す神さまの恵みがあらわされたのです。イスラエルの民の罪を小羊の身に移す。その小羊が犠牲としてほふられることで、民の罪はすべて帳消しにされる。生まれながらに罪の奴隷であった人が、その罪の支配から解放され、自由にされ、命を得る。イスラエルはこの大いなる恵みを覚えて、祭りをして喜び祝い続けたのです。

過越の御業は、イエスさまの十字架の贖いの御業を旧約聖書の時代にあって先取りして示すものでした。イエスさまは世の罪を贖う犠牲の小羊として十字架の上にほふられました。罪なきイエスさまが、私たち罪人の身代わりとなって血潮を流され、死なれました。この尊き血潮の代価により、イエスさまを信じる者はすべての罪を赦され、永遠の命を得ることとなったのです。

十戒の前書きの言葉を聞くと、私たちは旧約聖書の時代の過越の出来事を思い起こし、そこに前もってあらわされていた罪の赦しの御業を本当の意味で成し遂げてくださった十字架のイエスさまを仰ぎます。そしてひとつのことを知ります。それは、十戒は何か禁止命令のような定めではないのだということです。十戒には「～してはならない」という言葉が続きますから、そのように思ってしまうかもしれません。けれども、ここで十戒には前書きの言葉があることを確かめてほしいのです。前書きと十の言葉とを切り離してしまわないようにしたいのです。

十戒は、神さまの愛の言葉です。神さまは独り子のイエスさまを十字架につけてくださるほどに、私たちを愛しておられます。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)。だから、神さまは私たちに言われます。このわたしの愛にこたえて、あなたがたはこれらの戒めに生きなければならぬ。いやきつとここに生きてくれるよね。

十戒は旧約聖書の時代、イエスさまが来られるよりもはるか昔の時代に語られたものなので、今はもういらないのではないかと思うかもしれません。しかし、十戒は昔も今も、そして永遠に私たちが守り行うべき命の言葉です。私たちは自力で十戒を守り行うではありません。と言うより、もはやそれは不可能です。なぜなら、私たちは生まれながらに罪人だからです。

けれども、イエスさまを信じて生きる人は十字架の贖いの恵みにより罪赦され、古い罪の人を葬られ、イエスさまと結ばれた新しい人、聖霊に生かされて生きる霊の人につくりかえられています。そしてイエスさま御自身に似せられる恵みをいただきつつ、この地上を歩んでいます。

そのような人にとって、十戒はイエスさまにあやかる道の道しるべです。命にいたる道案内です。私たちは命の道を歩み続けることができます。聖霊が私たちを守り、支え、助けて、救いの完成にいたらせてくださるのです。私たちは、この聖霊の恵みに信頼したならよいのです。

(木下裕也)

《今週の暗唱聖句》

わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。

(出エジプト記20章2節)

9月5日 出エジプト記12章1～36節

【分級展開例A】

十戒の心・父の愛の戒め

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、②③を口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

①せいしよをよんで、あいているところをうめてね。

「わたしは___、あなたの___、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した___である」（出エジプト記20章2節 旧約聖書126ページ）

②神さまはどんな方？ これだとおもうところに○をつけてね。

①わたしたちにひどいことをする、こわい方（ ）

②わたしたちをすくうやさしい方（ ）

③とおいところにいるのでわたしたちとは関係のない方（ ）

④なぜ「十戒」を守るの？ これだとおもうところに○をつけてね。

①守らないと警察につかまるから（ ）

②「十戒」が神さまからの愛のしるしだから（ ）

c. 解説

①「これは何の文かな？ 十戒の最初のところだよね」等、ただ正しい文を覚えさせるだけでなく、「それが何か」を知ってもらう。

②（正解は②）例：エジプトで無理やり働かされていたイスラエルの人たちを助け出してくださいだった神さまは、人間と関係のない遠いところにおられる方でもないし、助け出すっていうのは全然ひどいことじゃないよね。だから正解は②！

③（正解は②）例：神さまはみんなのことが大好き。一緒に歩いていく子の手をしっかりとつかんで離しません。十戒は、みんなが神さまについていくための「みちしるべ」。みんなが道に迷わないように神さまがくださった「愛してるよ！」のしるしです。だから正解はこれも②！ 神さまの「愛してるよ！」にこたえて、十戒をみちしるべにして神さまについていきます。

9月5日 出エジプト記12章1～36節

【分級展開例B】

十戒の心・父の愛の戒め

先々週から十戒についてききはじめました。

先週は「十戒の要約」、十戒の内容は大きく二つに分けられることをききました。

今日は神さまからも一言「十戒の前書き（序言）」をききます。

★十戒を私たちはなぜ守らなければならないのか。

★主なる神さまは私たちにとどのように関わってくださっているのか。

①みなさんは動物を飼ったことがありますか。

学校で飼育係をしたことのあるお友達もいるかもしれません。クマやライオンのような大きな肉食動物でも、小さな子どもの時期はとてもかわいいですね。

②それなのに、今日のお話では羊は羊でも、生まれて間もない小羊を屠ってしまう、しかもその血を家の入口に塗りました。ひどい、あんまりだ、と思うような話です。

③しかし、そうしなさいとの神さまの言葉を忠実に守ったイスラエルの民は、家の入口に塗ってあったその小羊の血が目印となって命が守られたのです。一方のイスラエルの民を苦しめていたエジプトの人々は、どうだったかといえば、王さまの一族も普通の市民も関係なく、家の入口から死が入ってしまい、その家にとっての初めての子ども（初子）は、みんな死んでしまいました。

④主なる神さまは、主のことばに聴き従ったイスラエルの民に、命を守るという救いをお与えになったのです。この小羊は、私たち主に従う民の身代わりに捧げられたのです

⑤今日の聖書箇所をきいた時、主なる神さまはずいぶん残酷だ、恐い、厳しいと思ってしまいかもかもしれません。しかし、神さまはそもそも世界のすべてを創造された方ですから、むやみやたらに小さな生き物の命だつて粗末にする方ではありません。

神さまが私たちの命を守ろうとして出された命令、そこにこめられた神さまの愛がどれほど大きなものだったのか…むしろ、そのことに驚いてほしい、そのことを覚えておいてほしいと思います。

⑥さて、そしてこのように愛してくださる神さまに、私たちは愛されている安心や信頼の気持ちをごどのようにして表してお応えしていけばよいでしょうか。

ここで十戒が大活躍してくれるのです。

私たちは大好きな人には、一緒についていきたくなるし、声をかけたくくなりますね。

十戒に従うことは、私たちから神さまへの愛を示すチャンスでもあるのです。

神さまが与えてくださった十戒に従うことは、神さまに愛されている私たちが感謝や信頼や喜びを表す方法でもあるのです。

9月5日 出エジプト記 12章1～36節

【分級展開例C】

十戒の心・父の愛の戒め

出エジプトの記事に限らず、聖書の中で、神さまが神の民を救う物語には、裁かれる罪人が登場します。今日の視点で裁かれる人々（今日の箇所ではエジプト人）に思い入れを持って見ると、神さまは、残酷な罰を下す冷酷な方に見えてしまうことがあります。救っていただいた人々に共感するようにすると良いでしょう。

イスラエルが神さまからいただいた祝福は、民の人数に現れています。

アブラハム（ハラン出発）：3人+ α （創世記12：5）

ヤコブ（エジプト下り）：70人+ α （創世記46：8～27）

モーセ（出エジプト・成人男子のみ）：60万3550人（民数記2：32）+8580人（民数記4：48）

ヨシュア（カナン入植前・成人男子のみ）：60万1730人（民数記26：51）+2万3000人（民数記26：62）

では、イスラエルは神さまに認められるような素晴らしさを持っていたのでしょうか。

アブラハムについて

「わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり」（申命記26：5）

出エジプトに際して

「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」（出エジプト3：7）

イスラエルの無自覚について

「我々はエジプトで、『ほうっておいてください。自分たちはエジプト人に仕えます。荒野で死ぬよりエジプト人に仕える方がましです』と言ったではありませんか」（出エジプト14：12）

イスラエルが決して信仰的で救いにふさわしかったからではなく、神さまが一方的に憐れみ、大きな救いを与えてくださったことを確かめましょう。

- ・私たちが与えられている恵みを思い出し、話し合ってみましょう。
（エフェソの信徒への手紙2：1～10を読んでみましょう）

9月12日 申命記6章1～15節（カテキズム問62、63）

【解説と黙想】

第一戒 神のみを神とする

十戒をひとつずつ学んでいきましょう。

本日は十戒の一つ目。今、あえて第一戒とは書かずに「一つ目」と書いた。十戒は本来は「10の言葉」が原義。そこには戒めという意味はない。英語で十戒をテン・コマンドメント（Ten Commandment）と言うが、その直訳が十戒。しかし、英語では十戒のことをデカローグ（Decalogue）とすることもある。こちらの方が本来の意味に近い。いずれにせよ、十戒はエジプトを脱出した神の民が約束の地に入るにあたり与えられた「恵みのことば」である。この点に留意したい。

それでは10ある中の最初の語りかけに思いを向けよう。そこにはこう書いてある。「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」。まず、この語りかけは「あなた」と「わたし」が問題となる。「あなた」とは神の民。今、十戒の言葉に耳と心を傾けるこのわたしであり、私たち。それは教会学校の生徒であり、保護者であり、御言葉を解き明かす教会学校の教師であるあなたのこと。その我々に、神は御語りになる。どこか遠くからではない。御言葉によって、耳に、心に、手と手が触れるがごとくに御語りになる。それが、「わたし」という神。

神が語りたもう10の言葉は、この「あなた」と「わたし」の間柄で語られる言葉である。それにしては、「他に神があつてはならない」と否定がまず語られる。考えようによってはこの言葉使いは消極的ではないか。「あなたは私の事が好き？」と聞かれて「嫌いではない」と答えたらどうだろ

う。私にはそんな経験はないが千年の恋も冷めるだろう。しかし、神が御語りになるこの否定は決して消極的なものではない。人がかかえる罪とは、してはいけないことをしようとする人間の傾向であり、神はその私たちのことをよくご存じなのである。だからこそ、神は禁止をまず語られる。それは私たちのことをよくご存じだからこそである。

「他に神があつてはならない」。そもそも、この世界には他に神がない。神はこの世界で唯一の神である。これは本来、自明のこと。しかし、この自明のことがわからないほどこの世界は倒錯し、私たちも罪によってこの真理がわからなくなっている。だからこそ、神は御語りになる。神の方から、語りかけてくださっている。神が動き、寄り添い、私たちを解放してくださる。

もし、この神の恵みの中にいるのであれば、他の存在を神にする必要は無い。しかし、神以外のものを神にするのが私たちの現実である。ハイデルベルク信仰問答の問94の答えには「謙遜と忍耐の限りを尽く」すことをこの一つ目の言葉は求めているという。神を神とするのには忍耐が求められる。この世界には神ならぬ神があふれている。また、自分自身をも神としてしまう愚かさを私たちは内包している。だからこそ、日々、十戒を告白し、十戒の言葉に耳を傾けたい。十戒を神の言葉として聞き、自らの言葉としつつ祈り、偶像礼拝に心が奪われることがないようにと神により頼みたい。

（小宮山裕一）

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答45～48、同大教理103～106、ハイデルベルク信仰問答94、95

9月12日 申命記6章1～15節

【説教展開例】

第一戒 神のみを神とする

◇..... 単元のねらい◇

十戒の背景には出エジプトの出来事がある。最初に恵みありき。十戒は戒めではなく神が与えたもう恵みの言葉。この恵みに入れられた私たちは神のみを神とする。それは神礼拝という現実になってあらわれる。神を礼拝することがすでに神を神としている。そのことを教師自身が今一度確認して子ども達と味わおう。

「唯一の主を愛する」

十戒を学んでいます。十戒は神さまが神さまの子どもである私たちに与えてくださった教えです。十戒は「〇〇してはならない」とあるので何か守らなくてはいけないものだと聞こえるかもしれません。それだとなんだか十戒を読むのが大変です。なんだかめんどくさいなあ思えるかもしれません。

でも十戒は私たちにとってめんどくさいものでも大変なものではありません。十戒は神さまがイスラエルの人々に与えた言葉です。イスラエルの人々はもともとエジプトにいました。そのエジプトで何をしていたのか知っていますか？ そう、奴隷として働いていました。大変な仕事を毎日毎日しなくてはなりません。十分なごはんもありません。とても大変だったのです。そのイスラエルの人々の大変な姿を神さまがみてくださって、人々の「助けて」という言葉を聞いてくださって、イスラエルの人々をエジプトから脱出させてくれたんです。そして、イスラエルの人々は荒れ野で過ごした後、約束の地に入るのです。

この約束の地にはすでにいろんな教えがありました。神さまのことを知らない人々

が住んでいた土地ですから、すでに人々が勝手に神さまを信じていたのです。そこで、これから新しい土地に入るイスラエルの人々が、どのようにして歩めば良いのか。それを教えるのが十戒です。だから十戒というのは何かをしてはいけないという教えではなくて神さまを信じる私たちがどのようにして歩めば良いのかを教えるものです。だから、十戒は行き先を教えてくれる地図のようなものなんです。

この十戒が全部で10あるのですが今日はその最初の一つ目です。それは「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」です。

まずこのところでは「あなた」と「わたし」とあります。「あなた」のところに自分の名前を入れてみましょう。「改革太郎にはわたしの他に神があつてはならない」。

神さまのこの語りかけは今、説教を聞いている私たち一人一人に御語りになっている。それは本当に大切な教えだから。

他に神があつてはならない。他のものを神としてはいけない、ということです。この世界には神さま以外に神さまはいません。色んな人が勝手に神さま以外のものを

神さまとして信じているだけです。神さまは聖書の神さまただお一人だけです。今日の聖書箇所にも「主は唯一の主である」と書いてあります。神さまがただお一人なんだというのです。それが、聖書の教えです。ですから他に神さまはいないし、神さま以外のものを神さまとすることはおかしいことです。でも私たちはしてはいけないことをしたくなってしまう。だから、神さま以外のものを神としたくなってしまう。それが罪人である私たちです。だから、神さまはまず、「他に神があってはならない」と教えてくれました。

この世界には偽物の神があふれています。神じゃないのに人々が神だと思っているものです。それはもう死んでしまった人、自然、お金、そして人間。これらを神としてしまう弱さを私たちはもっています。

だからわたしはいつも十戒を心にとめて神さまを第一としていかなくはなりません。でもいつも神さまを第一とすることは

できません。でも大丈夫です。それができない私たちのためにイエスさまはこの世界にきてくださって、罪のための十字架で死なれました。そして、復活したのです。イエスさまは罪のないお方でした。どこまでも神さまを神さまとしたお方でした。そのイエスさまが助けてくださる。私たちが、神さまを神さまにできるのはこのイエスさまの力があるから。自分の力ではありません。イエスさまに頼りながら、神さまを礼拝するんです。

それが、主を愛するということです。神さまに生かされるものとして神さまを第一にする。それが、私たちの生きる道なのです。

神さまを第一とするのは大変なこともあるでしょう。でもだからこそイエスさまに信頼しましょう。皆で祈りましょう。教会に集いましょう。その時、私たちは神さまを第一とする毎日を送ることができるのです。
(小宮山裕一)

《今週の暗唱聖句》

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。(申命記6：4, 5)

9月12日 申命記6章1～15節

【分級展開例A】

第一戒 神のみを神とする

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、①②を口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

①神さまはたくさんいるの？ これだとおもうところに○をつけてね。

④5人（ ） ⑤おひとりだけ！（ ） ⑥800万（ ）

②「十戒」のいちばんめ、みんなにどうしなさいっていつてるの？ これだとおもうところに○をつけてね。

⑦聖書に書かれている本当の神さまだけを信じなさい（ ）

⑧不安だったらほかの神さまをおがんでもいいよ（ ）

⑨神さまはたくさんいた方がいい（ ）

③せいしょをよんで、あいているところをうめてね。

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は_____の主である。／あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を_____しなさい。」

（申命記 6章4, 5節 旧約聖書 291ページ）

c. 解説

①（正解は⑤）例：正解は⑤です。生きておられる神さまは、聖書に書かれている神さまおひとりだけ。神社とかにいる神さまは、生きていない、人が考えて作った神さまなの。

②（正解は⑦）例：一番目は「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」だったね。「わたし」＝神さまのほかに神があつてはならない、ということは、①番の質問の答えのとおり、神さまはこの方おひとりだけ！ ということ。この神さまだけを信じなさいよ、っていうのがこの一番目の戒めです。ほかのものをおがむのは、神さまが悲しまれること。

③例：(②を受けて) このことは、聖書にしっかり書かれています。「唯一」というのは、「ただひとつ」という意味。「わたしたちの神さまは、ただおひとりの神さまです、その神さまだけを愛しなさい」ということ！

9月12日 申命記6章1～15節

【分級展開例B】

第一戒 神のみを神とする

今日からいよいよ十戒の一つ目に入っていきます。

第一戒 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない

先ほどきいた聖書箇所の中から、今日は特に「申命記6：4,5」を中心に一緒によく読んでみましょう。

①みなさんは、あれ？ なにか足りないような……って、思いませんでしたか。

「心」と「魂」とは言われているけど、身体はいらないの？ と思いませんでしたか。

「身体」はいらないのなら、神さまに従うのってすごく楽だなあ！って思いませんか。

じつは申命記が書かれた旧約聖書の時代、「心」は身体を中心（ど真ん中）にあると考えられていました。ですから「心を尽くして」というのは、身体の内にある心も含めた「身体まるごとを尽くして」という意味だったのです。

このくらいでいいか、とか、ほどほどなんかじゃなくて、神さまは私たちが心・魂・身体、自分のすべてを丸ごと注いで「力を尽くして」神さまの愛にお応えすることを望んでおられるのです。

②「力を尽くして」といえば、……

次の6節では、神さまは大人たちに指示を出しています。

子どもたちに繰り返し、ご自分のことを、教え語り聞かせなさいといわれたのです。

何をしようとか関係なく、寝ていても起きていても！ びっくりですね。

神さまは大人たちに対して「完全24時間の宿題」を出されたのです。

でも考えてみたら、子どもの君たちだって、あと〇年ですぐ大人になりますよ。

だから、神さまが大人たちに語っていることは君たちにも関係があるのです。

神さまは私たちとの関係が途絶えてしまうことのないように、大人は子どもへ、その子どもが大人になったらまたその次の子どもへ……神さまのことばを伝え続けるように、このように教えてくださったのです。

③ここで、先週きいた「十戒の前書き」をもう一度思い出してみてください。

神さまは私たちが長く生きることができるよう、命を守るために、十戒を与えてくださったのです。このような神さまはただお一人しかおられませんから、私たちは喜んではりきって、神さまがしてくださったことを次々と伝えていくのです。

第一戒から第四戒まで、このように約束してくださった神さまはどのようなお方なのか、どうお応えしたらいいのかをきいていきましょう。

9月12日 申命記6章1～15節

【分級展開例C】

第一戒 神のみを神とする

キリスト教をはじめとする聖書の宗教の特徴は「唯一神教」、つまりただ一人の神さまだけが神さまであるとして、その神さまだけを礼拝する宗教であるということです。

唯一神教の反対は、多くの神々を礼拝する「多神教」です。多神教の中には、多くの神の存在を認めつつ、その中の一人だけを礼拝する「拝一神教」があります。これは唯一神教に似ていますが、唯一神教は、そもそも一人の神さま以外の神の存在を認めません。聖書の唯一神信仰が最も明確に表れているのがこの十戒の第一戒です。

多くの神々を礼拝することの陥る状況をユーモラスに批判するのはパウロのアテネ宣教の際の「アレオパゴスの説教」での指摘です（使徒言行録17:23）。そこでパウロは『知られざる神に』と刻まれた祭壇があったことを指摘します（実際にこの祭壇はアテネで発見されています）。女神アテナを中心にギリシアのあらゆる神々を礼拝していたアテネの市民は、まだ自分たちが知らない神へも献げ物を献げなければならないと考えたのです。多神教の信仰生活が、どんなに熱心に礼拝を献げても切りがないことを示す事例と言えるでしょう。

聖書の神さまは一人です。多神教のようにそれぞれの神が役割分担をしたり、互いに牽制しあったりということはありません。どんなことでも全て、ただ一人の神さまに委ねれば良いのです。そしてその唯一の神さまの意思を妨げるものは何もないのです。

- ・いわゆる「神々」と呼ばれる物以外にも、人が神としてしまうものがあります。どんなものがあるでしょう。

ヒントとして：イザヤ31：1、エレミヤ46：25、マタイ6：24、フィリピ3：19

9月19日 出エジプト記32章1～10節（カテキズム問64、65）【解説と黙想】

偶像礼拝とは何か

【テキストの解説】

モーセが一人シナイ山で十戒をはじめとする律法を授けられている間の出来事であった（出エ31：18）。民はモーセが山からなかなか下りてこない様子からアロンのもとに詰め寄った。「モーセがどうなってしまったのか分からないから」、「我々に先立って進む神々を造ってください」と民はアロンに求めた。

アロンは口下手なモーセを助けるために召された者であったが、ここでアロンは、モーセに代わる存在（後継者）へと（神によってではなく）民によってされた。そしてこのアロンの号令により、金の子牛（偶像）が作られ、その後、この金の子牛を用いて礼拝が行われ、そこで神無き交わり（飲み食いと戯れ）がなされた。

神はこれらの重なる（偶像）行為に、怒りを燃やされるのである。

【教理の解説】

「偶像」という語は、木や石を彫るといふ動詞に由来する。木であれ何であれ、また手で彫るにしろ、心の内に何か神なる存在を作るにしろ、神は「像」そのものを禁じた。

十戒の第二戒、『あなたは、じぶんのために、刻んだ像をつくってはならない』の「じぶんのために」という言葉は、一つのキーワードである。「神のために」と思って、多くの場合、人は偶像を模倣するからである。しかしこの戒めは、どんな形であれ、神以外のものを神として拝むというその礼拝行為への禁止である。そして結局その行

為は神の目から見れば、「神のため」ではなく「自分のため」、つまり人間の勝手な神から離れた行為、また思いであることを覚えたい。ここでは神の御思い（神の教える礼拝行為）こそが大切である。

出エジプト記を見ると、どんな異教の神々をも禁じていることが読み取れる。なぜなら唯一の神は『熱情の神』、『ねたむ神』だからである。この神の性質は、人の成功をうらやむ、ねたむという意味ではなく、神の唯一性と主権を現した言葉である。

神は霊であられる（ヨハネ4：24）。御言葉をもって自らを啓示し、人格的に交わられる神であり、御子キリストを通してご自身を示されるお方である。

【黙想】

人は、これまで頼って来たものを失った時、動揺し、様々な憶測が頭をよぎり、間違った方向へ走りやすい。この様にして人間は、（神だけでは足りないかの様に）他のもので満たそうとし、奔走する様である。しかしこれこそが、神が忌み嫌う偶像行為の本質である。

神の似像として人間は創造されたので、神（絶対存在）を求めることは自然であるが、御言葉と御霊によらなければ、私たちは真に神を知ることは出来ない。

現在、コロナ禍（という恐れと不安）に私たちは在る。しかしこの様な時だからこそ、御自身を御言葉と御霊において啓示くださる神（キリストを通してご自身を示されるお方）を礼拝し、より頼み、従い歩みたい。（大木 信）

《参照聖句》 出エジプト記20章4～6節、ヨハネ福音書4章23、24節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問49～52、ウェストミンスター大教理問答問107～110、ハイデルベルク信仰問答問96～98

9月19日 出エジプト記32章1～10節

【説教展開例】

第二戒 偶像礼拝とは何か

◇..... 単元のねらい◇

十戒の第二戒で神は、御言葉（聖書）に内に定められた方法で礼拝することを求めておられる。そしてイエス・キリストの父なる神以外への礼拝行為を強く禁じておられる。これらの教えを守り、正しく従い生活することを学び取りたい。

「偶像礼拝とは何か」

①序

先生が子どもだった頃、「ミサंगा」（プロミスリング）と呼ばれるものが流行りました。プロのサッカー選手が当時からよく付けていたのです。ミサंगाは、自由に糸を組み合わせて編んだもので、このミサंगाは、元々はお守りなのだそうです。願いごとを込めて編むのだそうです。先生は、子どもの頃からサッカーをしていましたので、ミサंगाを中・高校時代、右足首に長い間付けていました。ミサंगाは切れた時に願い事が一つかなうということが言い伝えられており、先生は特にその事を信じていませんでしたが、付けるのが当時カッコイイと思っており、切れるまで付けていました。

皆さんは、占いだったり、或いはミサंगाなどのお守りを持ったりしたことがありますか。朝の情報番組を見ると朝の占いを毎日していますね。しかし、これらには十分に気をつけてくださいね。なぜなら、時として偶然にもかかわらず願いがかなう時があるからです。そのお守りや占いによって適ったかのように見える時があるからです。そうして人は、その当たった時を覚えて信じ続けるという事が起こり得るからで

す。しかし物では、決して人間を守ってはくれません。

私たちが信じている神さまは、こういった神以外のものを信じて敬ったり、拝む事をすごく嫌います。わたしだけが神なのだとして強く主張される、そういうお方です。今日の金の子牛のお話は、まさしく神以外のものを信じて拝むこと。神以外のものを神として礼拝する行為の禁止を私たちに教える箇所なのです。

②本論

今日の箇所です。まず考えたい事、それは、イスラエルの民は、この時どうして神さまから離れて金の子牛を作ってしまったのか、ということです。皆さんはどう思われますか。一つには、これまで長い間、エジプトからの脱出をもう何年にもわたって導いて来たモーセさんが、この時民と共にいなかった。これが原因ですね。「モーセが山からなかなか下りて来ない」ことから、民はすごく不安だったのだと思います。1節を見ますとこうあります。「我々に先立って進む神々を造ってください。モーセがどうなったのか分からないからです」

どうでしょうか。すごく不安な民の様子が見られますね。これまで苦しい時も悲し

い時も、そして嬉しい時もいつもこれまで信じて付いて来たモーセさんがいない。何日待っても帰って来ない。皆さんのなかにも、例えばキャンプやお友達の家にお泊りするなどで、家族に会えない、何日か離れ離れだと不安になるお友達があるかもしれませんね。今この民も同じ不安の状態だったのです。何だか分かる気がしますね。でも、だからと言って、神以外のものを礼拝してはいけません。また自分で神を作ったり、或いはたとえ心の中であっても、自分で作ったものを信じて生きていくことは、神さまから離れることです。結局、神さまの怒りをまねくことなのです。

今日の箇所では民は、その頼るべきものがないという不安から、アロンに、他に神々を造るように申し出たのでした。そしてアロンはその民の申し出を聞き入れてしまいます。民から金を集めて、それでアロンは金の子牛を造ってしまいました。そしてこの金の子牛を神とし、礼拝するようにとしてみました。民もこれを受け入れ礼拝するための準備をし、そして礼拝し、これで安心だと思ってしまいました。これこそが神以外のものを神とする「偶像」と呼ばれるものであり、偶像礼拝の正体です。

偶像はこんな風に、不安や傲慢など、人間の思いから始まるもの、人が勝手にこれからはこれを神とすると決めて生まれるものです。実際は神ではないのに、神のように持ち上げてしまうこと。力も実体もないのに、神なる存在を造り上げてそこに安心してしまうこと。こういう罪への傾きが人間には在るようですね。

偶像礼拝には、当たり前ですが私たちの信じる神はおられません。また、神なる力も存在しません。人がただ、「神だ」と思っ

て言っているだけの空しいものです。ですから、いくら祈っても、願っても、いくら賛美しても、そこには神はおられない。答えてくださる神はおられないのです。

6節を見ますと、民による神なき礼拝がなされ、神無き飲み食いがなされ、神無き交わりが繰り返されています。ここには、神が我々と共にいない時の生活の空しさが表されていますが、私たちの日常生活は、こんな空しいものではありません。私たちの日常生活の些細な事柄の一つ一つに、いつもインマヌエルの神がおられること、導いておられることを覚えてお思います。

7節以下を見ますと、その民たちの偶像礼拝の姿に、神が激しく怒りを燃やしておられる姿を見られます。私たちも神無き生活をすれば、神が怒りを燃やされる、この事を心に留めておきたいと思えます。神は私たちに怒りを燃やされるほどに私たちを高価で尊い者として扱ってくださる。愛しておられる。出エジプト（不安や試練からの解放）へと導かれるほどに、私たちを愛しておられるのです。だからこそです。神無き生活をもしするならば、たちまち怒りを燃やされる方だという事を心に留めたく思えます。

③結論

私たちの神さまは、空しい偶像の神々とは全く違います。祈っても何もできない、賛美にも答えない無力な神とは違います。聖書の言葉を通して、御自身を現してください。私たちの祈りを待っておられ、その祈りを聞き入れてくださる方です。私たちの讃美歌を喜んでくださいます。つまり答えてくださる神です。決して空しいままでは終わらない、生き生きとした交流がそこにはあるのです。

私たちは、不安や厳しい試練の中にずっといますと、「本当に神はおられるのか」と疑い迷う時があると思います。特に去年からの様なコロナ禍に在りますと、「神さま、まだこの時は続くのですか」と思う時があります。これは本当に私たちの心からの叫びなのですが、だからと言って、そこで神ならぬものを神として、安住することは神さまご自身がお嫌いなことです。なぜ神ならぬものを神とするのか、わたしでは不十分だとも言いたいのかと、怒りを燃やされるのです。

最後に、神さまはイエスさまを通して、

御自身を現してくださいました。そしてイエスさまは、神さまの御心を私たちにも分かる様に行為でもお示してくださいました。イエスさまは、十字架の死に至るまで神に従順を貫かれ、そしてこの地上の歩みの中で、御言葉の下にその身を置き続けられました。この主の従順のお姿こそ、私たちの礼拝行為と日々の歩みの先例です。私たちも、このイエスさまに倣って御言葉の下にその身を置き続けたいと思います。神に喜ばれる礼拝生活を通して、更には日々の歩みの献身を通して、自らをお献げしたいと思います（ローマ12：1）。 （大木 信）

《今週の暗唱聖句》

神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。
（ヨハネによる福音書4章24節）

9月19日 出エジプト記32章1～10節

【分級展開例A】

第二戒 偶像礼拝とは何か

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年が中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

これだとおもうところに○をつけてね。

①「十戒」のにばんめ、みんなにどうしなさいっていつてるの？

①自分たちで神さまの形を勝手につくっちゃだめ！（ ）

②じぶんの好きな形の神さまをつくっておがんでいいよ（ ）

②どうして「いかなる像も造ってはならない」んだろう？

①像をじょうずに造れるかわからないから（ ）

②神さまは目に見えないお方で、好き勝手に形をつくってはいけないから（ ）

③アロンさんが金のおうしをつくったとき、どうして神さまはおこったんだろう。

①牛よりねこのほうが好きだったから（ ）

②まちがったれいはいをしたから（ ）

③じぶんは牛よりもっとかっこいいとおもったから（ ）

c. 解説

①（正解は①）例：像っていうのは、たとえば○○神社のこまいぬとか、○○公園の銅像みたいに、人の手で造ったもの。そういうものを神さまの形にして拝んではいけないんだよっていうこと。なので正解は①。

②（正解は②）例：神さまを見たことある人いる？ いらないよね。神さまは目に見えない、「霊なるお方」。そのお方の形を私たちが勝手に考えて造ってははいけません。なので正解は②。

③（正解は②）例：この教会に、金の牛やそれ以外でも、拝むための像があるの見たことある？ ないよね。この時のアロンさんたちのように自分たちが作った形のものを拝むのは、聖書が教える「正しい礼拝」ではありません。だから正解は②。

9月19日 出エジプト記32章1～10節

【分級展開例B】

第二戒 偶像礼拝とはなにか

第二戒 あなたはいかなる像も造ってはならない

今日の聖書箇所は有名なところで「金の子牛事件」と呼ばれることもあります。

この時モーセは神さまと語り合うためにシナイ山に上っていました、そして十戒の板をいただいて帰るところでした。

さてこの聖書箇所をみんなでよく読んでみましょう。

たしかに初めから終わりまでずっと大騒ぎが起きていますね。

たくさん心が揺れてぶつかり合っていて、読んでいると目が回りそうです。

だれが、どんな気持ちで、なにをしたのでしょうか。

その登場人物になりかわって、説明してみてください。

★登場人物 主なる神さま モーセ アロン 民 レビ

★登場したもの 十戒の板 金の子牛 金の耳輪

★気持ち・行動（やったこと）

与える 愛する 怒る なだめる（執り成す・謝る・赦しを願う） 叩き割る

いいわけをいう 不安に思う 要求する 裏切る 従う 祝福をうける

☆カードを作って手に持ちながら語る方法もあり。

教師が事前に作成、あるいは、白紙カードを用意しておき子どもたちと当日書いてもよい。

（説明例）

神さまはイスラエルの民を愛してくださっていたからモーセを呼んで十戒の板を直筆で書いて与えてくれた。それなのに民は裏切って金の耳輪を使って金の子牛を造り、神さまに仕立て上げてしまった。山の上から神さまは民に怒った、もちろんモーセも怒った。

民はモーセが神さまのところから帰ってくるのを待ちきれず、不安でしかたなくて、アロンを責め立てわがままを言って、神を見せろ、自分たちを安心させろと要求したのだ。

おまけにアロンもアロンで、金の子牛は金を火に投げ入れたらできただけ、とモーセにいいのがれをした、本当はアロンが民に呼び掛けて金の耳輪を出させて作ったのに……。

モーセが怒るのもしかたがない「一緒に民を率いていくアロンまで！」って。でも、ここまで言うことをきかないにもかかわらず、モーセは民を愛していたので「どうか民を赦してください」と民になり代わって神さまにお願いをした。……

もしそこにいたら、私たちが全く同じことをしてしまいそうな気がしませんか。

第二戒は、しっかりとこの事件を自分のこととして覚えておくことにしましょう。

9月19日 出エジプト記32章1～10節

【分級展開例C】

第二戒 偶像礼拝とは何か

教派によっては、この第二戒を、第一戒「わたしの他に何者をも神としてはならない」すなわち「異教礼拝禁止」と一緒に扱う人々もおります。「偶像礼拝の禁止」と「異教礼拝の禁止」は重なる部分も多いですが、違う戒めです。

偶像とは、目に見えない方、無限の方、創造者である主を、目に見えるもの、有限のもの、被造物で表現し、それをういて礼拝することです。

今回の聖書箇所で、アロンは金の子牛像を造り、「これこそあなたをエジプトの国から導き上ったあなたの神々だ」（出エジプト32：4）と言っています。アロンがどういう理解で何をしようとしていたのかはわからない部分もありますが、全く別の神さまを造り出したというよりは、「エジプトから導き上ってくださった神さま」を子牛の姿で表そうとした要素はあるでしょう。

真の神さまではない、神々と呼ばれるものを礼拝するのはもちろん偶像礼拝ですが、真の神さまを礼拝していると言いつつ、何かの像を使うのも偶像礼拝です。

目に見えない方を信頼し、その方が無限の愛を絶えることなく豊かに注いでくださっていることを常に確信し続けることはそれほど簡単ではありません。何か目に見えるイメージで神さまを表すと、その素晴らしさを実感しやすいですし、自身の状況に関わらず、神の存在を確認しやすいように思えるでしょう。しかし同時に、どんなイメージを使っても「無限の創造者」を表現することはできませんし、そもそも目に見えない方を目に見えるイメージで表現すること自体が間違いなのです。

具体的な神像に限らず、神さまが願わない方法で神さまを礼拝しようとする行為全てが偶像礼拝としてこの戒めで禁じられています。（ウエストミンスター小教理問答問51参照）

- ・偶像礼拝となってしまう危険性について、どんなものがあると思いますか。考えてみましょう。

9月26日 出エジプト記3章1～22節（カテキズム問66、67）【解説と黙想】

第三戒 神の御名

神の御名、ヤハウエ（YHWH）という名は、特に信実で、慈しみ深い方として登場する時に聖書に記された名前である。この名前は、イスラエル以外では決して使われることのない、イスラエルの神固有の名前であり、創世記だけで135回用いられていて、既に族長時代からよく知られている名前であった。したがって出エジプト記3章は、ヤハウエという名前の由来について書かれているのではなく、イスラエルの民が普段使用している「ヤハウエ」という名前の意味について、主ご自身が説明されている箇所であろう。

この名前は15節で「とこしえの名」と同時に「隠された名」として紹介されたため（ヘブル語では二つの単語が同音である）、読み方がアドナイ（主）に置き換えられてしまい、次第にどのように呼んでいたのか忘れ去られてしまったと思われる。

モーセは40歳の時、エジプトから離れ、ミディアンに逃れた。そこで40年間、舅の羊を飼いながら過ごした。それまでの王宮での栄光に満ちた40年と対比される。エジプト人は牧畜業を軽蔑していた（創46：34参照）。ある日、モーセがミディアンの荒れ野から羊を奥へ追いやり、神の山ホレブ（シナイ山）に到達すると神が80歳になるモーセに燃える柴を通して語りかけてくださった。柴とは、どこにでも生えている茨を意味し、ホレブとは荒廃した、乾燥したという意味である。モーセの現在を象徴しているかのようなのである。しかし、神が臨在されるならそこは聖なる場所となる。

10節でモーセは神から、イスラエルをエジプトから解放する者としての召しを受けるが、モーセは躊躇する。この時、せめて40年前であれば、エジプトの王子という身分もあり、体力も知力も十分であったが、今や一介の羊飼いに過ぎないと思い、躊躇したのではないだろうか。「何でこんな時に、何でこの最悪のタイミングで」と思ったに違いない。モーセは何の権威によって遣わされたのか説明できるようにしてほしいと質問した。神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と答えられ、「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主」であることを強調する（6節、15節、16節）。「わたしはある」というヘブライ語は、一人称単数未完了形であり、ある事柄の継続した状態を意味し、その状態は過去、現在、未来のいずれにも用いることができるので、「わたしは存在していた」「わたしは存在している」「わたしは存在を続けるであろう」のすべての意味になる（ギリシア語ではエゴーエイミー）。つまり、モーセに現れた神とは、何か新しい神ではなく、モーセに馴染みがあり、イスラエルの民に大変良く知られている先祖たちの神であると言っているのである。「わたしはある」とは、ご自身の民を決して捨てたり、離れたりすることなく、今も、そして未来永劫、変わることなく、共にいてくださり、最初であり、最後であり、信実で、常に存在し、岩のようなお方であるという意味であり、私たちはこの方にこそ安らうことができる。（川栄智章）

《参照聖句》 詩編5章12節、イザヤ63章16節、ヨハネ6章20節、6章48節、8章12節、10章7節、14章6節、15章1節、18章6節

《教理問答》 子どもと親のカテキズム問6

9月26日 出エジプト記3章1～22節

【説教展開例】

第三戒 神の御名

◇……………単元のねらい……………◇

イスラエルにおいて名は本質を表すと考えられていた。神の御名も、やはりその方の本質を表しているが、その名の読みは忘れ去られてしまい、現在「ヤハウエ」とか「エホバ」とか、いろいろと提案されているが、それはあくまでも便宜上の発音に過ぎない。ヤハウエとは、信実で慈しみ深い方として登場する時に、聖書に記された神の名である。その意味「わたしはある」は、ご自身の民を決して捨てたり、離れたりすることなく、今も、そして未来永劫、変わることなく、共にいてくださり、岩のようなお方であるという意味であり、私たちはこの名に愛と親しみをもち、この名に安らうよう、召されている。

「いつまでも変わらずに信頼できるお方」

①エジプトの王子モーセ、羊飼いのモーセ

昔、エジプトにモーセさんという王子がいました。モーセさんはエジプトの奴隷であったイスラエル人でありながら、エジプトの王女によって拾われて、王子として育てられました。でも、モーセさんは自分の体にイスラエルの血が流れていたことを知っていました。だから、普段、当たり前のように仲間のイスラエル人がエジプト人によって苦しめられている状況を見るのがとても辛かったんだね。40歳になったある日、モーセさんはイスラエルをエジプトから救い出したいという思いから、一人のエジプト人を殺しました。ところがイスラエル人は、モーセを、自分たちを救ってくれる指導者として認めることはなかったんだ。この時、モーセさんはとても寂しかったと思うよ。また、エジプトからも裏切者と見做されるようになって、もう、どうしようもなく、モーセさんはエジプトを離れ、荒れ野に逃げて行きました。モーセさんは、荒れ野に住む民に受け入れられ、そこで羊飼いのとして暮らして行く事になったんだよ。でもモーセにとっては、このお仕事は

とても大変なお仕事でした。というのは、エジプトで育ったモーセさんにとって羊飼いの仕事というのは、本当に貧しい人々がする仕事と考えられていたからなんだ。その仕事を40年も続けたんだね。本当に悔しい40年を過ごしたと思うよ。モーセさんの人生とは、最初のエジプトでの40年と、それからの荒れ野での40年と、ものすごく大きなギャップがありました。ここが大事ですよ。モーセさんは、エジプトにおいて華々しい、豊かな生活が保障されていたのだけど、その豊かさとは、結局、仲間のイスラエルの苦しみによって成り立っているものだったので、その生活を手放したんだけど、それを手放した途端、一気に人生のどん底にまで突き落とされてしまったんだね。

②モーセの召命

モーセさんが荒れ野を奥へ奥へと羊を追っていき、いつの間にかホレブの山に到着しました。そしてふと見ると、柴の木が燃えているのに気づきましたよ。その柴は燃え尽きることがありません。とても不思議だったので、もっと近づいてみると、燃える柴の中から神さまが「モーセよ、モー

せよ」と語りかけてくださいました。そして「ここは聖なる場所だから、履物を脱ぎなさい」と神さまが言われました。神さまはエジプトの奴隷となっているイスラエルの民の悲痛の叫び声を聞かれ、イスラエルを解放するために、モーセさんをエジプトに遣わすと言われました。この言葉を聞いてモーセさんは喜んだのでしょうか。いいえ。モーセさんは折角の神さまの提案ですが、わたしには無理ですと、神さまの召しを断ろうとしたんだよ。せめて40年前であれば、エジプトの王子という身分もあり、能力もあり、頭の回転も速かったかもしれませんが、今や80歳になる自分は、一介の羊飼いに過ぎない、ということだと思うよ。きっと「何でこんな時に、何でこの最悪のタイミングで！」と思ったんだろうね。

しかし、神さまの働きとは、モーセさんの力によって左右されることはありません。茨のような何の価値もない柴の木に、神さまが臨在すると、いつまでも燃え尽きないで、光り輝くことができるように、また荒廃したホレブの山に神さまが臨在すると聖なる場所になるようにです。神さまはご計画の中で40歳のモーセさんを用いようとはされず、あえて、茨のような80歳のモーセさんを用いようとしたんだろうね。

③わたしはある

モーセは、神さまに抵抗して言いました。「イスラエルの民は、『お前を遣わしたお方とはいったい誰なのか、その名は何というのか』と聞いてくるでしょう。その時に何と答えたらいいでしょうか」。すると、神さまは言われました。『わたしはある。わたしはあるという者だ、あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコ

ブの神である主が、わたしをあなたたちのもとに遣わされた』と言いなさい」。

モーセさんは最初、神さまが何を言っているのかさっぱりわからなかったと思います。「わたしはある」？ とは、いったいどういう意味でしょうか。神さまは昔、アブラハムの時代に、アブラハムと共にいてくださいました。そして時は移り、イサクの時代にも、やはりイサクと共にいてくださいました。さらに時は移って、ヤコブの時代にも、変わらずにヤコブと共にいてくださいました。そしてモーセが40年前にエジプトから離れて荒れ野に逃れた時にも、神さまはそこに共にいてくださり、80歳になった今も、神さまは共におられるという意味です。人間は時間と共にうつり変わりますが、神さまは決して変わることなく、ご自身の民と共にいてくださり、守ってくださるお方なのです。

新約聖書の、特にヨハネによる福音書では、イエスさまが、ご自身を指して何度も「わたしはある」と言われました。たとえば、弟子たちが湖を船で渡っている時に嵐にあり、船が沈みそうになった時に、イエスさまが湖の上を歩いて来られて、弟子たちの船に乗り込まれて、弟子たちに「わたしだ（エゴージェイミー）。恐れることはない」。と言いました。弟子たちは何度もイエスさまの「わたしだ」「わたしはある」という言葉を聞いて、その度に心から安心しました。この変わることはないお方がいつでもモーセと共におられ、みんなと共におられるんだね。みんなもこの名に愛と親しみを持ち、この名に安らうよう、召されているだよ。 (川栄智章)

《今週の暗唱聖句》

神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと」（出エジプト記3章14節）

9月26日 出エジプト記3章1～22節

【分級展開例A】

第三戒 神の御名

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年が中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、②③を口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

- ①せいしょをよんで、あいているところをうめてね。（旧約聖書 出エジプト記3章14節）
神はモーセに、「わたしは_____。わたしは_____という者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしは_____』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」
- ②「主の名をみだりにとなえてはならない」ってどういうことだろう？
これだと思うところに○をつけてね。
- ④A 神さまの名前を冗談や悪口につかってはだめ（ ）
B 都合のいい時に神さまの名前を出してみんなをおどろかそう（ ）
C 神さまの名前は隠しておかなければいけないので絶対呼んではだめ（ ）
- ③神さまのお名前を呼ぶのはどんな時？ これだと思うところに○をつけてね（いくつでも！）
A ころをこめてお祈りをするとき（ ）
B とってもうれしくて神さまに感謝するとき（ ）
C 神さまのことだいすき！ という気持ちがおさえられないとき（ ）

c. 解説

- ①例：私たちが信じている神さまは、正体不明のよくわからない神さまではありません。神さまはちゃんと、「わたしはある」とご自分の名前を教えてくださいました。しかも、私たちと一緒にいてくださる（12節）心強い神さまです。
- ②（正解はA）例：神さまのお名前は、神さまご自身。ふざけて「お前なんか神さまの罰が当たるぞ！」とか「神さまが言ったことにすれば、みんな自分の言うことを聞くぞ」なんて気持ちで神さまの名前を使っちゃダメ。だから正解は、A。
- ③（ぜんぶ正解）例：お祈りの時に「神さま」「天のお父さま」って呼び掛けるよね。心を込めて神さまを愛してお名前を呼ぶのは大正解！ だから、②のCのように隠すのも×。

9月26日 出エジプト記3章1～22節

【分級展開例B】

第三戒 神の御名

第三戒 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない

- ①みなさんは学校へ行く途中や習い事のみちすがら、寄り道をしたことはありませんか。

[例] わたしは小学生のころ登校途中に、遠くになんだか気になる物が見えて、よそのおうちの土地の柵を勝手によじのぼり、その酪農家の広い牧草地を横切ってその物体を見に行ったことがありました。(結果：放牧中に生まれた子牛と困っていた母牛)

教会学校の先生たちも、子どものころ同じようなことをしたことがあると思います。

- ②今日の聖書箇所のもーせの様子は、なんだかそういう時の私たちに似ています。

こういうことはまず、好奇心から始まります。

好奇心から、道をそれてしまう。

そして好奇心のままに、見たいものを追いかけてしまうのです。

- ③もーせはこの時、よりによって、神さまの土地を知らずに踏みつけるという罪を犯してしまっていました。

好奇心のままに勝手に神さまの土地に入ってしまう、みだりに、どすどすと神さまの土地を踏みつけていたのです。

しかしもーせはわざわざ何だろうと見に行っただのに、そこにおられるのは主なる神さまだとわかると、神さまを見ようとはしませんでした。

神さまを好奇心で見るなんて、その時のもーせでもやはり、できなかったのです。

- ④そしてもーせはこの時、主なる神さまから苦しんでいる民を救うために遣わすと告げられます。なんと彼は、そのことばを受け取りました。見ることもなく信じたのです。

わたしはあなたと共にいるという神さまのことばを、信じたからです。

見て信じたではありません。

「わたしはある」というお名前だと言ってくださった神さまからのことばを、もーせは信じた、ということです。

- ⑤好奇心いっぱいでもーせは神さまの土地に入ってしまったけれど、神さまのお名前をきいて疑ったり、むやみに口にしたりすることはありませんでした。

- ⑥第三戒は、私たちと共にいてくださる主なる神さまからの愛に答えて、私たちも尊敬と信頼を込めてお名前に呼びかけるようにと教えてくれています。

そしてもちろん、主なる神さまに愛されている私たちは、尊敬をこめた親しきでなんでも語りかけることもゆるされているのです。

9月26日 出エジプト記3章1～22節

【分級展開例C】

第三戒 神の御名

日本語の聖書でも「主」と訳されている言葉は「ヤハウェ」(YHWH)という単語です。これが聖書の神さまのお名前(固有名詞)であると理解されています。この語は「神聖四文字」と呼ばれます。

ユダヤ教徒は、第三戒を理由にこの名詞を発音せずに、沈黙したり、他の単語で置き換えて読んだりしました。置き換えに使われたのは、旧約で「神」という普通名詞である「アドナイ」(ʾADNY)という言葉でした。長い間読まれなかった結果、紀元前後には「YHWH」の発音は失われてしまいました。

中世以降、ヘブライ語聖書に朗読のための母音記号が付けられるようになると、神聖四文字にはアドナイ(ʾaDōNaY)の母音記号が付けられました。「YəHōVaH」と表記された結果、「イエホヴァハ」という発音が使われるようになりました。文語訳(明治元訳)聖書などで「エホバ」と訳されているのはここから来ています。その後、死海写本の研究などから、神聖四文字が「ヤハウェ」(YaHhWeH)と発音するというのが定説になっています。

洋の東西を問わず「名」はその存在の内的本質、人格と結びつきます。「名を呼ぶ」とは、相手を把握し、その本質を掴み、その働きを利用できることを意味します。その意味では神さまがご自身の名前を人(モーセ)に教えたことは、ご自身を提供してくださったというとても大きなへり下り、人への恵みであると言えます。

与えられた恵みとしての「神の名」を畏れと敬愛を込めて「呼ぶ」べきであり「むやみに呼んではならない」と戒めるのはこの意味です。

- ・ユダヤ教の態度は正しい戒めの守り方とは言えません。どんな生活態度がこの戒めの正しい守り方と言えるでしょう。

7月4日

まだ真夜中であつたが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗つてやり、自分も家族のものも皆すぐに洗礼を受けた。この後、二人を自分の家に案内して食事を出し、神を信じる者になつたことを家族ともども喜んだ。

【使徒16:33, 34】



7月11日

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取つて食べなさい。これはわたしの体である。」

【マタイ26:26】



7月18日

信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたの内におられることが。 【コリント二 13:5】



7月25日

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にあるのである。 【マタイ18:20】



8月1日

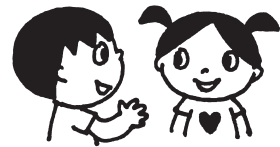
主に感謝せよ。主は慈しみ深く人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。

【詩編107:15】



8月8日

御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。 【ヤコブ1:22】



8月15日

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。 【マタイ5:9】



8月22日

主は契約を告げ示し、あなたたちが行うべきことを命じられた。それが十戒である。主はそれを二枚の石の板に書き記された。 【申命記4:13】



8月29日

イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。 【ヨハネー3:16】



9月5日

わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。

【出エジプト20:2】



9月12日

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

【申命記6:4, 5】



9月19日

神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。

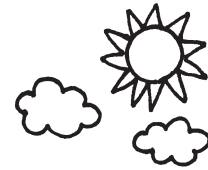
【ヨハネ4:24】



9月26日

神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」といわれ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと」。

【出エジプト3:14】



2021年10～12月カリキュラム (第83号)

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第2年—

月 日 教会暦・行事	子どもと親のカテキズム		参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
10月3日	第四戒 主の日の安息	問68、69	ウ小57-62
		ルカ6:1-11	ヘブライ10:25
安息日に神さまの愛を味わう			
10月10日	第五戒 父母を敬う	問70、71	ウ小63-66
		テサロニケ-5:12-15	エフェソ5:1
神さまが与えて下さった人間関係を大切に			
10月17日	第六戒 殺すな	問72、73	ウ小67-69
		創世記4:1-16	マタイ5:22
自分も他の人も愛する			
10月24日	第七戒 姦淫するな	問74、75	ウ小70-72
		マタイ18:18-20	創世記2:18
神さまが造られた秩序、神さまとの約束を大切に			
10月31日	第八戒 盗むな	問76、77	ハイデ110、111、ウ小73-75
		マタイ25:14-30	ルカ19:8
神さまからいただいたものを大切に			
11月7日	第九戒 偽証するな	問78、79	ウ小76-78
		列王記上21章	エフェソ4:25
聖霊に生かされ、神さまの真実に生きる者となる			
11月14日	第十戒 むさぼるな	問80、81	ウ小79-81
		マタイ6:25-34	テモテ-6:8
私たちが満たしてくださる神さまに信頼を置く			
11月21日	憐れみを求めさせる戒め	問82	ハイデ114、115、ウ小82、ウ大149
		ルカ18:18-30	ローマ7:25
十戒を通して、イエスさまの赦しの憐みに依り頼む生活へ			
11月28日 待降節	神の愛の戒めを喜ぶ	問83	ウ小87、ウ告白16:2、ハイデ114、115
		フィリピ3:12-16	フィリピ3:12
戒めは私たちへの愛の導き			
12月5日	キリストの誕生の予告	—	—
		マタイ1:1-17	創世記22:18
待降節神の約束が守られ、その約束通りにキリストがお生まれになる			
12月12日	キリストの誕生	—	ウ小22、ハイデル35、36
		マタイ1:18-25	マタイ1:21
待降節キリストはまことの人となるほど私たちを愛される			
12月19日 降誕祭	博士たちの礼拝	—	—
		マタイ2:1-12	マタイ2:11
神さまの導きに素直にしたがいたい主を礼拝する			
12月26日	祈りの手本、主の祈り。 祈りとは何か	問84	ウ小99、ハイデ118
		マタイ6:7-15	マタイ6:8
祈りはすべてをご存知の神さまに対する私たちの応答			

大会教育委員会

「教会学校教案誌」

継続発行のための

50万円 自由募金のお願い

弊誌のためにお祈りとご購読をもってお支え下さいます事を、心から感謝するとともに御礼を申し上げます。

大会教育委員会の重要な使命と任務は、日本キリスト改革派教会独自の教案を作成することです。そのために委員会は、なにより「内容」を磨くことに全力を注いでおります。しかしそのためには、教案誌の「安定的発行」が不可欠です。

かつて執筆者には1000円の図書券を贈呈し、最低限の礼を尽くしてまいりました。現在は、何の御礼もさしあげていません。ひとえに誌代を維持したいからです。ギリギリの厳しい状況がつづいています。自由募金に積極的にご参加ください。

教会だけではなく、個人としてのご協力をも伏してお願い致します。

Soli Deo Gloria!

※ 購読申し込みは、西堀 元（熊本伝道所：✉ boribori89@gmail.com）

〒862-0924 熊本県熊本市中央区帯山2-13-74 ㊚フックス (096)382-7630

お問い合わせは、相馬伸郎 (iwanoue@me.ccnw.ne.jp) まで。

目標金額 50万円

送金先 郵便振替 00190 - 4 - 451670

日本キリスト改革派教会大会教育委員会

大会教育委員会 出版物ご案内



神さまと共に歩む道

「子どもと親のカテキズム」解説

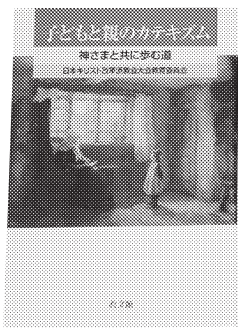
牧田吉和・監修

聖書の信仰を「神さまと共に道を歩む」という動的な概念で位置付けたユニークな信仰問答として親しまれている「子どもと親のカテキズム」。そのカテキズムを信仰的対話の土台として用いるための最良の手引き。(帯より)

定価：2,000円

(改革派内の方は消費税分・送料無料)

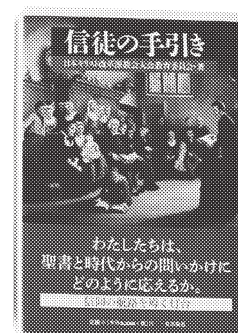
既刊書籍



子どもと親のカテキズム

— 神さまと共に歩む道 —

定価：500円



信徒の手引き

定価：2,200円

(改革派内価格：2,000円)

申し込み先：rcjkyoiku@gmail.com

〈あとがき〉

●午前の二部制の礼拝式とライブ配信から1年が経とうとしています。それ以外は、「コロナに負けない教会！」を合言葉に、基本的にこれまで通りの活動を継続しています。ただし「負けない」という言葉にまつわる危険性もわきまえています。歴史的パンデミック下なのですから、これまで通りに行かないのが「当たり前」なのです。「できること」は、最善を尽くしたいと思います。同時に、「まあ、仕方がない」とあきらめることも大切かと思えます。これを「判別する知恵」を祈り求め続けます。いずれにしても正解はないのだらうと思えます。諸教会を主がお守りくださいますように。

(相馬伸郎)

●三回にわたりました小澤路華姉の「障がいある子どもたちに注がれる主の愛」は今回で終了です。次号はまた別の方に執筆をお願いしております。

教会がその本質からしてあらゆる方を受け入れる場所であるように、まずは知ることが必要と思います。次に求められるのは他人事ではなく、自分のこと、自分たちの教会のこととして考えることです。教会で、教会学校で皆で話題とするきっかけになればと願います。

●教会学校を開くことができなくなってから、一年半近くになります。少しずつ続けていた子どもたちのイベントもずっと開くことができずにいます。中高生への対応、幼児への対応も棚上げです。求道中の子どもたちももう一年以上顔を見ることができていません。子どもに対するにも限らず、教会の働きかけは、時を捉えることが必須です。「その時」がいつであるかはわかりません。何度も何度も声をかけて、ある日

かろうじて響くものです。この一年逃したタイミングが何度あったか、その時を捉える工夫をしきれなかったことは、神さまにお詫びしなければならないことです。

その上で、神さまは必ず捉えてくださるはずだという確信を持ち続けて、小さな働きを続けたいと思います。(長田詠喜)

※バックナンバーを御希望の方は下記までご連絡ください。

長野佐久伝道所 牧野信成

〒385-0051

長野県佐久市中込3-9-1

Tel & Fax : 0267-62-2409

E-mail : rcjnaganosaku@gmail.com

執筆者一覧

まえがき

望月 信 (鈴蘭台教会牧師)

巻頭説教

中根汎信 (中部中会引退牧師)

障がいある子どもたちに注がれる主の愛(3)

小澤路華 (高知教会)

執事職について (2)

吉田 実 (但馬みくに伝道所宣教教師)

これからの教会学校 次の世代に期待して

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

献身のすすめ Go To 神学校!

吉田 隆 (神戸改革派神学校校長)

信仰告白のあかし もしもイエスさまだつ

たら……

瀧元真祈 (高島平キリスト教会)

教会学校訪問 山田教会

高内信嗣 (山田教会牧師)

イラスト作画

表紙 中村未生 (春日井教会・IBUKI)

高橋乃亜 (湘南恩寵教会・IBUKI)

聖句カード

岡野美佳 (青葉台キリスト教会)

聖書黙想・説教展開例

大木 信 (西鎌倉教会牧師)

大宮季三 (芸陽教会牧師)

小澤寿輔 (高知教会牧師)

柏木貴志 (岡山教会牧師)

川栄智章 (せんげん台教会牧師)

木下裕也 (岐阜加納教会牧師)

國安 光 (園田教会牧師)

高内信嗣 (山田教会牧師)

小橋口貴人 (那加教会牧師)

小宮山裕一 (綱島教会牧師)

二宮 創 (太田伝道所宣教教師)

袴田清子 (灘教会)

宮武輝彦 (男山教会牧師)

分級展開例

伊藤穂波 (四日市教会)

木下奈緒子 (岐阜加納教会)

金エノク (徳島西部教会定住伝道者)

草野容子 (恵那教会)

小堀尚美 (花小金井教会)

長谷川はるひ (新潟伝道所定住伝道者)

長田詠喜 (新所沢教会牧師)

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

編 集 部

相馬伸郎 (長)

名古屋岩の上教会牧師

牧野信成

長野佐久伝道所宣教教師

長田詠喜

新所沢教会牧師

西堀 元

熊本伝道所宣教教師

小川 洋

高松教会牧師

日本キリスト改革派 大会教育委員会 『教会学校教案誌』 第82号

2021年7・8・9月号 (季刊)

2021年6月1日発行

発 行

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

発行所

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

名古屋岩の上教会 牧師 相馬伸郎

〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012

Tel/Fax 052-895-6701

郵便振替口座

00190-4-451670 「日本キリスト改革派教会大会教育委員会」

編集・印刷 株式会社あるむ

頒価 900円 (本体価格)

Reformed Church in Japan
Board of Education